

< 自主研究 >

駿河湾を震源とする地震に関する調査

調査報告書

平成 21 年 10 月

 **株式会社** サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

駿河湾を震源とする地震に関する調査
調 査 報 告 書

平成 21 年 10 月

 株式
会社 サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

目 次

I 調査概要

1 調査目的	1
2 駿河湾を震源とする地震の概要	1
3 調査概要	2
4 調査協力	2
5 報告書を読む際の留意点	2

II 調査結果のまとめ

調査結果の概要（東洋大学社会学部 教授 中村 功）	3
---------------------------	---

III 調査回答者の属性

調査回答者の属性	7
----------	---

IV 調査結果

1 地震発生時の状況	9
2 地震直後の情報入手	27
3 東海地震関連情報	31
4 東海地震に対する意識	43
5 地震への備え	46
6 行政への要望	69

V 調査票（単純集計結果）

調査票（単純集計結果）	71
-------------	----

VI 自由回答

自由回答	83
------	----

サーベイリサーチセンターの業務案内

I

調査概要

I. 調査概要

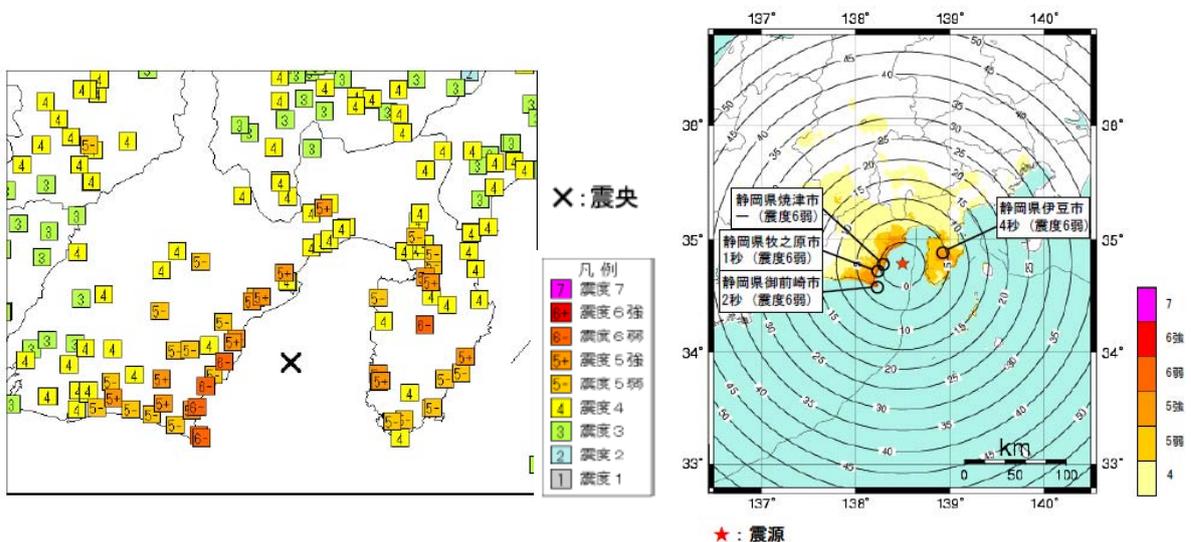
1 調査目的

平成21年8月11日5時7分ごろ発生した、駿河湾を震源とする地震について、東海地震関連情報の認知状況や東海地震に対する住民の意識、地震に対する備えの現状を把握することで、今後の防災対策の基礎資料として提供することを目的として実施した。

2 駿河湾を震源とする地震の概要

平成21年8月11日5時7分ごろ、駿河湾の深さ23kmを震源として、マグニチュード(M)6.5の地震が発生し、静岡県伊豆市、焼津市、牧之原市、御前崎市で震度6弱、静岡県静岡市、東伊豆町、松崎町、西伊豆町、伊豆の国市など10市町村で震度5強を観測したほか、中部地方を中心に、東北地方から四国地方にかけて震度5弱～1を観測した。この地域で震度5弱以上を観測したのは、平成13年4月3日に発生した静岡県中部地震(M5.3)のときの、静岡市で震度5強を観測して以来であり、東海地震対策が進んでいる静岡県内でも8年ぶりの大地震となる。

なお、この地震に対し、気象庁は「東海地震観測情報」を発表している。「東海地震観測情報」の発表は、平成16年1月に情報体系が変わり、「東海地震解説情報」から「東海地震観測情報」に名称が変わって以来、初めてのことである。



震度分布図

一般向け緊急地震速報を発表した地域及び
主要動到達までの時間

※ 図は気象庁ホームページより転載

3 調査概要

(1) 調査地域

震度6弱の地域（伊豆市、御前崎市、焼津市、牧之原市）及び震度5強の静岡市

(2) 調査対象

調査地域に居住する20歳以上の男女個人

(3) 調査方法

インターネットリサーチパネルを対象としたWEBによるクローズド調査

(4) 有効回収数

799サンプル（震度6弱の地域 361サンプル／震度5強の静岡市 438サンプル）

(5) 調査項目

- 地震発生時の状況（居場所／していたこと／揺れがおさまるまでどうしたか）
- 被害状況（家屋の被害／家の中の被害）
- 地震直後の情報入手（知りたかった情報／情報を知るために役立った媒体）
- 東海地震に関連する情報（「東海地震観測情報」等情報の認知有無）
- 東海地震に対する意識（東海地震に対する不安程度／東海地震の発生予想）
- 地震への備え（地震に対する備えの具体的内容／家具の固定有無／耐震診断・耐震補強） など

(6) 調査期間

平成21年8月12日（水）～ 8月13日（木）

4 調査協力

本調査は、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター田中淳教授をはじめ、須見徹太郎特任教授、大原美保准教授、東洋大学社会学部中村功教授、関谷直也専任講師、東京大学大学院学際情報学府博士課程地引泰人氏、修士課程小林秀行氏より、多大な協力を得て実施した。

5 報告書を読む際の留意点

- 図表中のnは回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- 回答比率（％）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100%にならないことがある。
- 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100%を超える。
- 性・年代別や対策実施度別の分析では、基数が少ないために、標本誤差が大きくなり厳密な比較をすることが難しい場合がある。その場合は、得られた回答の割合の傾向をみる程度にとどめる。

II

調査結果のまとめ

II. 調査結果のまとめ

東洋大学社会学部教授 中村 功

(1) 今回の地震について

2009年8月11日午前5時7分に、駿河湾を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生した。震源は23キロと比較的浅く、伊豆市、焼津市、牧の原市、御前崎市などで震度6弱の強い揺れを観測した。また東伊豆町、松崎町、西伊豆町、伊豆の国市、富士宮市、静岡市、袋井市、菊川市などで震度5強を観測した。

この地震により、死者1人（本の下敷きによる）、重傷19人、軽傷299人の人的被害が発生し、住宅の被害としては、全壊0、半壊5、一部破損7,346、火災3棟の被害が発生した（消防庁調べ2007.9.3）。

さらに静岡県内では土石流2か所、地滑り1か所、がけ崩れ31カ所の土砂災害が発生した。東名高速道路は、牧の原サービスエリア付近で路面が落ち、15日24時まで長時間にわたって通行止めになり、帰省客に影響を与えた。

情報面では、地震の3分後の5時10分に津波注意報が発表され、5時13分には焼津で-0.6mの引き波を観測し、御前崎では5時46分に最大0.4mの津波を観測している。

また、7時15分、9時10分、11時20分、3回にわたって「観測情報」が発表された。観測情報の発表は2004年1月に現在の方式となって以来はじめてのことである。そのうち11日午前11時20分の発表では、「今回の地震は想定される東海地震に結びつくものではないと判断しました。」としている。

この地震は、マグニチュード8レベルの、想定される東海地震ではなかったが、ほぼ同じ地域で起きた大きな地震であり、東海地震へ備える意味で重要な意味を持っている。

(2) 調査結果

家具転倒防止・落下物

そこにおけるポイントは3つある。第1は、家具の転倒や落下物といった室内被害への対策である。今回の地震では家屋の全壊がなく、室内被害が中心であり、死亡した1人も室内被害によるものであった。今回の地震は、その対策の効果をあぶりだし、さらなる対策のきっかけとなる可能性がある。

転倒物や落下物による被害は、最近の地震では、けがの原因の多くを占めていて、たとえば、東京消防庁の分析によると、「家具類の転倒」や「落下物」によるけがは、けが人の3～5割に上っている。

けがの原因中、「家具類の転倒」および「落下物」によるものの割合（％）

新潟県中越沖地震	能登半島地震	福岡西方沖地震	新潟県中越地震	十勝沖地震	宮城県北部地震
40.7	29.4	36.0	41.2	36.3	49.4

東京消防庁防災部防災課「家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック」より

II. 調査結果のまとめ

それに対する対策は、家具の固定である。今回の調査では地震前に「家具が倒れないように固定していた」とした人は60.3%であった（問26）。これは能登と半島沖地震（25.3%）や中越沖地震（38.4%）と比べても高く、この地域は全国的にみると対策が進んでいるといえる。

ただ細かく見ると（問28）、家具の大部分を固定しているという人は17.4%で、一部固定している人が42.9%と、固定は一部にとどまっている。また2年前（2007年）の静岡県による県民意識調査と比べて（当時は大部分固定が10.0%、一部固定が52.7%と固定率は62.7%だった）固定率に進歩が見られない、といった課題もある。

家具を固定しない理由を尋ねると、「手間がかかるから」「賃貸・借家だから」という回答が多かった。前者に対しては、固定を業者に委託し、藤枝市のように、その費用を公的に負担するという対策が有効である。また後者については、固定のためにあける釘穴等は退去時に原状回復の対象としない、というルールを確立することが重要である。国土交通省住宅局は「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」を出しているが、そこでの明記が求められる。

今回の地震における家具固定の効果だが、地震の揺れがそれほど激しくなかったためか、今回の調査では、微弱な傾向がみられたただけであった。すなわち、固定をした人としなかった人を比べると、家族でけがをした人は、固定した人が0.8%、固定していない人が1.6%と、わずかに固定の効果がみられた。また転倒物・落下物の被害はなかったとした人は固定ありの人で20.1%、固定なしの人で24.6%と、ここでもわずかな効果がみられた。ただタンス食器棚の転倒は固定のあるなしにかかわらず2.5%と差はみられなかった。

今回の地震は、震度6の地震にしては犠牲者が少なかったといわれるが、それは振動の周期や継続時間が短かったためで、家具の固定が進んでいた効果とはいえないといえる。

家具の固定別の被害の割合（%）

	けがをした	タンス・食器棚転倒	冷蔵庫転倒	本や食器の落下	落下転倒の被害なし
固定あり	0.8	2.5	0.2	35.9	20.1
固定なし	1.6	2.5	0.3	33.8	24.6

今回の地震を経験して、新たに行った・または行おうとしている対策を尋ねたところ、全体では30.8%の人が家具の固定を挙げている。また家具の固定をしていない人では49.1%が「今回の地震を経験して家具の固定を考えている」と答えている。この機会を逃さずに、家具固定の促進策をとるなどして、固定率を上げることが重要である。

東海地震関連情報

ポイントの第2は、東海地震関連情報についてである。東海地震は予知体制が整っている、わが国で唯一の地震である。1978年に成立した大規模地震対策特別措置法では、東海地震予知情報が出されると総理大臣により警戒宣言が発表され、交通機関がストップするなど、社会活動が大幅に制限されることが定められた。予知情報は判定会で決定されるが、判定会が招集された時点で「判定会招集連絡報」が関係機関に流れ、防災体制準備のきっかけとされた。その後1999年にこうした体形の一部手直しがおこなわれ、「予知情報」に加え、東海地震との関連性が不明で続報に注意すべき「観測情報」と、関連性はない「解説情報」が出されるようになった。ここで観測情報には、危険性が高い場合と低い場合が含まれていた。この体系はさらに2004年にさらに改訂され、「予知情報」のほかに、危険度のやや高い「注意情報」と危険度の低い「観測情報」の3種類が出されることとなった。危険度に幅があった「観測情報」が「注意情報」と「観測情報」

に分かれたことで、危険度の順に「予知情報」→「注意情報」→「観測情報」と整理され、わかりやすくなったのである。

これらの情報について、知っているかを尋ねると、「言葉は知っているが、内容までは知らない」という人が多かった。たとえば、今回出された「東海地震観測情報」については、52.1%が「言葉は知っているが、内容までは知らない」と答え、「内容まで知っている」人は19.9%、「言葉も内容も知らない」人は28.0%であった。他の「注意情報」「予知情報」なども同様の傾向だが、2004年に新設された「注意情報」については、言葉も内容も知らないという人が32.8%とやや多くなっている。これらの情報は聞いたことはあるが、それが意味する危険性の段階までは、まだ周知されていないようである。

今回の地震が東海地震に結びつくものではないとの発表については、ほとんどの人（96.7%）が知っていたが、素直に安心した人は16.6%と少数で、「東海地震に結びつくものではないが引き続き注意すべきものである」と警戒を続ける人が66.6%と最も多かった。

そもそも東海地震の予知可能性については、65.3%と多数の人が「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」と考えており、そのことが気象庁の出す情報にかかわらず、警戒すべきだ、という態度につながっていると考えられる。人々のこうした態度は、予知情報をやや過小評価しているともとれるが、予知には科学的不確実性があること、そして防災的観点からみて、健全なものといえるだろう。

低調だった津波避難

ポイントの第3は、津波避難である。中央防災会議の試算では、東海地震では最大9,200人の死者が想定されているが、そのうち1,400人は津波による死者である。東海地震では、家屋倒壊とならんで、津波に最大限の注意が払われなくてはならない。静岡県での推定では、想定される津波の高さは最大で9.3mで、第1波は早いところでは地震後わずか5分で襲来する。東海地震では発生する津波は、大きいうえに地震直後に襲うため、津波危険地域にいる人は、地震が起きたら一刻も早く高台に避難する必要がある。

今回の調査では、全体の22.7%の人が津波危険地域にいたと答えている。危険地域にいた人が地震直後津波避難行動をとったかを調べたところ、「すぐに避難した」という人はわずか3.3%にとどまった。また「避難の指示がでたらすぐに避難するように準備した」という人ですら23.2%しかいなかった。逆に最も多くの人が出た行動は「テレビやラジオから津波情報を得ようとした」であった。前述のように東海地震では地震とほぼ同時に津波が襲うため、避難の指示を待ったり、津波警報を確認してからの避難では間に合わない可能性が高く、この調査結果は極めて憂慮する事態といえる。

すべての情報は、自治体の広報やテレビ・ラジオ等を通じて住民の方に伝えられます。

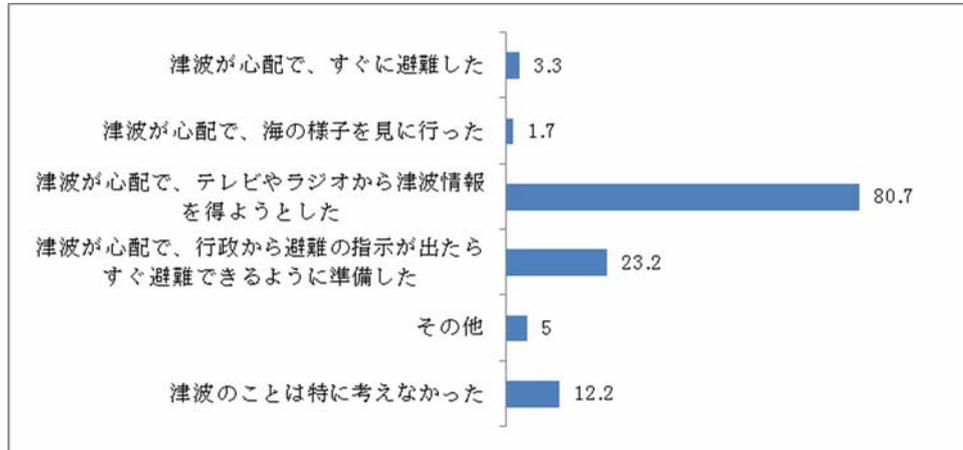
情報名	主な防災対策
東海地震観測情報 <small>観測された現象が東海地震の前兆現象であると直ちに判断できない場合や、前兆現象とは関係がないことがわかった場合に発表されます。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災対応は特にありません。 ●国や自治体等では情報収集連絡体制がとられます。 <p>住民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、平常通りお過ごし下さい。</p> <p>(防災準備行動開始)</p>
東海地震注意情報 <small>観測された現象が前兆現象である可能性が高まった場合に発表されます。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ●東海地震に対処するため、以下のような防災の準備行動がとられます。 <ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じ、児童・生徒の帰宅等の安全確保対策が行われます。 ○救助部隊、救急部隊、消防部隊、医療関係者等の派遣準備が行われます。 ●気象庁において、東海地震発生につながるかどうかを検討する判定会が開催されます。 <p>住民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、政府や自治体などからの呼び掛けや、自治体等の防災計画に従って行動して下さい。</p>
東海地震予知情報 <small>東海地震の発生のおそれがあると判断した場合に発表されます。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ●「警戒宣言」が発表されます。 ●地震災害警戒本部が設置されます。 ●津波や崖崩れの危険地域からの住民避難や交通規制の実施、百貨店等の営業中止などの対策が実施されます。 <p>住民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、東海地震の発生に十分警戒して、「警戒宣言」及び自治体等の防災計画に従って行動して下さい。</p>

各情報発表後、東海地震発生のおそれなくなると判断された場合は、その旨が各情報で発表されます。

3種類の東海地震関連情報（気象庁ホームページより）

Ⅱ. 調査結果のまとめ

ちなみに、今回の調査で津波危険地域にいた人は、焼津市（36.5%）、牧之原市（22.7%）、御前崎市（9.4%）など、東海地震の震源域にきわめて近い人が多く、その上、津波危険地域にいた人の半数以上（56.4%）は、地震が起きた時「東海地震が発生した」と感じたのである（問4）。だとするならば、こうした人々は、地震発生時に、情報に関係なく、何はともあれ避難行動を開始するべきだったといえる。



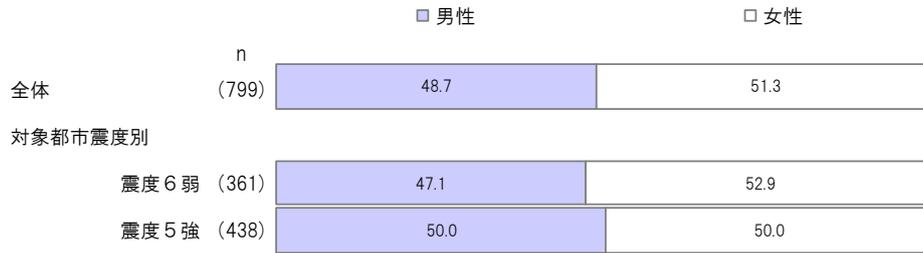
津波危険地域にいた人の行動



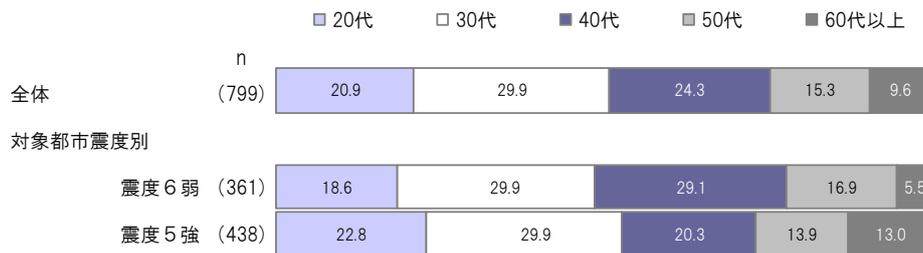
調査回答者の属性

Ⅲ. 調査回答者の属性

(性別)



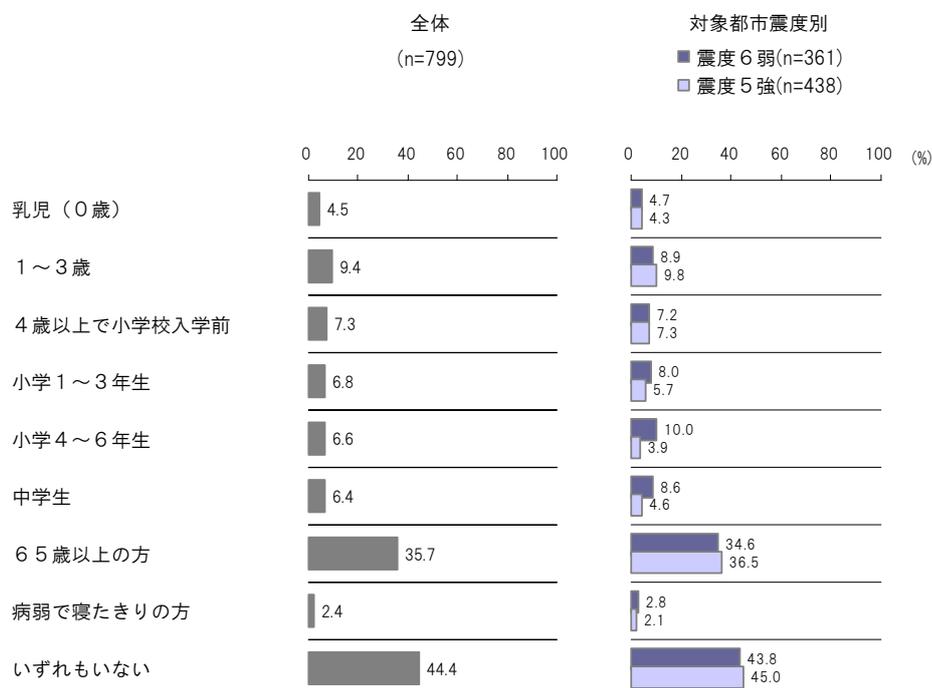
(年代)



(職業)

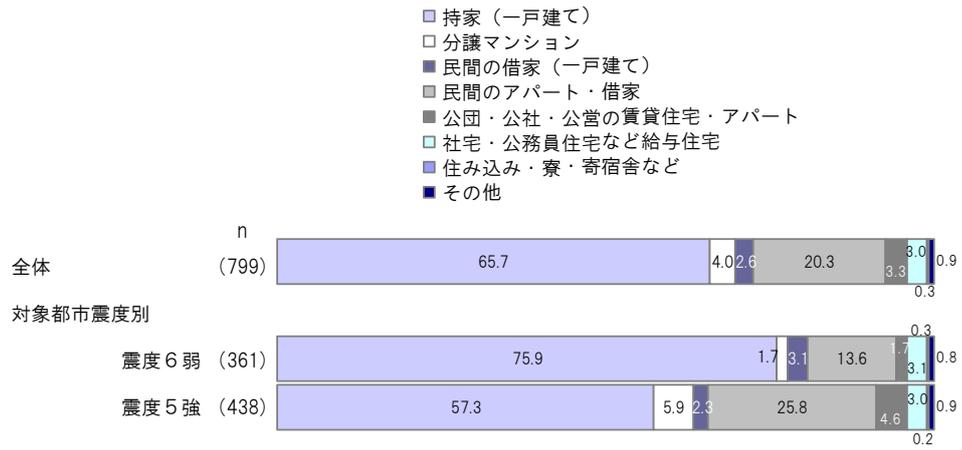


(同居家族)

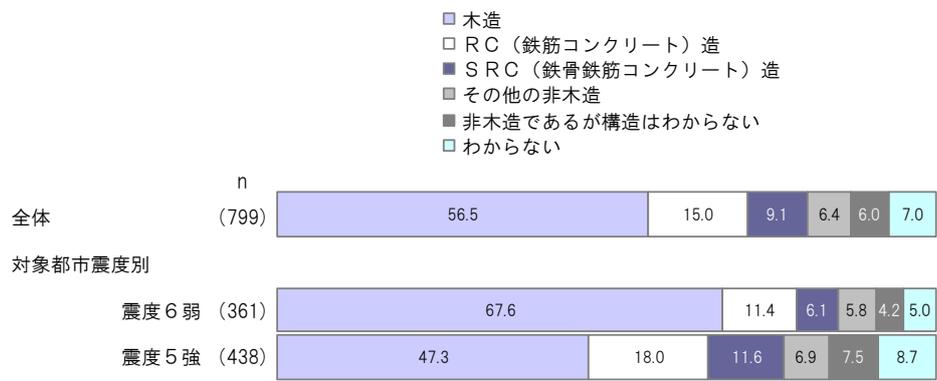


Ⅲ. 調査回答者の属性

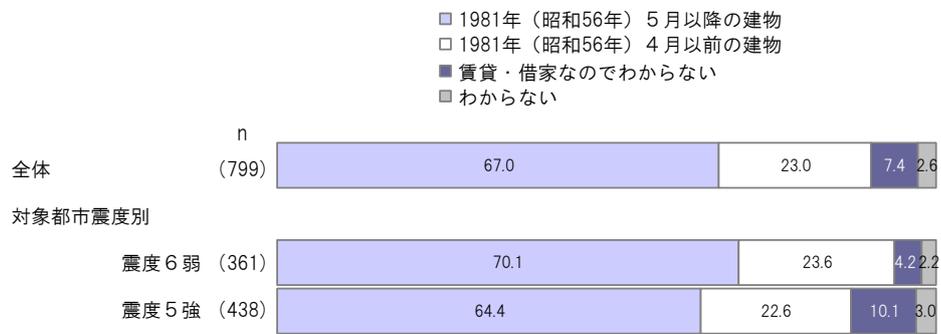
(住居形態)



(住居構造)



(建築年代)



IV

調查結果

IV. 調査結果

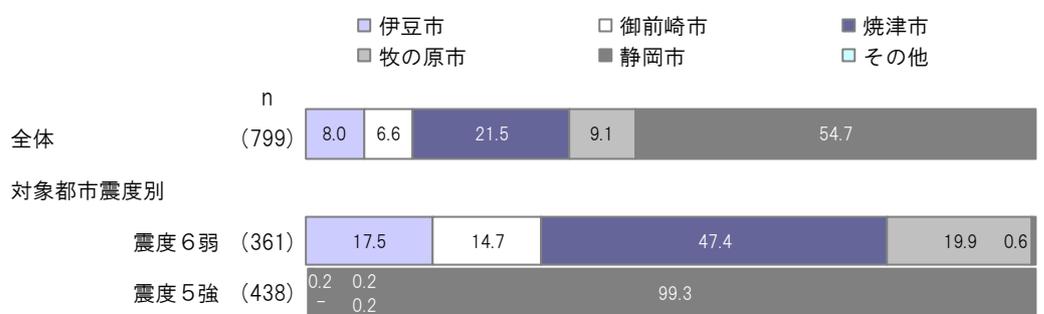
1 地震発生時の状況

(1) 地震発生時の居場所

①地域

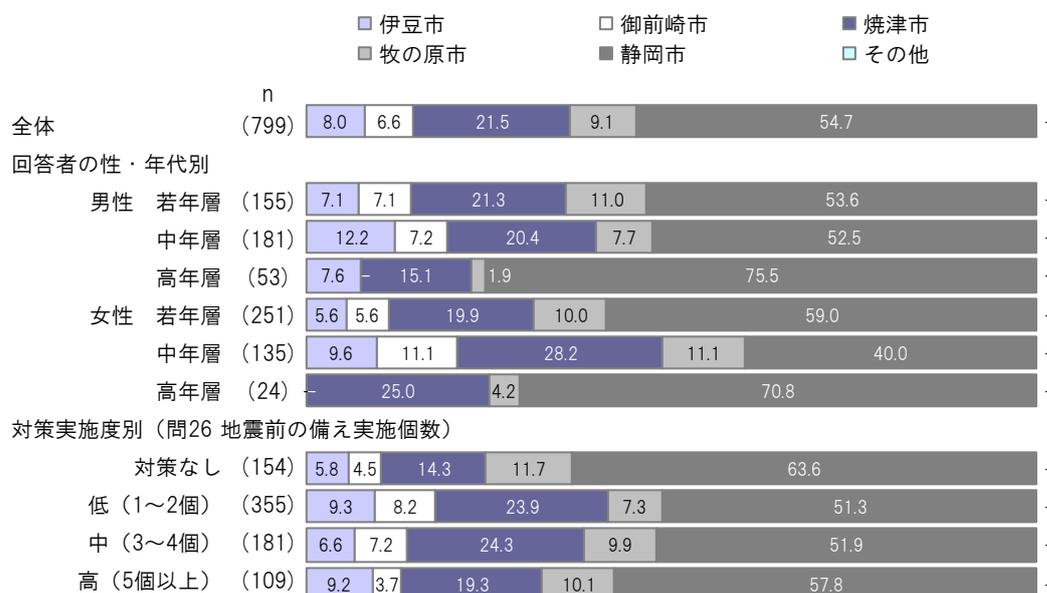
地震発生時に居た場所はほぼ居住地

問1 平成21年8月11日(火)5時7分頃、駿河湾を震源とする(深さ23km)M6.5の地震が発生しました。あなたは、この地震が発生した時にどの地域にいましたか。



地震が発生した時にいた地域は、「静岡市」(54.7%)、「焼津市」(21.5%)、「牧の原市」(9.1%)、「伊豆市」(8.0%)、「御前崎市」(6.6%)となっている。

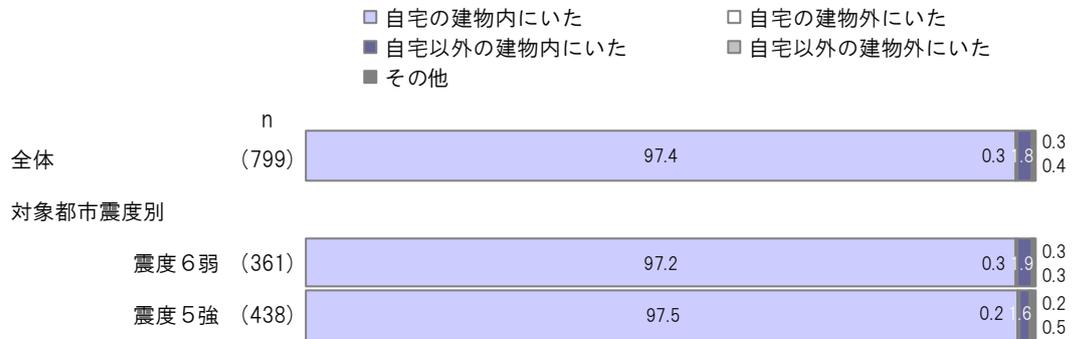
性・年代別／対策実施度別



②場所

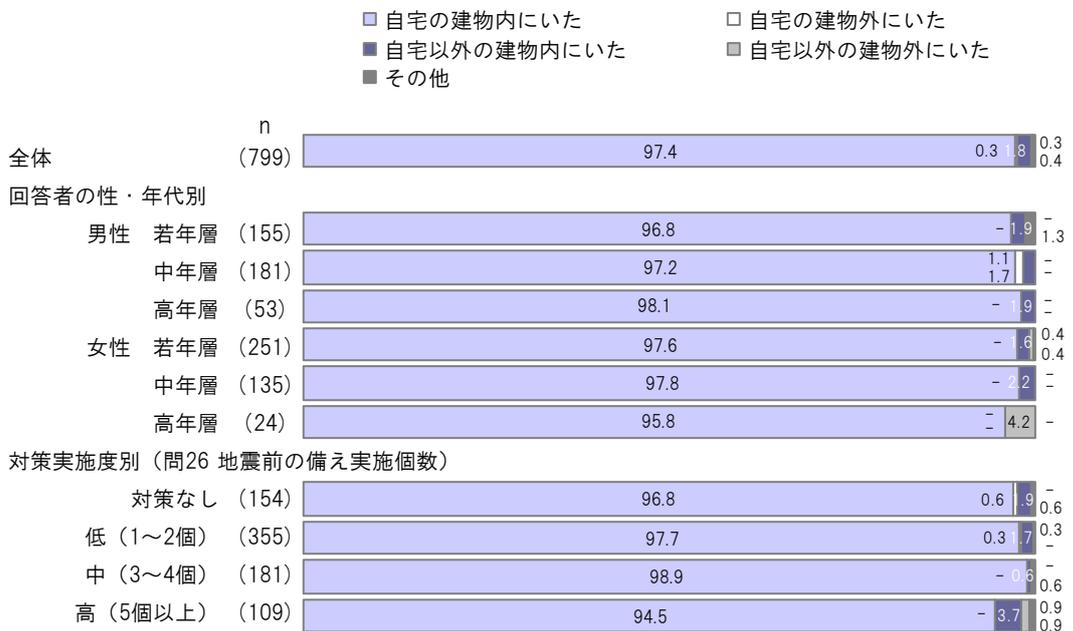
「自宅内にいた」が大半

問2 あなたは、この地震が発生した時にどこにいましたか。



地震が発生した時にいた場所は、地震が発生した時間が5時7分頃だったためか、「自宅の建物内にいた」(97.4%)との回答が最も高く大半を占めている。

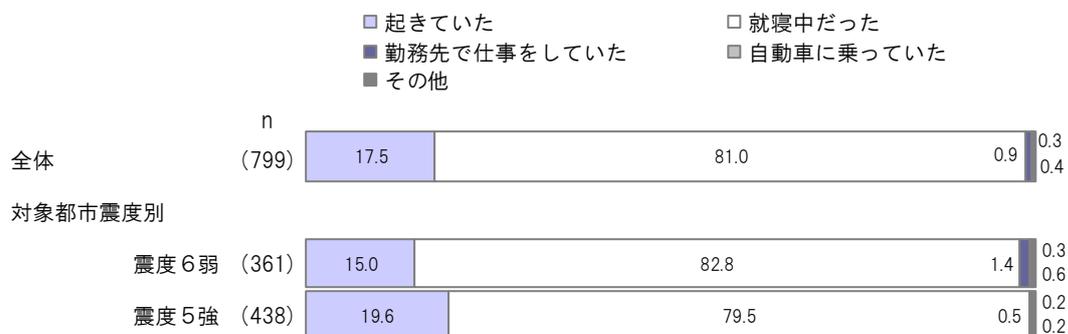
性・年代別／対策実施度別



(2) 地震発生時の行動

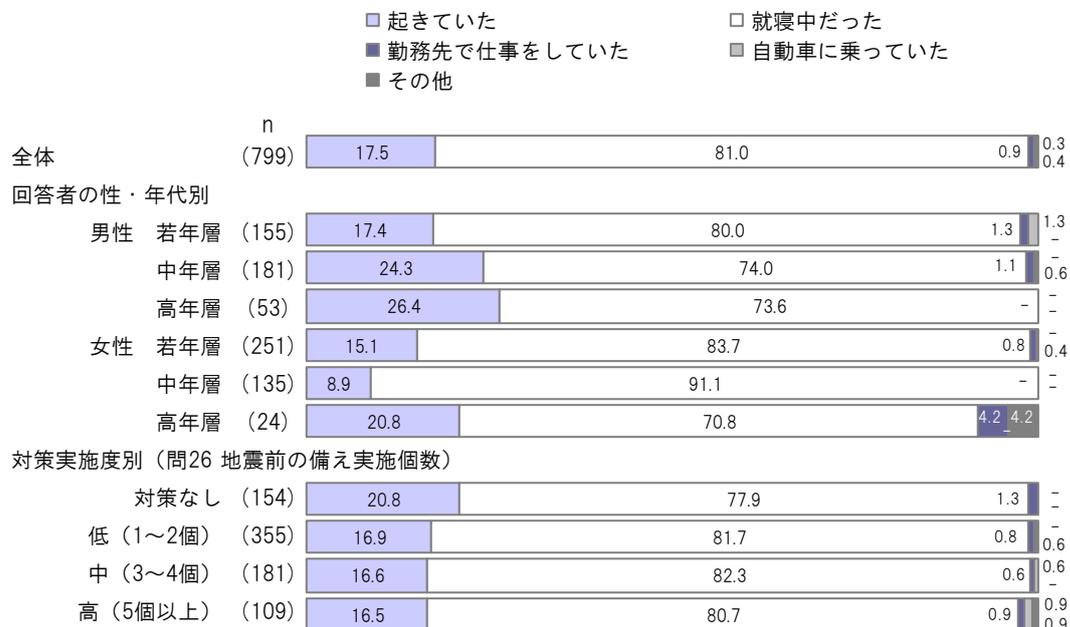
「就寝中だった」が8割強

問3 あなたは、この地震が発生した時に何をしていましたか。



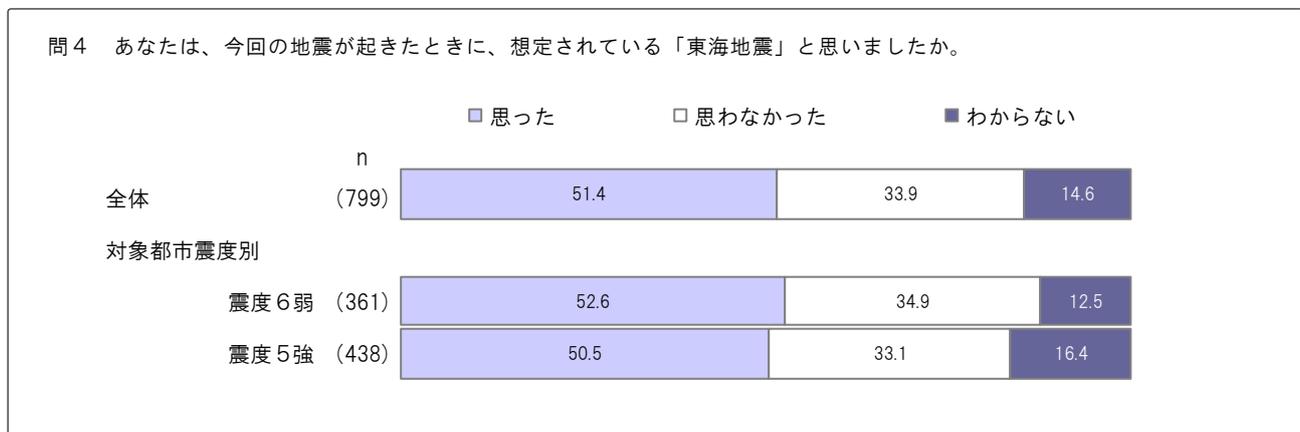
地震が発生した時何をしていたかを尋ねたところ、地震が発生した時間が5時7分頃だったためか、「就寝中だった」(81.0%)との回答が最も高く8割強を占めている。

性・年代別／対策実施度別



(3) 地震発生時、「東海地震」と思ったか

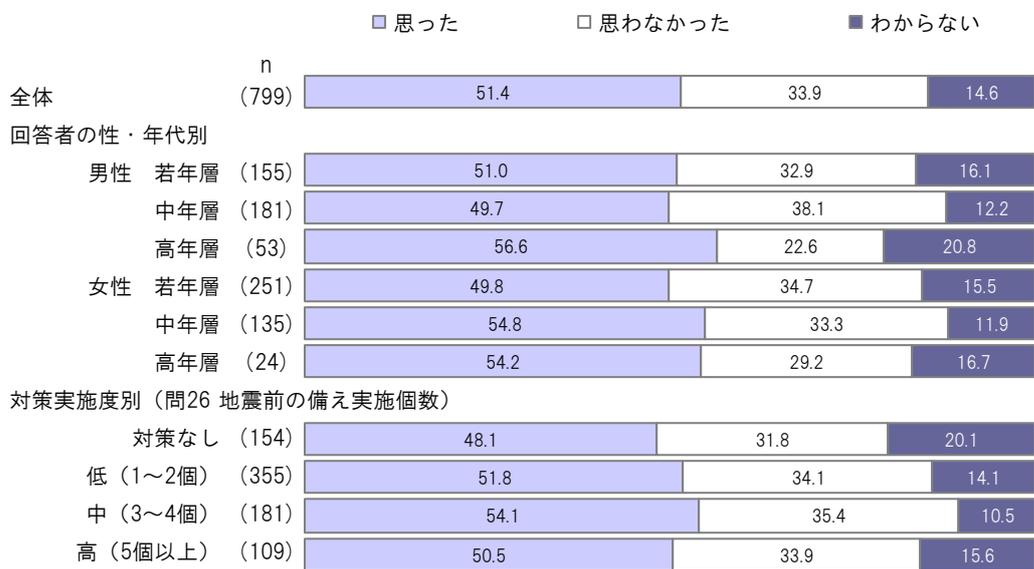
想定されている「東海地震」と「思った」が過半数



今回の地震が起きたときに、「東海地震」だと思ったかを尋ねたところ、「思った」(51.4%)との回答が過半数を占めている。

性・年代別にみると、「思った」との回答は男性・高年層(56.6%)で5割台半ばと高くなっている。

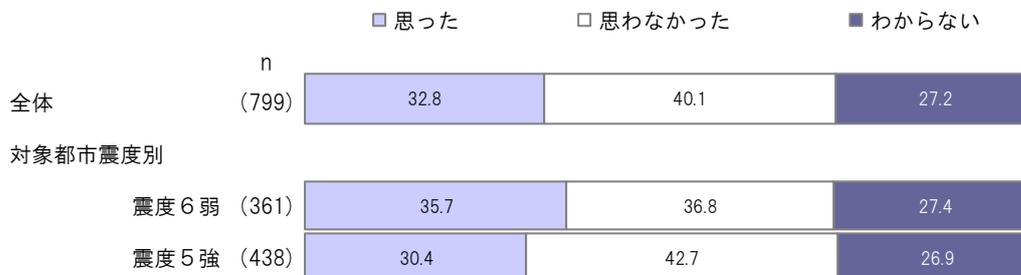
性・年代別／対策実施度別



(4) 地震後の「警戒宣言」発表について

発表されると「思った」が3割強

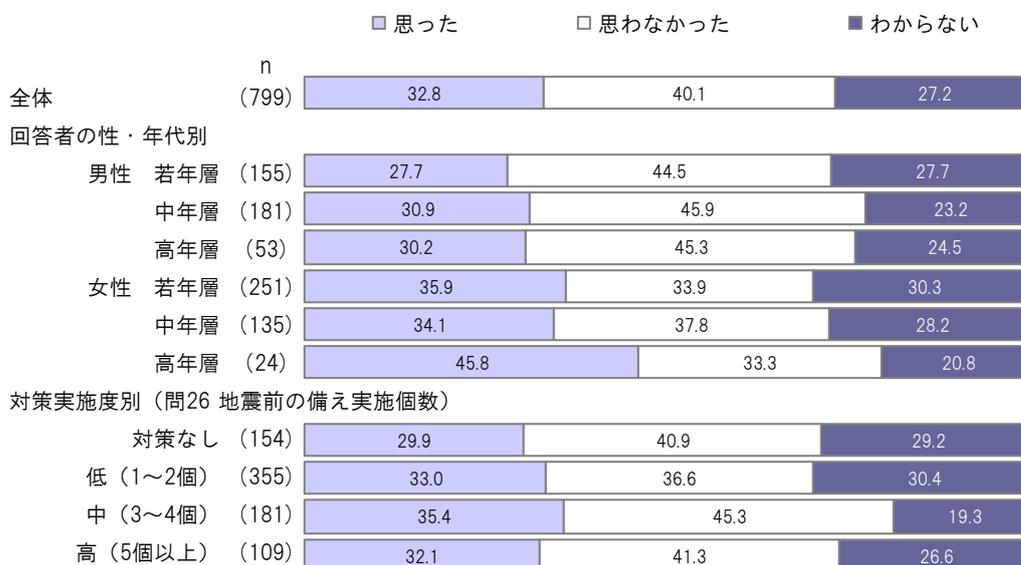
問5 あなたは、今回の地震のあとに「東海地震」の「警戒宣言」が発表されると思いましたか。



今回の地震のあとに「東海地震」の「警戒宣言」が発表されると思ったかを尋ねたところ、「思った」(32.8%)は3割強となっている。また、「思わなかった」(40.1%)との回答が最も高く4割を占めている。

性・年代別にみると、「思わなかった」との回答は男性・中年層(45.9%)と男性・高年層(45.3%)で4割台半ばと高くなっている。

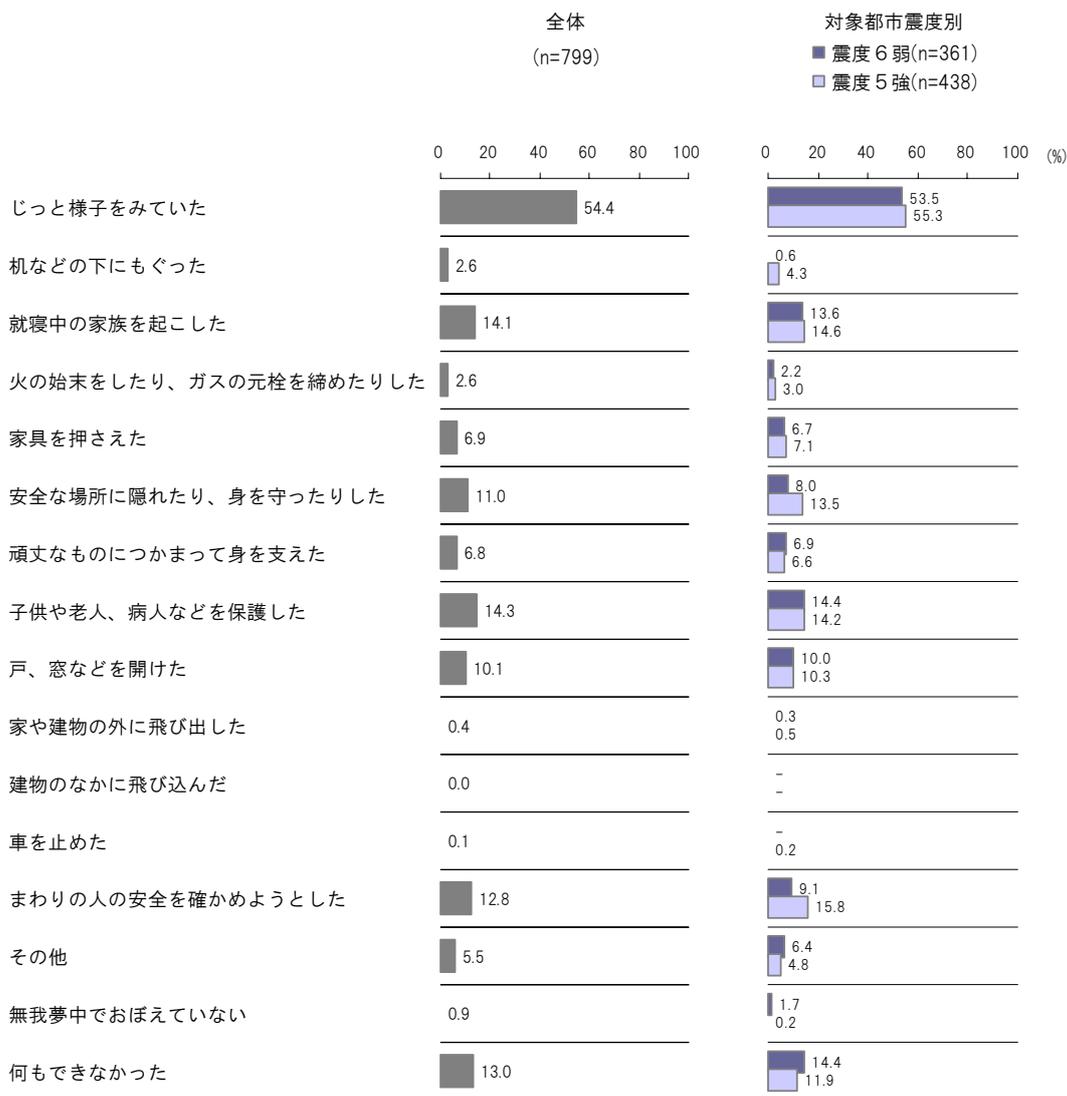
性・年代別／対策実施度別



(5) 揺れがおさまるまでの間の行動

「じっと様子を見ていた」が5割台半ば

問6 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。



地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにできたことを尋ねたところ、「じっと様子を見ていた」(54.4%)との回答が最も高く5割台半ばを占めている。次いで「子どもや老人、病人などを保護した」(14.3%)、「就寝中の家族を起こした」(14.1%)などが1割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「戸、窓などを開けた」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年齢層(18.9%)で2割弱となっている。

対策実施度別にみると、「安全な場所に隠れたり、身を守ったりした」との回答は実施度：高(21.1%)で2割強と高くなっている。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	たじつと様子をみてい	机などの下にもぐつ	就寝中の家族を起こ	火の始末をしたり、ガスの元栓を締めた	家具を押さえた	安全な場所に隠れたり、身を守つたりした	頑丈なものにつかまつて身を支えた	子どもや老人、病人などを保護した	戸、窓などを開けた	家や建物の外に飛び出した	建物のなかに飛び込んだ	車を止めた	まわりの人の安全を確かめようとした
全体	799	54.4	2.6	14.1	2.6	6.9	11.0	6.8	14.3	10.1	0.4	-	0.1	12.8
回答者の性・年代別														
男性 若年層	155	51.6	3.2	12.9	2.6	8.4	12.9	5.8	16.8	7.1	0.6	-	-	16.8
中年層	181	59.7	1.7	12.7	2.2	11.6	3.9	8.8	6.1	9.4	0.6	-	-	6.6
高年層	53	56.6	1.9	15.1	7.5	7.5	9.4	7.5	5.7	18.9	-	-	-	13.2
女性 若年層	251	52.6	3.6	13.9	2.4	4.0	14.7	6.0	20.7	7.6	0.4	-	-	12.7
中年層	135	53.3	1.5	17.8	1.5	5.2	12.6	6.7	15.6	14.8	-	-	-	16.3
高年層	24	54.2	4.2	12.5	4.2	-	8.3	4.2	4.2	16.7	-	-	4.2	12.5
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)														
対策なし	154	57.8	3.9	8.4	3.9	7.1	5.8	8.4	7.8	7.8	1.3	-	-	6.5
低 (1~2個)	355	51.0	2.5	12.1	2.8	7.0	9.6	6.2	14.9	11.8	-	-	-	9.9
中 (3~4個)	181	60.2	1.7	18.8	1.7	7.7	12.2	5.0	14.4	8.8	0.6	-	-	18.2
高 (5個以上)	109	51.4	2.8	21.1	1.8	4.6	21.1	9.2	21.1	10.1	-	-	0.9	22.0

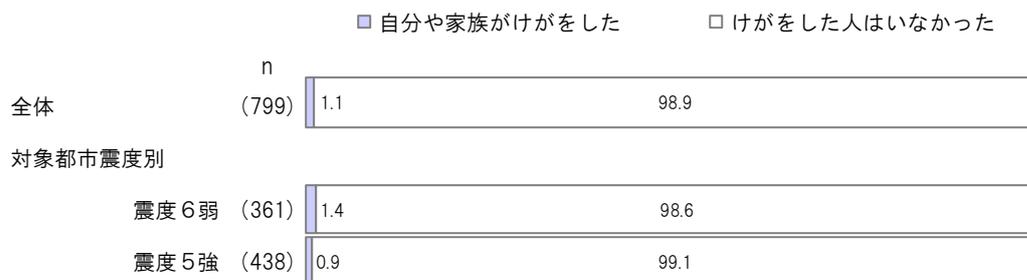
	n	その他	無 い 夢 中 で お ぼ え て	何 も で き な か つ た
全体	799	5.5	0.9	13.0
回答者の性・年代別				
男性 若年層	155	7.7	0.6	11.0
中年層	181	4.4	-	11.0
高年層	53	1.9	-	11.3
女性 若年層	251	8.0	1.6	15.5
中年層	135	2.2	0.7	12.6
高年層	24	-	4.2	20.8
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)				
対策なし	154	7.1	1.9	15.6
低 (1~2個)	355	3.7	0.8	15.2
中 (3~4個)	181	7.2	0.6	8.8
高 (5個以上)	109	6.4	-	9.2

(6) 被害状況

① けが人の有無

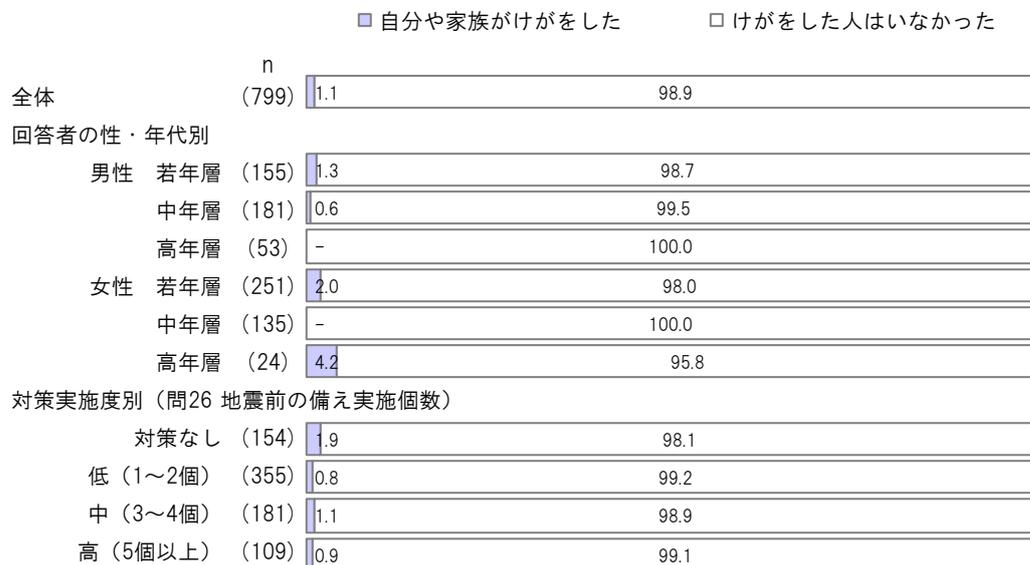
「けがをした人はいなかった」が大半

問7 今回の地震でお宅ではけがをした人がいましたか。



今回の地震でけがをした人がいたかを尋ねたところ、「けがをした人はいなかった」(98.9%)との回答が大半を占めている。

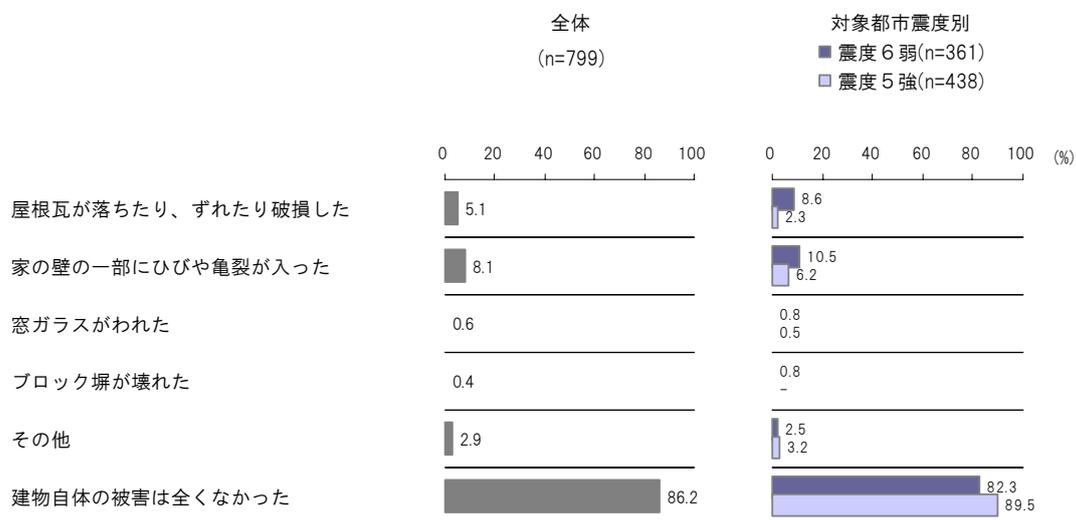
性・年代別／対策実施度別



②建物の被害

「建物自体の被害は全くなかった」が8割台半ば

問 11 お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



家屋の被害について尋ねたところ、「建物自体の被害は全くなかった」（86.2%）との回答が最も高く8割台半ばを占めている。

性・年代別／対策実施度別

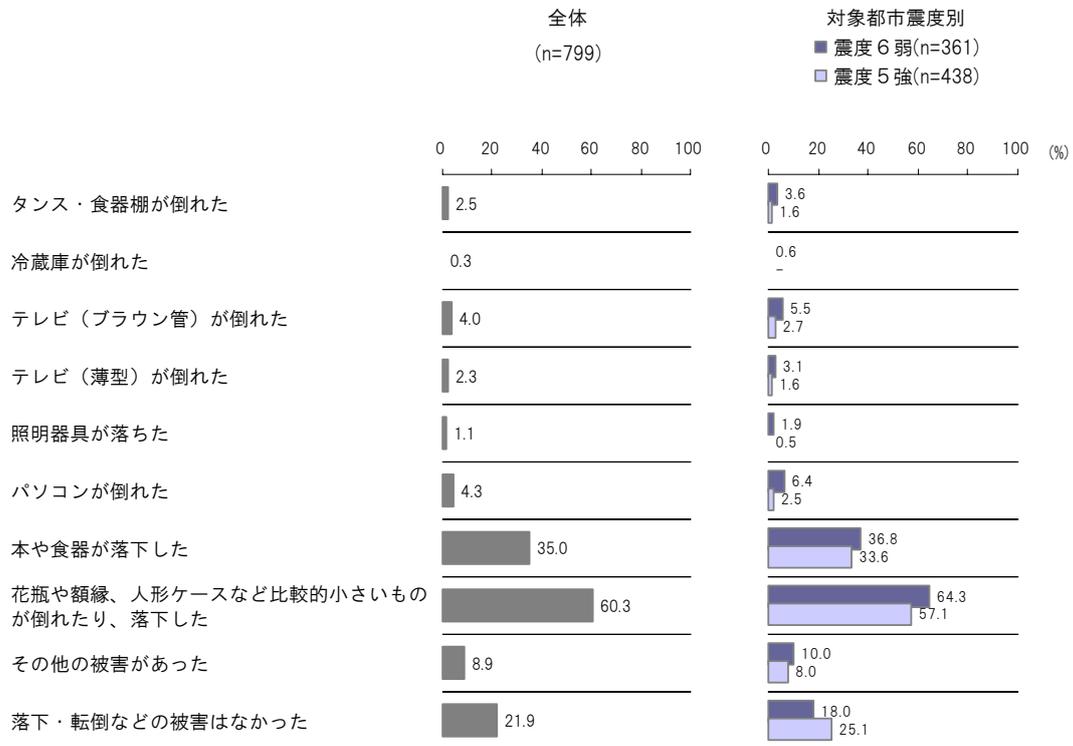
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	ずれ 屋根 た瓦 りが 破 損 し た り、	や 家 の 亀 裂 が 入 っ た ひ び	窓 ガ ラ ス が わ れ た	ブ ロ ッ ク 塀 が 壊 れ た	そ の 他	く 建 物 自 体 の 被 害 は 全 く な か つ た
全 体	799	5.1	8.1	0.6	0.4	2.9	86.2
回答者の性・年代別							
男性 若年層	155	5.8	9.7	0.6	0.6	3.2	83.9
中年層	181	3.9	8.3	1.1	-	2.8	87.8
高年層	53	5.7	5.7	-	-	-	88.7
女性 若年層	251	5.6	7.6	0.4	0.4	3.6	86.5
中年層	135	5.9	8.1	0.7	0.7	3.0	84.4
高年層	24	-	8.3	-	-	-	91.7
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施回数)							
対策なし	154	5.8	9.7	1.3	-	3.2	85.1
低 (1~2個)	355	3.9	6.8	-	0.8	2.3	88.2
中 (3~4個)	181	7.7	11.0	0.6	-	4.4	82.9
高 (5個以上)	109	3.7	5.5	1.8	-	1.8	87.2

③家屋の被害

「花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり、落下した」が6割

問 12 では、家具など家の中はどのような状況でしたか。あてはまるものをいくつでもお選びください



家の中の被害について尋ねたところ、「花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり、落下した」（60.3％）との回答が最も高く6割を占めている。次いで「本や食器が落下した」（35.0％）が3割台半ばであった。「落下・転倒などの被害はなかった」（21.9％）との回答は2割強にとどまっている。

性・年代別にみると、「花瓶や額縁、人形ケースなどの比較的小さいものが倒れたり、落下した」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、女性・中年層（68.9％）で7割弱となっている。

性・年代別／対策実施度別

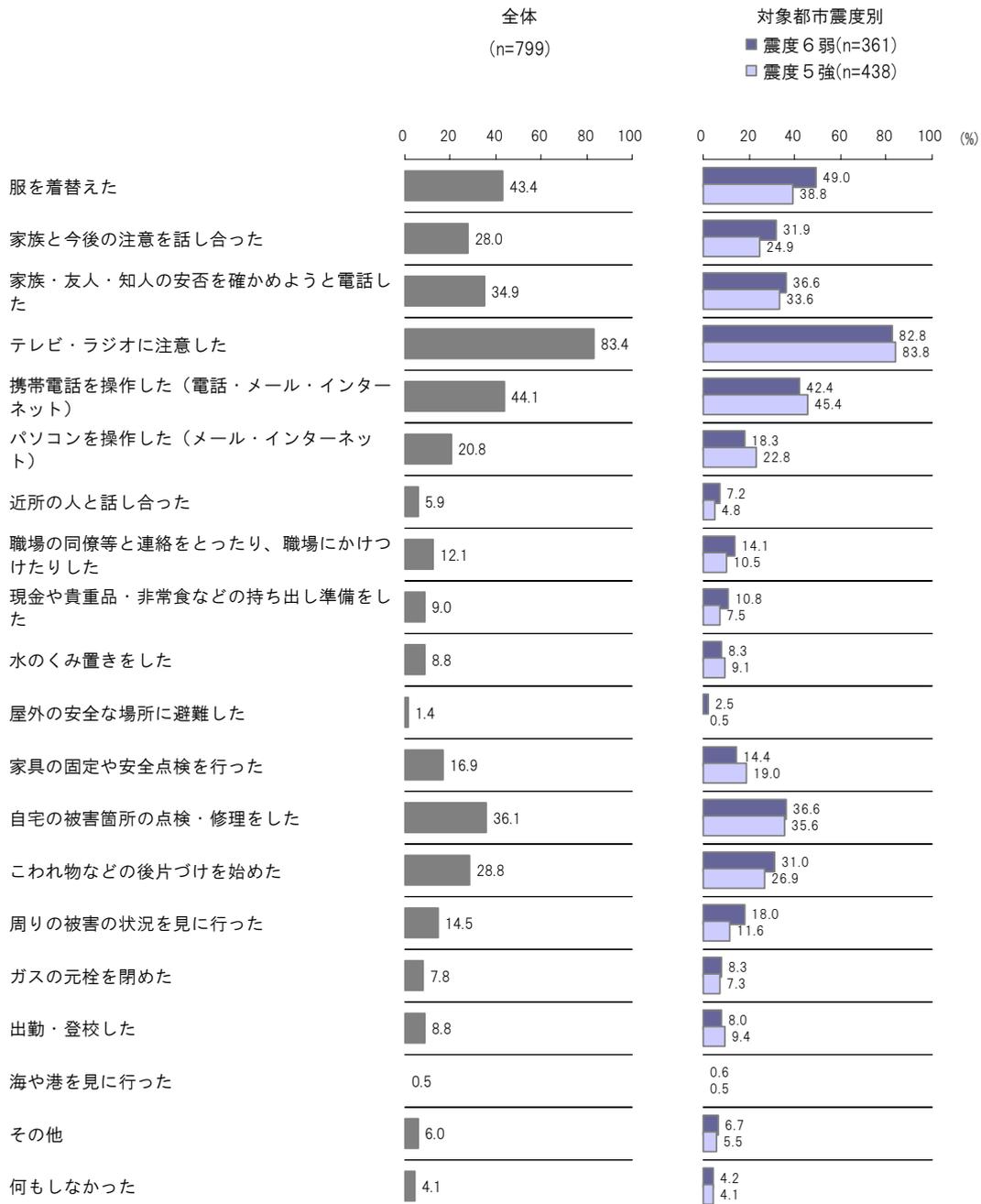
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	た タ ン ス ・ 食 器 棚 が 倒 れ た	冷 蔵 庫 が 倒 れ た	管 テ レ ビ (ヘ ブ ラ ウ ン) が 倒 れ た	テ レ ビ (薄 型) が 倒 れ た	照 明 器 具 が 落 ち た	パ ソ コ ン が 倒 れ た	本 や 食 器 が 落 下 し た	花 瓶 や 額 縁 、 人 形 ケ ー ス な ど 比 較 的 小 さ い も の が 倒 れ た り 、 落 下 し た	そ の 他 の 被 害 が あ っ た	落 下 ・ 転 倒 な ど の 被 害 は な か つ た
全 体	799	2.5	0.3	4.0	2.3	1.1	4.3	35.0	60.3	8.9	21.9
回答者の性・年代別											
男性 若年層	155	1.3	-	2.6	1.9	1.9	3.2	34.2	52.3	8.4	30.3
中年層	181	2.8	1.1	4.4	3.3	-	6.1	37.6	54.7	3.9	24.3
高年層	53	1.9	-	3.8	3.8	1.9	3.8	35.8	56.6	9.4	30.2
女性 若年層	251	2.8	-	4.8	1.6	0.8	2.4	35.5	63.3	10.4	18.7
中年層	135	3.0	-	4.4	2.2	2.2	5.9	36.3	68.9	14.1	13.3
高年層	24	4.2	-	-	-	-	8.3	8.3	83.3	4.2	12.5
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)											
対策なし	154	2.6	0.6	4.5	1.9	1.3	2.6	36.4	55.2	11.0	24.7
低 (1~2個)	355	2.5	0.3	3.1	2.5	1.1	4.2	31.8	60.0	7.9	23.7
中 (3~4個)	181	2.8	-	5.5	2.8	1.1	6.6	35.4	64.6	9.9	17.1
高 (5個以上)	109	1.8	-	3.7	0.9	0.9	2.8	43.1	61.5	7.3	20.2

(7) 地震がおさまった後の行動

「テレビ・ラジオに注意した」が8割台半ば

問8 地震の揺れがおさまった後、1時間以内にあなたは何をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

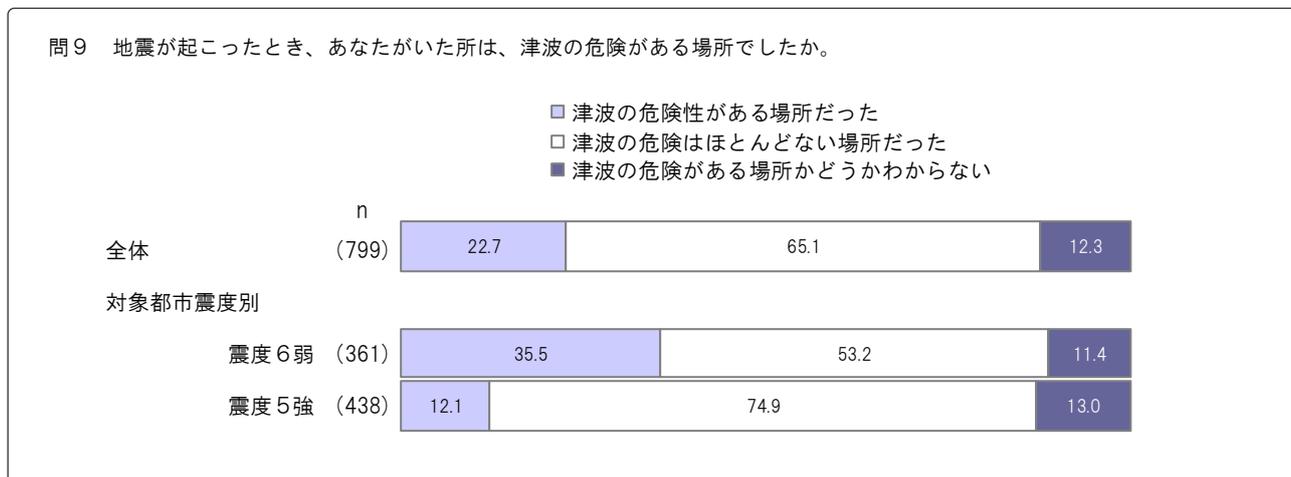


地震の揺れがおさまった後、1時間以内に何をしたかを尋ねたところ、「テレビ・ラジオに注意した」（83.4%）との回答が最も高く8割台半ばを占めている。次いで「携帯電話を操作した（電話・メール・インターネット）」（44.1%）、「服を着替えた」（43.4%）が4割台、「自宅の被害箇所の点検・修理をした」（36.1%）や「家族・友人・知人の安否を確かめようと電話した」（34.9%）が3割台で高くなっている。

(8) 津波に対する意識

①地震発生時にいた場所での津波の危険性

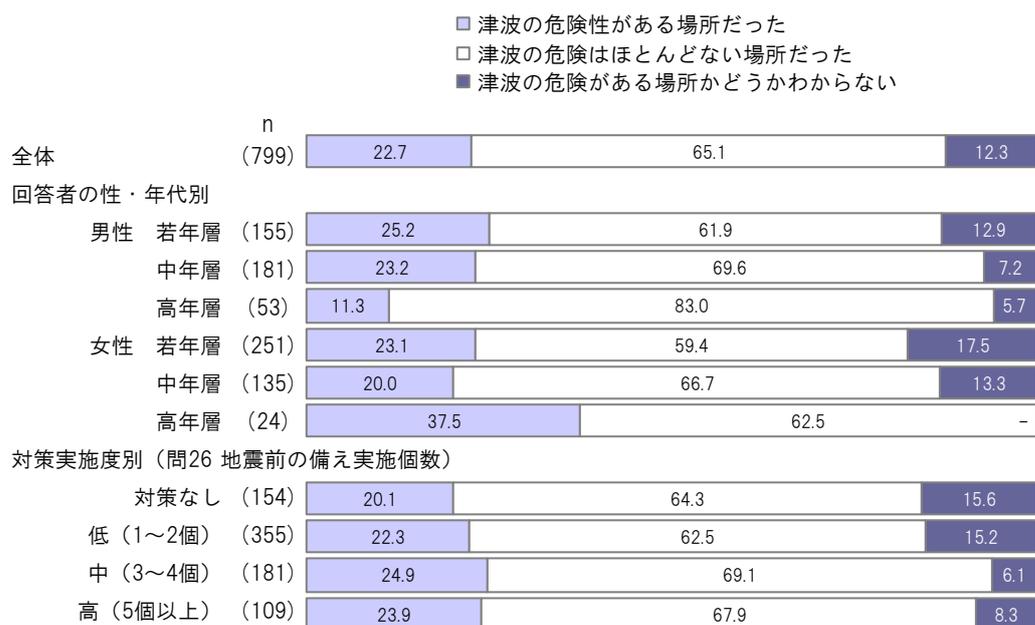
「津波の危険性がある」場所だったが2割強



地震が起こったときにいた場所は津波の危険がある場所だったかを尋ねたところ、「津波の危険性がある場所だった」(22.7%)との回答は2割強となっている。「津波の危険はほとんどない場所だった」(65.1%)との回答は6割台半ばとなっている。

対象都市震度別にみると、「津波の危険性がある場所だった」との回答は震度6弱(35.5%)で3割台半ばと高くなっている。

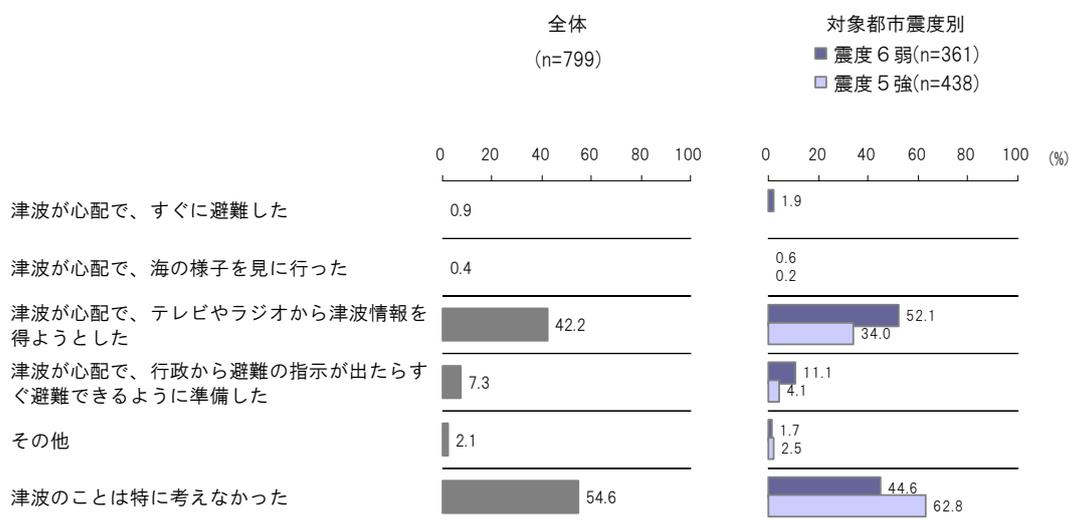
性・年代別／対策実施度別



②津波に備えた対応

「テレビやラジオから津波情報を得ようとした」 4割強

問10 地震が起こったとき、あなたは津波に備えてどんな対応をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



地震が起こったとき、津波に備えてどんな対応をしたかを尋ねたところ、「津波が心配で、テレビやラジオから津波情報を得ようとした」(42.2%)との回答は4割強となっている。一方「津波のことは特に考えなかった」(54.6%)との回答は5割台半ばとなっている。

対象都市震度別にみると、「津波が心配で、テレビやラジオから津波情報を得ようとした」との回答は震度6弱(52.1%)で過半数と高くなっている。

性・年代別にみると、「津波のことは特に考えなかった」との回答は男性・高年層(75.5%)で7割台半ばと特に高くなっている。

対策実施度別にみると、「津波が心配で、テレビやラジオから津波情報を得ようとした」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：中(48.6%)で5割弱、実施度：高(51.4%)で過半数となっている。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

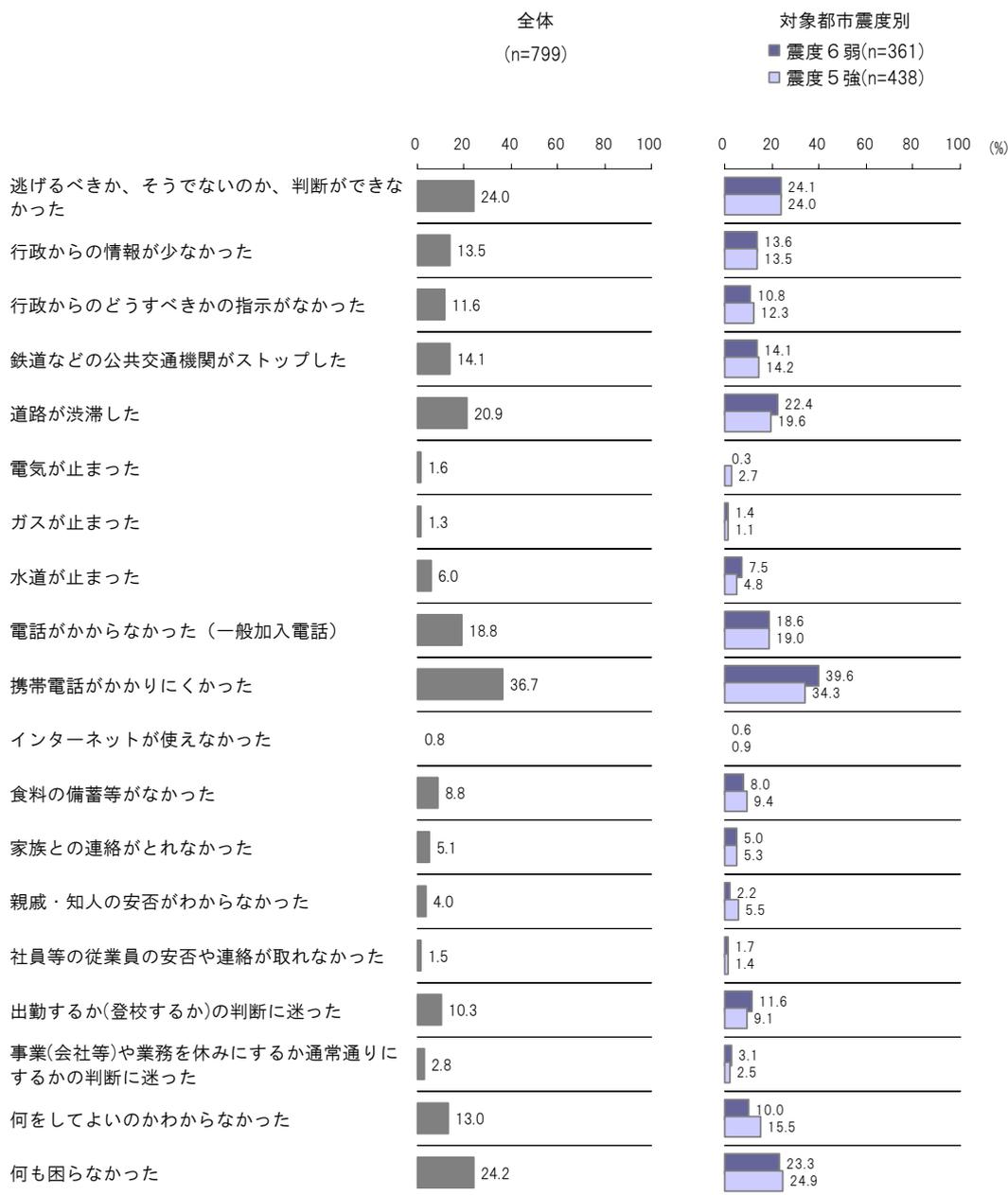
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	津波が心配で、すぐに避難した	津波が見に行つた	津波が心配で、情報やラジオから津波を知らされた	津波が心配で、避難できるように準備した	津波が心配で、行政からの指示が出たらすぐ避難した	その他	津波のことは特に考えなかった
全体	799	0.9	0.4	42.2	7.3	2.1	54.6	
回答者の性・年代別								
男性 若年層	155	-	0.6	38.7	10.3	2.6	56.8	
中年層	181	0.6	0.6	37.0	4.4	2.2	59.1	
高年層	53	-	-	24.5	3.8	-	75.5	
女性 若年層	251	1.6	-	48.2	7.2	2.4	49.4	
中年層	135	1.5	0.7	48.1	8.1	1.5	48.1	
高年層	24	-	-	45.8	12.5	4.2	50.0	
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施回数)								
対策なし	154	0.6	-	32.5	3.2	2.6	64.3	
低 (1~2個)	355	0.3	0.6	40.3	5.4	1.4	57.2	
中 (3~4個)	181	2.2	0.6	48.6	9.9	2.2	48.1	
高 (5個以上)	109	0.9	-	51.4	14.7	3.7	43.1	

(9) 今回の地震で困ったこと

「携帯電話がかかりにくかった」が3割台半ば

問13 あなたは今回の地震で何が困りましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



今回の地震で困ったことを尋ねたところ、「携帯電話がかかりにくかった」(36.7%)との回答が最も高く3割台半ば、次いで「逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった」(24.0%)、「道路が渋滞した」(20.9%)が2割台、「電話がかからなかった(一般加入電話)」(18.8%)が2割弱となっている。

性・年代別にみると、「逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった」との回答は女性・若年層(35.9%)で3割台半ばと高くなっている。

IV. 調査結果

対策実施度別にみると、実施度：高では「逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった」(25.7%)、「電話がかからなかった（一般電話）」(24.8%)、「行政からの情報が少なかった」(22.0%)などの回答が高くなっている。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	逃げるべきか、判断できなかった	行政からの情報が少なかった	行政からの指示がなかった	鉄道などの公共交通機関がストップした	道路が渋滞した	電気が止まった	ガスが止まった	水道が止まった	電話がかからなかった（一般加入電話）	携帯電話がかかりにくかった	インターネットが使えなかった	食料の備蓄等がなかった	家族との連絡がとれなかった
全体	799	24.0	13.5	11.6	14.1	20.9	1.6	1.3	6.0	18.8	36.7	0.8	8.8	5.1
回答者の性・年代別														
男性 若年層	155	20.6	14.8	12.9	17.4	25.8	1.9	1.3	8.4	16.8	34.2	-	9.0	8.4
中年層	181	17.7	13.8	9.4	14.9	21.5	0.6	1.1	3.9	17.7	32.0	0.6	5.5	1.1
高年層	53	18.9	15.1	15.1	3.8	11.3	1.9	3.8	7.5	17.0	28.3	1.9	3.8	1.9
女性 若年層	251	35.9	13.5	12.0	14.3	23.1	2.4	0.8	5.6	17.9	44.6	1.6	12.7	7.2
中年層	135	17.0	9.6	9.6	14.1	17.0	1.5	0.7	6.7	25.9	37.0	-	8.9	4.4
高年層	24	20.8	20.8	20.8	8.3	4.2	-	4.2	4.2	12.5	20.8	-	-	4.2
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）														
対策なし	154	24.0	11.7	12.3	9.7	19.5	3.2	1.9	9.1	15.6	35.7	1.3	13.0	5.8
低（1～2個）	355	25.6	12.7	9.3	14.4	18.9	1.4	0.3	4.5	16.1	35.2	0.8	7.6	5.6
中（3～4個）	181	19.9	11.6	11.6	14.4	23.2	-	1.7	5.5	23.2	37.6	-	6.1	3.9
高（5個以上）	109	25.7	22.0	18.3	19.3	25.7	2.8	2.8	7.3	24.8	41.3	0.9	11.0	4.6
	n	親戚・知人からの安否が	会社等の従業員が安	出勤するかの判断に迷った	事業（会社等）や業務を休みにするかの判断に迷った	何をしていたのか	何も困らなかった							
全体	799	4.0	1.5	10.3	2.8	13.0	24.2							
回答者の性・年代別														
男性 若年層	155	5.2	2.6	10.3	1.9	11.6	27.1							
中年層	181	0.6	2.2	7.7	4.4	7.7	27.1							
高年層	53	7.5	1.9	3.8	-	9.4	41.5							
女性 若年層	251	6.4	0.8	13.5	2.4	19.9	16.3							
中年層	135	2.2	0.7	11.9	3.0	8.1	22.2							
高年層	24	-	-	-	4.2	25.0	37.5							
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）														
対策なし	154	7.1	0.6	8.4	0.6	22.1	26.0							
低（1～2個）	355	2.8	0.6	11.0	3.1	13.2	25.6							
中（3～4個）	181	2.8	2.2	10.5	3.3	7.7	23.2							
高（5個以上）	109	5.5	4.6	10.1	3.7	8.3	18.3							

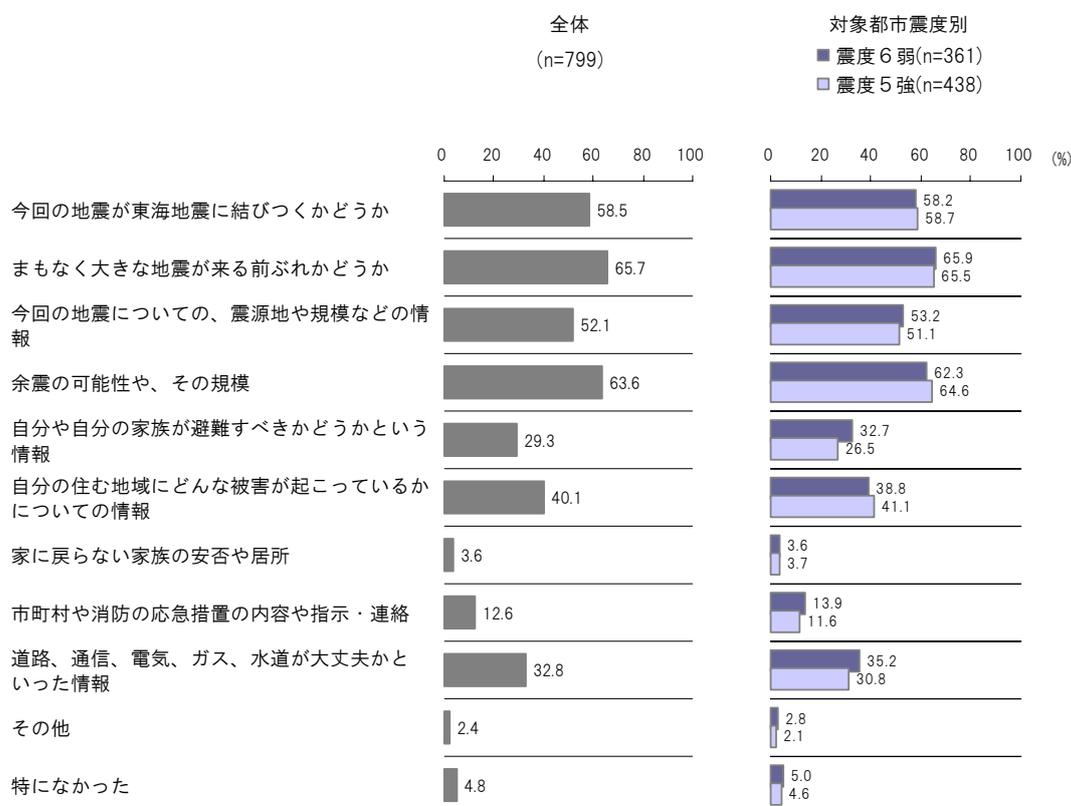
2 地震直後の情報入手

(1) 地震直後の情報ニーズ

①情報ニーズ

「大きな地震が来る前ぶれかどうか」「余震の可能性や、その現象」が6割台

問 14 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



地震直後、知りたかった情報を尋ねたところ、「まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか」(65.7%)との回答が最も高く、次いで「余震の可能性や、その現象」(63.6%)が続いており、ともに6割台半ばを占めている。これらに次いで「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」(58.5%)、「今回の地震についての、震源地や規模などの情報」(52.1%)、「自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報」(40.1%)などが続いている。

性・年代別にみると、「自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報」との回答は女性・若年層(42.6%)で4割強と高くなっている。

対策実施度別にみると、実施度：高では、「まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか」(77.1%)、「余震の可能性や、その規模」(73.4%)、「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」(65.1%)が高いほか、「自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報」(53.2%)、「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報」(45.9%)などの回答も高くなっている。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

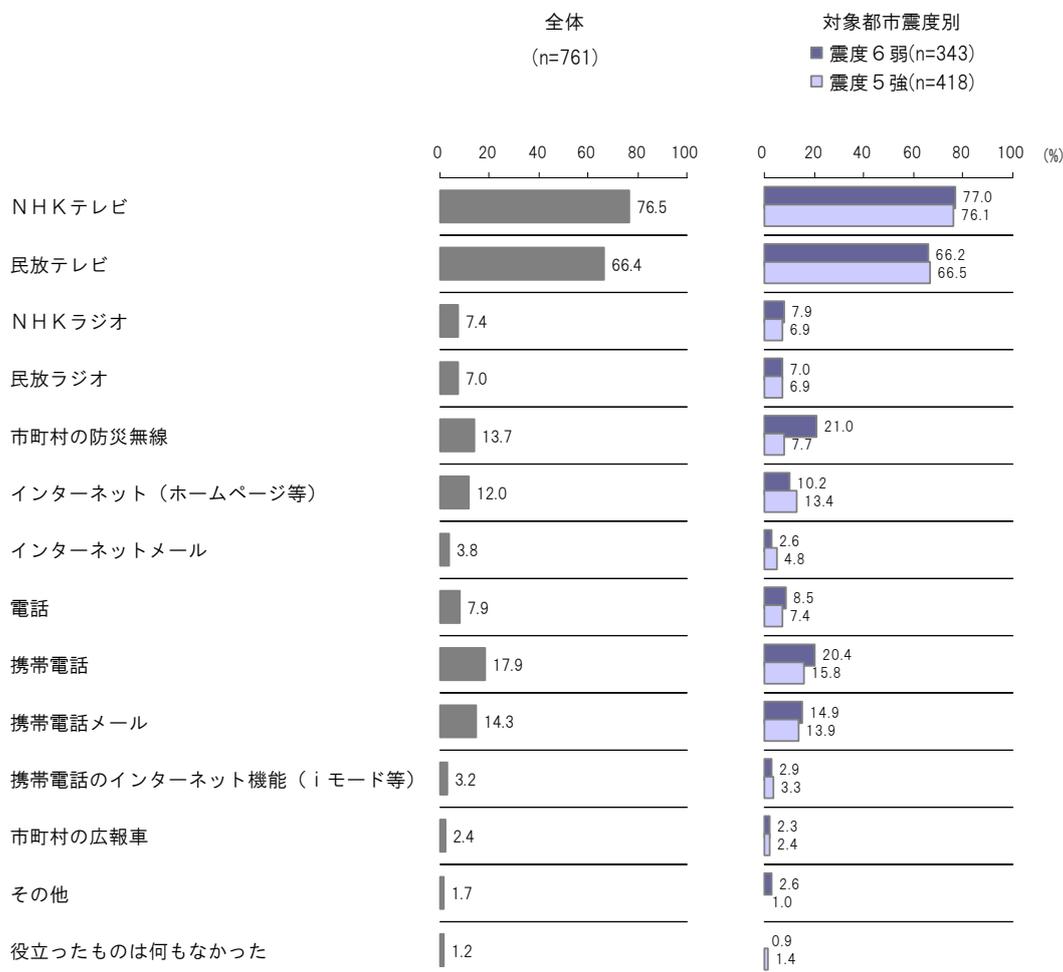
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	か 震 今 回 の 結 び つ く か ど う	か が 来 る 前 に ど う	ま も な く 大 き な 地 震	ど の 情 報 地 震 の 規 模 な い	今 回 の 地 震 に つ い て	余 震 の 可 能 性 や そ の	避 難 す べ き か ど う か	自 分 や 自 分 の 家 族 が	な な か ら 自 分 の 住 む 地 域 に ど ん な 被 害 が 起 こ っ て い る か に つ い て の 情 報	安 否 や 居 所	家 に 戻 ら な い 家 族 の	連 絡 の 内 容 や 指 示	市 町 村 や 消 防 の 応 急	指 置 の 内 容 や 指 示	ガ ス 、 水 道 が 大 丈 夫	道 路 、 通 信 、 電 気	そ の 他	特 に な か つ た
全 体	799	58.4	65.7	52.1	63.6	29.3	40.1	3.6	12.6	32.8	2.4	4.8							
回答者の性・年代別																			
男性 若年層	155	56.1	59.4	51.0	62.6	25.8	38.1	4.5	13.5	27.1	1.9	8.4							
中年層	181	53.6	61.9	53.0	56.9	20.4	40.9	1.1	8.8	28.2	1.7	3.3							
高年層	53	67.9	50.9	49.1	58.5	15.1	26.4	1.9	13.2	26.4	-	9.4							
女性 若年層	251	58.2	74.5	51.8	69.3	42.6	45.8	5.2	15.9	37.5	2.8	3.2							
中年層	135	63.7	67.4	53.3	61.5	27.4	38.5	4.4	11.1	37.8	4.4	4.4							
高年層	24	62.5	66.7	54.2	83.3	20.8	25.0	-	8.3	41.7	-	-							
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)																			
対策なし	154	57.8	69.5	45.5	64.9	22.7	39.0	4.5	14.3	32.5	0.6	5.8							
低 (1~2個)	355	54.9	61.4	52.1	60.0	29.9	35.2	2.3	11.0	29.0	1.4	5.6							
中 (3~4個)	181	61.9	64.1	51.9	63.5	32.0	42.5	5.0	13.8	32.6	5.5	3.3							
高 (5個以上)	109	65.1	77.1	61.5	73.4	32.1	53.2	4.6	13.8	45.9	2.8	2.8							

②知りたい情報を知るために役に立った媒体

「NHK テレビ」が7割台半ば

問 15 では、そのような情報を知るために役に立ったものは何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



地震直後知りたい情報について「特になかった」以外を回答した761人に対して、今回の地震に関する情報を知るために役立った媒体を尋ねたところ、「NHK テレビ」（76.5%）との回答が最も高く7割台半ば、次いで「民放テレビ」（66.4%）が6割台半ばと、テレビが圧倒的に高くなっている。

対象都市震度別にみると、「市町村の防災無線」との回答は震度6弱（21.0%）で2割強と高い。

性・年代別にみると、「NHK テレビ」、「NHK ラジオ」、「民放ラジオ」などの回答は年代が高くなるにつれて高くなっている。

対策実施度別にみると、「NHK テレビ」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高（84.9%）と実施度：中（84.6%）で8割台半ばとなっている。また、実施度：高では、「NHK ラジオ」（12.3%）、「民放ラジオ」（15.1%）が1割を超え、「インターネット（ホームページ等）」（21.7%）が2割強と高くなっている。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	NHKテレビ	民放テレビ	NHKラジオ	民放ラジオ	市町村の防災無線	インターネット（ホームページ等）	インターネット	電話	携帯電話	携帯電話メール	携帯電話のインターネット機能（iモード等）
全体	761	76.5	66.4	7.4	7.0	13.7	12.0	3.8	7.9	17.9	14.3	3.2
回答者の性・年代別												
男性 若年層	142	68.3	66.9	2.8	7.0	6.3	13.4	3.5	4.2	15.5	13.4	5.6
中年層	175	82.9	65.7	10.9	11.4	15.4	17.1	2.3	9.1	17.7	12.0	1.7
高年層	48	91.7	56.3	27.1	14.6	10.4	6.3	8.3	10.4	20.8	10.4	-
女性 若年層	243	70.4	70.8	2.1	2.5	10.3	10.3	4.1	7.0	22.2	17.3	4.1
中年層	129	81.4	65.9	7.0	4.7	24.0	10.1	3.1	10.9	11.6	15.5	1.6
高年層	24	83.3	45.8	25.0	16.7	29.2	4.2	8.3	8.3	16.7	8.3	4.2
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）												
対策なし	145	66.2	60.7	6.2	7.6	11.7	11.0	4.1	5.5	19.3	13.1	2.1
低（1～2個）	335	74.0	69.9	5.1	4.5	10.1	10.1	2.7	6.0	15.8	11.6	3.3
中（3～4個）	175	84.6	67.4	9.7	6.3	17.7	10.3	2.9	13.7	17.7	17.7	2.3
高（5個以上）	106	84.9	61.3	12.3	15.1	20.8	21.7	8.5	7.5	22.6	18.9	5.7

	n	市町村の広報車	その他	役立ったものは何も
全体	761	2.4	1.7	1.2
回答者の性・年代別				
男性 若年層	142	1.4	2.1	0.7
中年層	175	3.4	1.1	1.1
高年層	48	4.2	-	2.1
女性 若年層	243	1.2	1.6	1.6
中年層	129	3.1	3.1	0.8
高年層	24	4.2	-	-
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）				
対策なし	145	2.1	2.1	3.4
低（1～2個）	335	1.8	1.5	0.9
中（3～4個）	175	2.3	1.1	-
高（5個以上）	106	4.7	2.8	0.9

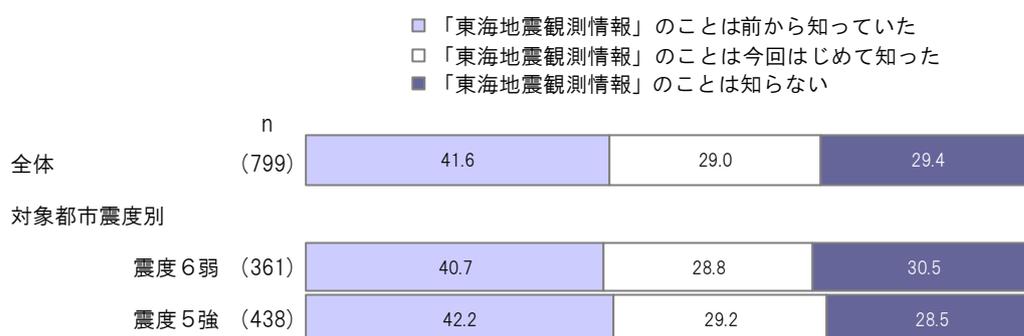
3 東海地震関連情報

(1) 東海地震関連情報の発表について

①東海地震観測情報の認知

「知っていた」が4割強

問 16 気象庁は、今回の地震に関して、平成 21 年 8 月 11 日午前に「東海地震観測情報」を発表しました。あなたは「東海地震観測情報」を知っていましたか。



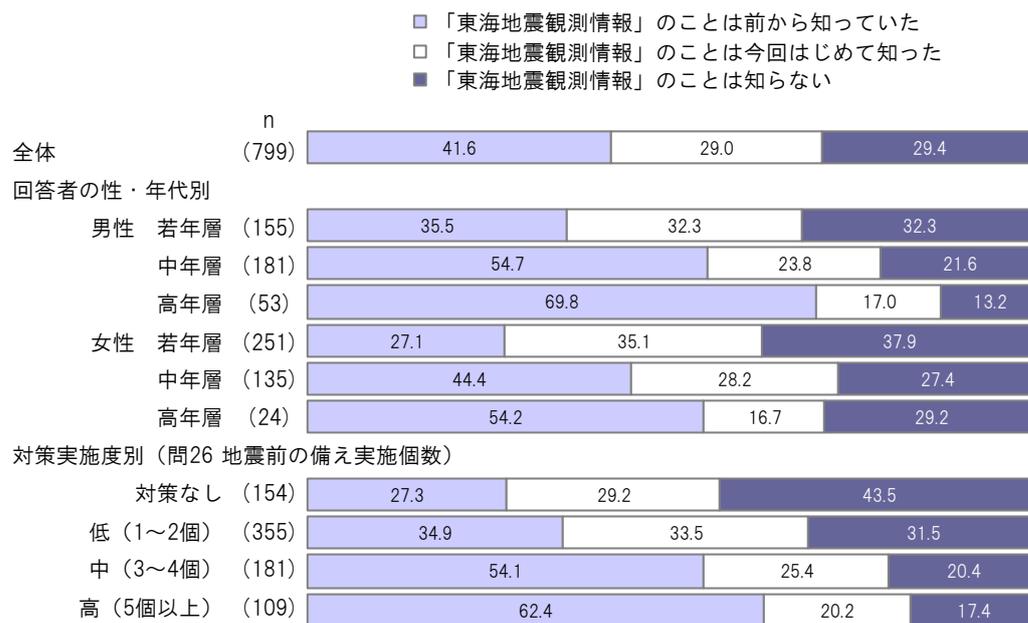
「東海地震観測情報」の認知について尋ねたところ、「東海地震観測情報」のことは前から知っていた」(41.6%)との回答が最も高く4割強を占めている。

性・年代別にみると、「東海地震観測情報」のことは前から知っていた」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(69.8%)で7割弱、男性・中年層(54.7%)で5割台半ばとなり、高くなっている。

対策実施度別にみると、「東海地震観測情報」のことは前から知っていた」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(62.4%)で6割強、実施度：中(54.1%)で5割台半ばとなっている。

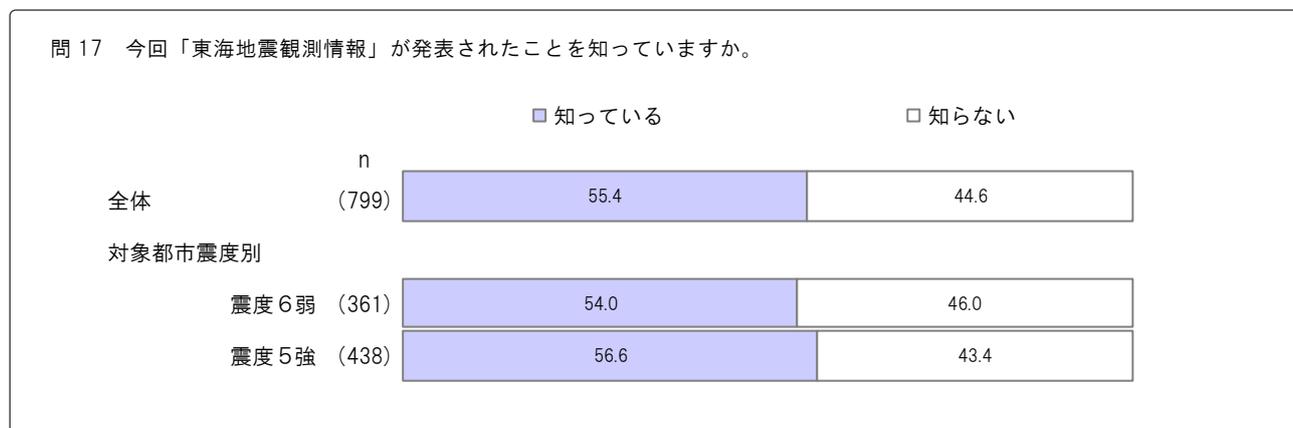
IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別



②「東海地震観測情報」発表の認知

発表されたことを「知っている」は5割台半ば

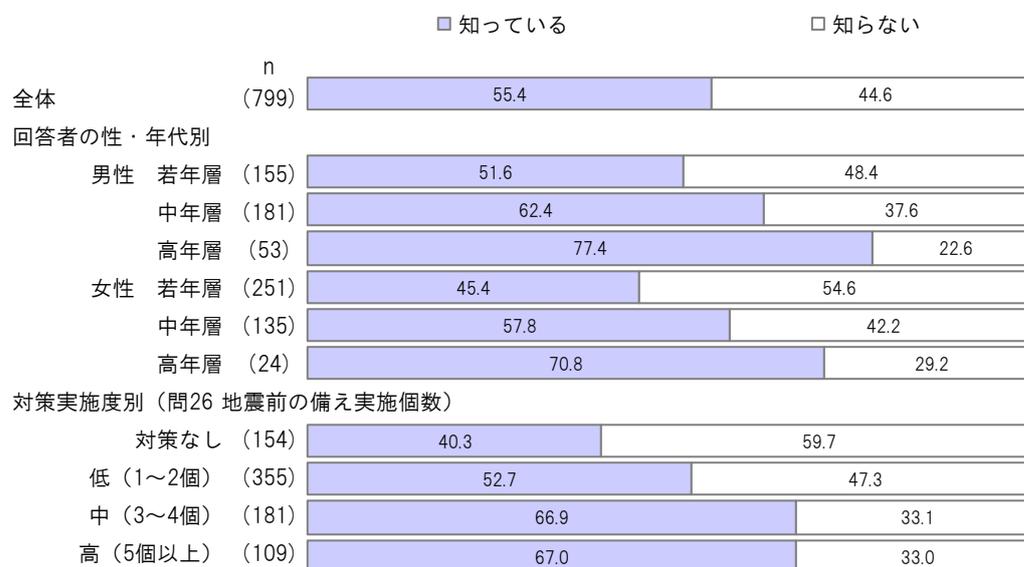


今回、「東海地震観測情報」が発表されたことを知っているか尋ねたところ、「知っている」(55.4%)との回答が5割台半ばを占めている。

性・年代別にみると、「知っている」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(77.4%)では8割弱、男性・中年層(62.4%)では6割強を占めている。

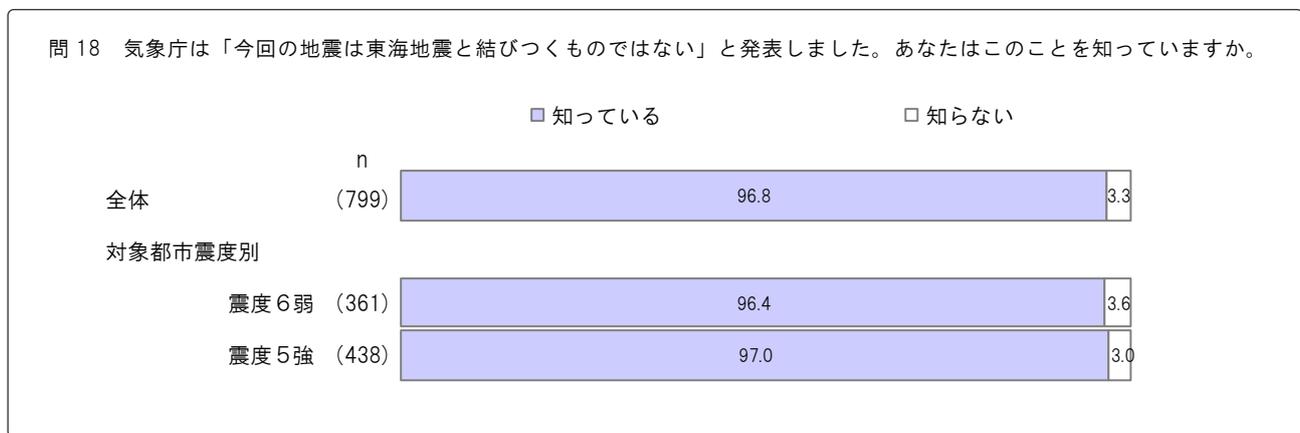
対策実施度別にみると、「東海地震観測情報」のことは前から知っていた」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(67.0%)と実施度：中(66.9%)では6割台となっている。

性・年代別／対策実施度別



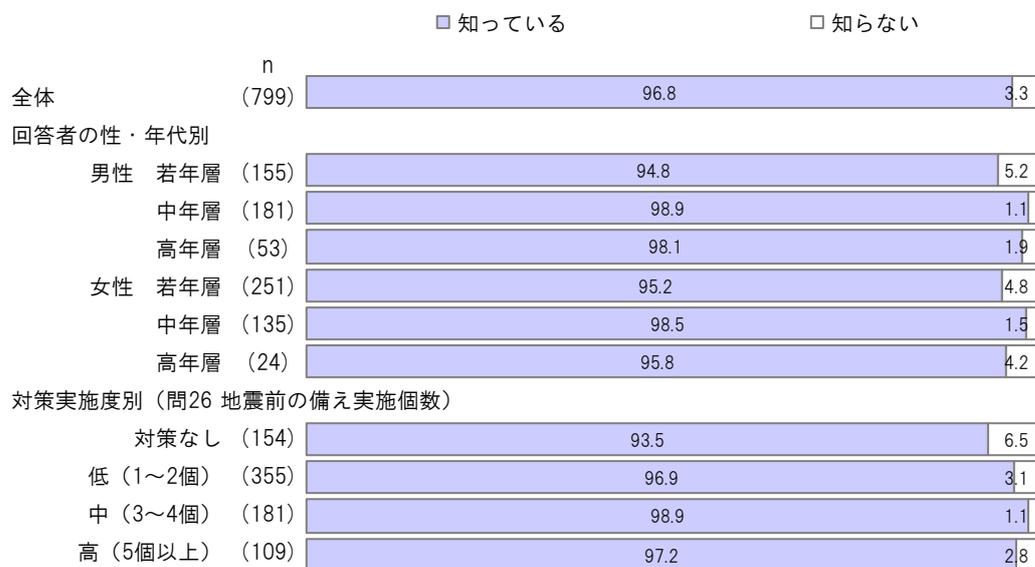
③「東海地震と結びつくものではない」と発表したことの認知

発表されたことを「知っている」は9割台半ば



気象庁が「今回の地震は東海地震に結びつくものではない」と発表したことを知っているか尋ねたところ、「知っている」(96.8%)との回答が9割台半ばと大半を占めている。

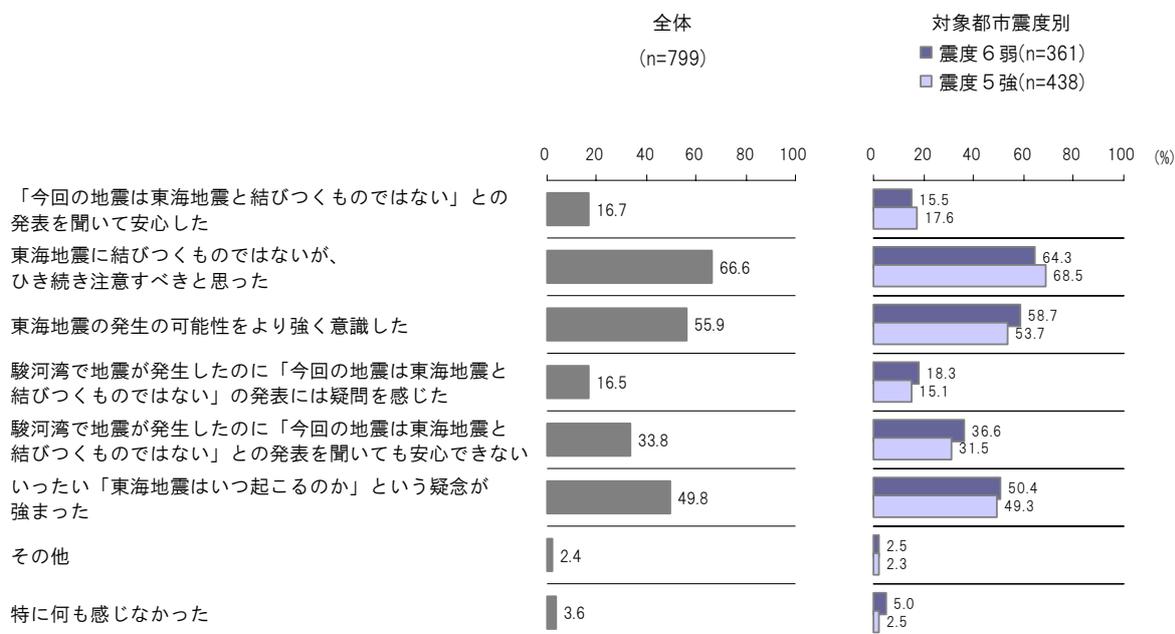
性・年代別／対策実施度別



④気象庁が「東海地震と結びつくものではない」と発表したことについての感じ方

「ひき続き注意すべきと思った」が6割台半ば、「より強く意識した」が5割台半ば

問 19 気象庁が「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」と発表したことについてどのように感じますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



気象庁が「今回の地震は東海地震に結びつくものではない」と発表したことについてどのように感じているかを尋ねたところ、「東海地震に結びつくものではないが、ひき続き注意すべきと思った」(66.6%)との回答が最も高く6割台半ばを占めている。次いで「東海地震の発生の可能性をより強く意識した」(55.9%)、「いったい「東海地震」はいつ起きるのかという疑念が強まった」(49.8%)となっている。一方、「今回の地震は東海地震に結びつくものではない」との発表を聞いて安心した」(16.7%)との回答はわずか1割台半ばにとどまっている。

性・年代別にみると、「駿河湾で地震が発生したのに「今回の地震は東海地震とむすびつくものではない」の発表に疑問を感じた」との回答は男性・中年層(24.3%)で2割台半ばとなり高くなっている。また、「いったい「東海地震」はいつ起きるのかという疑念が強まった」との回答は女性で高く6割程度となっている。

対策実施度別にみると、「東海地震に結びつくものではないが、ひき続き注意すべきと思った」との回答は実施度：高(81.7%)で8割強、実施度：中(75.1%)で7割台半ばを占め高い。また、「東海地震の発生をより強く意識した」との回答も、実施度：高(66.1%)で6割台半ばと高くなっている。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

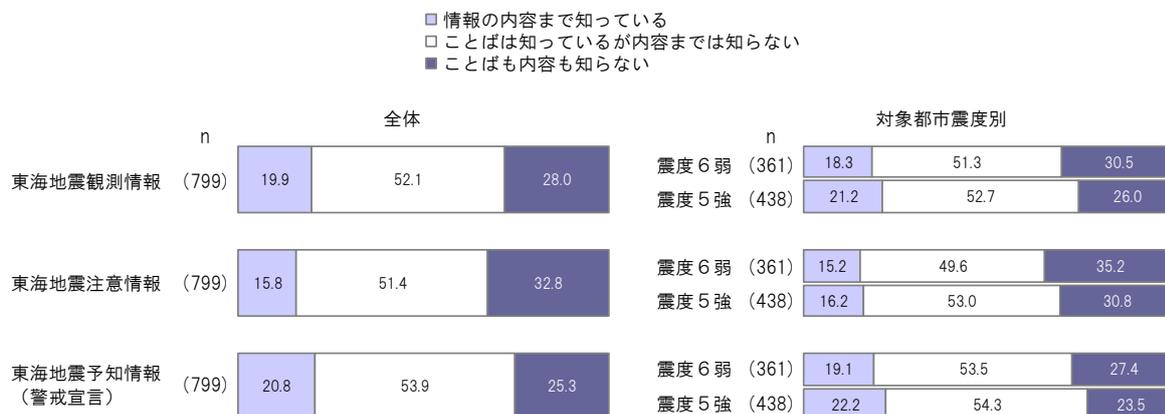
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	「心 い」と した	「今 回の地 震は東 海地震 と結び つくも のでは ないか 」と思 った	東 海地震 に結び つくも のでは ないか 」と注 意した	東 海地震 の発生 の可 能性を より強 く意識 した	東 海地震 は東海 地震と 結びつ くもの ではな い」と の発 表には 疑問を 感じた	東 海地震 は東海 地震と 結びつ くもの ではな い」と の発 表を聞 いても 安心で きない	東 海地震 は東海 地震と 結びつ くもの ではな い」と の発 表を聞 いても 安心で きない という 疑念が 強まった	い った い「東 海地震 は東海 地震と 結びつ くもの ではな い」と いう 疑念が 強まった	そ の 他	特 に何 も感 じな かつ
全 体	799	16.7	66.6	55.9	16.5	33.8	49.8	2.4	3.6		
回答者の性・年代別											
男性 若年層	155	15.5	64.5	51.0	12.9	28.4	36.8	1.9	7.7		
中年層	181	17.1	59.1	54.1	24.3	32.0	45.9	2.2	3.9		
高年層	53	20.8	69.8	45.3	11.3	35.8	37.7	-	5.7		
女性 若年層	251	17.5	70.9	59.0	15.1	36.3	57.4	2.4	2.8		
中年層	135	13.3	68.9	60.0	14.8	38.5	60.7	4.4	-		
高年層	24	20.8	70.8	70.8	16.7	25.0	50.0	-	-		
対策実施度別（問26 地震前の備え実施回数）											
対策なし	154	11.7	55.2	50.0	13.0	31.2	51.9	1.3	5.8		
低（1～2個）	355	18.0	62.5	53.2	16.1	31.8	49.3	1.7	5.1		
中（3～4個）	181	14.4	75.1	60.2	19.9	34.8	50.8	3.3	1.1		
高（5個以上）	109	22.9	81.7	66.1	17.4	42.2	46.8	4.6	-		

(2) 東海地震関連情報の内容認知

「内容まで知っている」は2割程度

問 20 「東海地震観測情報」、「東海地震注意情報」、「東海地震予知情報（警戒宣言）」について



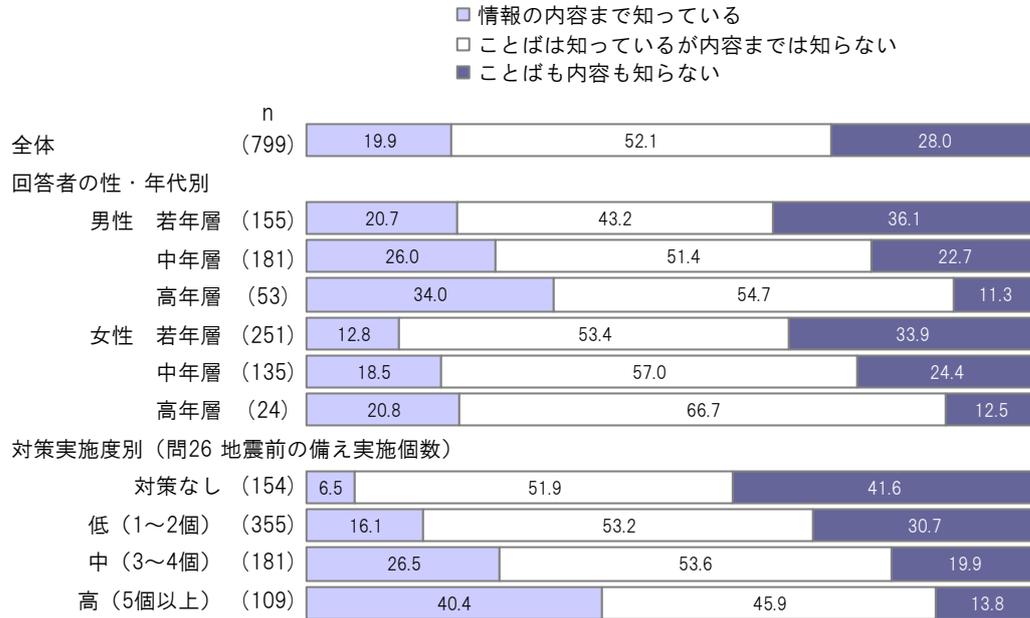
東海地震関連情報についてそれぞれの情報の認知について尋ねた。「情報の内容まで知っている」は観測情報（19.9%）で2割弱、注意情報（15.8%）で1割台半ば、予知情報（警戒宣言）（20.8%）で2割にとどまっている。

性・年代別にみると、いずれの情報の認知も年代が高くなるにつれて高くなっている。特に男性・高年層で認知が高く、「情報の内容まで知っている」は観測情報（34.0%）で3割台半ば、注意情報（28.3%）で3割弱、予知情報（警戒宣言）（35.9%）で3割台半ばとなっている。一方「ことばも内容も知らない」は若年層で高く、注意情報（）で4割程度、観測情報、予知情報（警戒宣言）で3割台半ばとなっている。

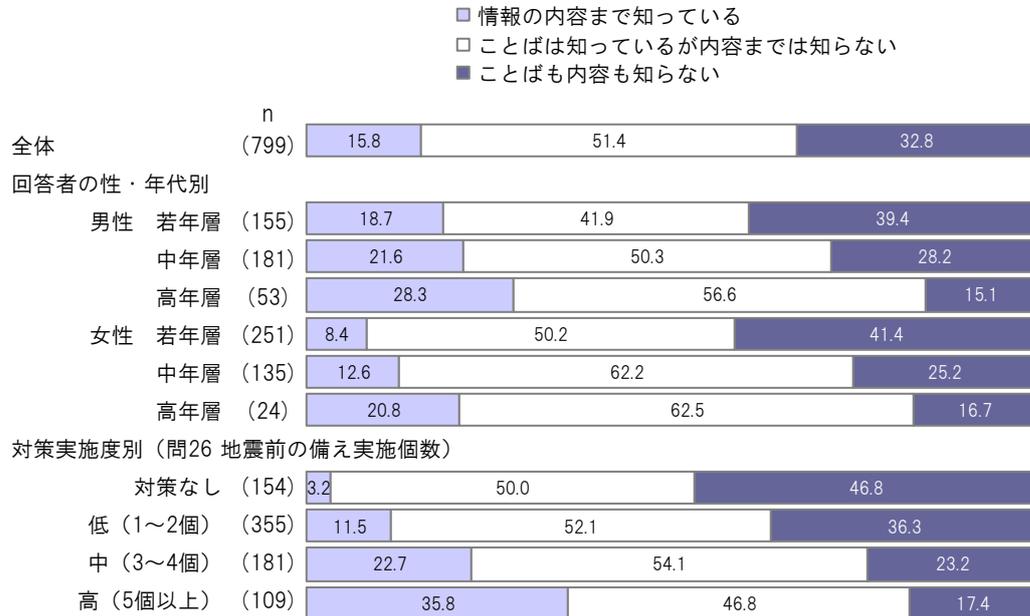
対策実施度別にみると、いずれの情報の認知も実施度：高で高く、「情報の内容まで知っている」は観測情報（40.4%）で4割、注意情報（35.8%）で3割台半ば、予知情報（警戒宣言）（47.7%）で5割弱となっている。一方「ことばも内容も知らない」は実施度：対策なしで高くなり、注意情報（46.8%）で4割台半ば、「観測情報」（41.6%）、「予知情報（警戒宣言）」（40.9%）で4割強となっている。

性・年代別／対策実施度別

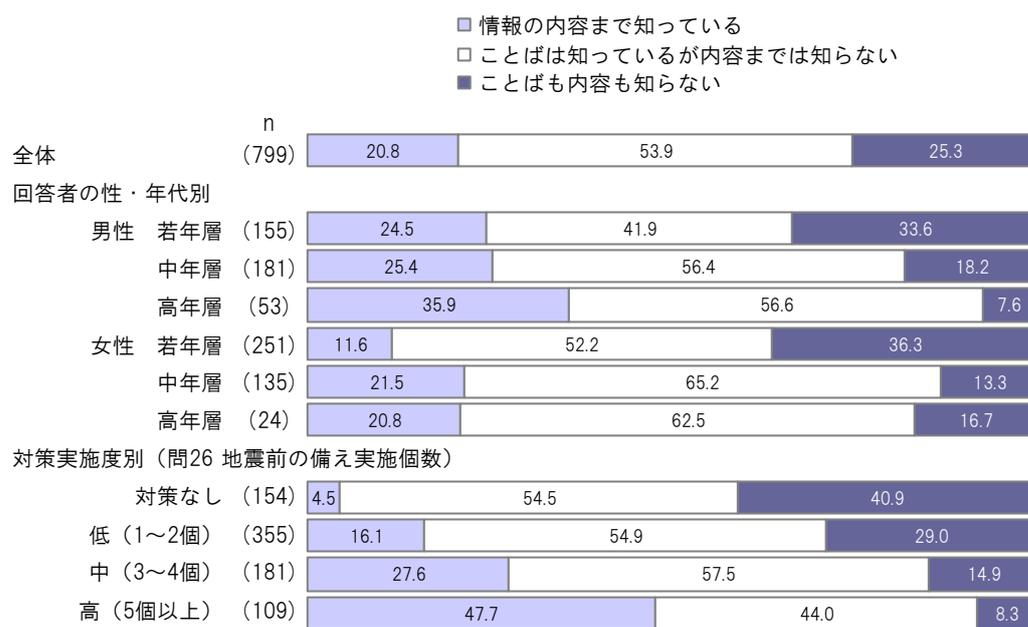
○「東海地震観測情報」



○「東海地震注意情報」



○「東海地震予知情報（警戒宣言）」

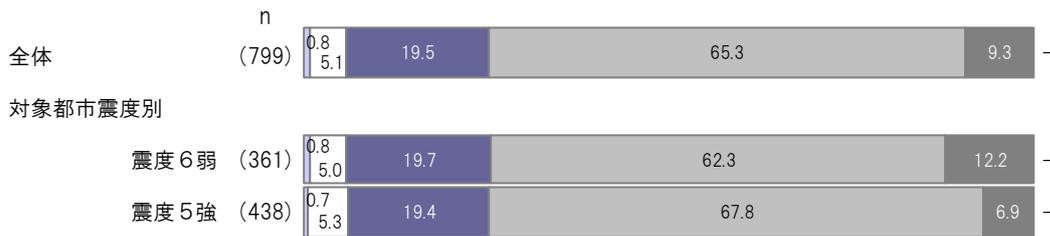


(3) 「東海地震」 予知の可能性

「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が6割台半ば

問 21 あなたは、現時点で「東海地震」は予知できると思いますか。

- 完全に予知できると思う
- 8割以上の確率で予知できると思う
- 5割くらいの確率で予知できると思う
- 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う
- 予知できないと思う
- その他

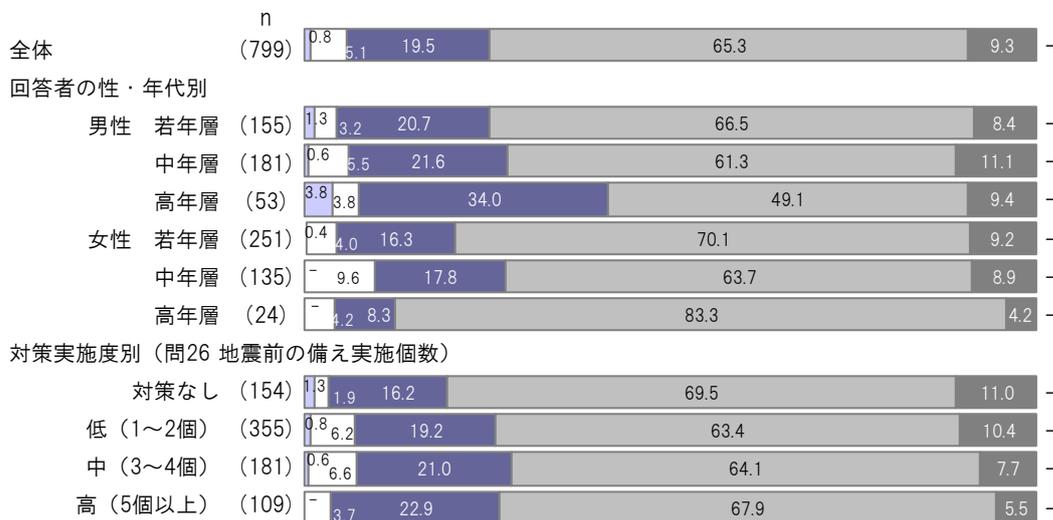


現時点で「東海地震」は予知できると思うかを尋ねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(65.3%)との回答が最も高く6割台半ばを占めている。次いで高くなったのは「5割くらいの確立で予知できると思う」(19.5%)で、2割弱となっている。一方「予知できないと思う」(9.3%)は1割弱に満たない。

性・年代別にみると、「5割くらいの確率で予知できると思う」との回答は男性・高年層(34.0%)で3割台半ばと高い。

性・年代別／対策実施度別

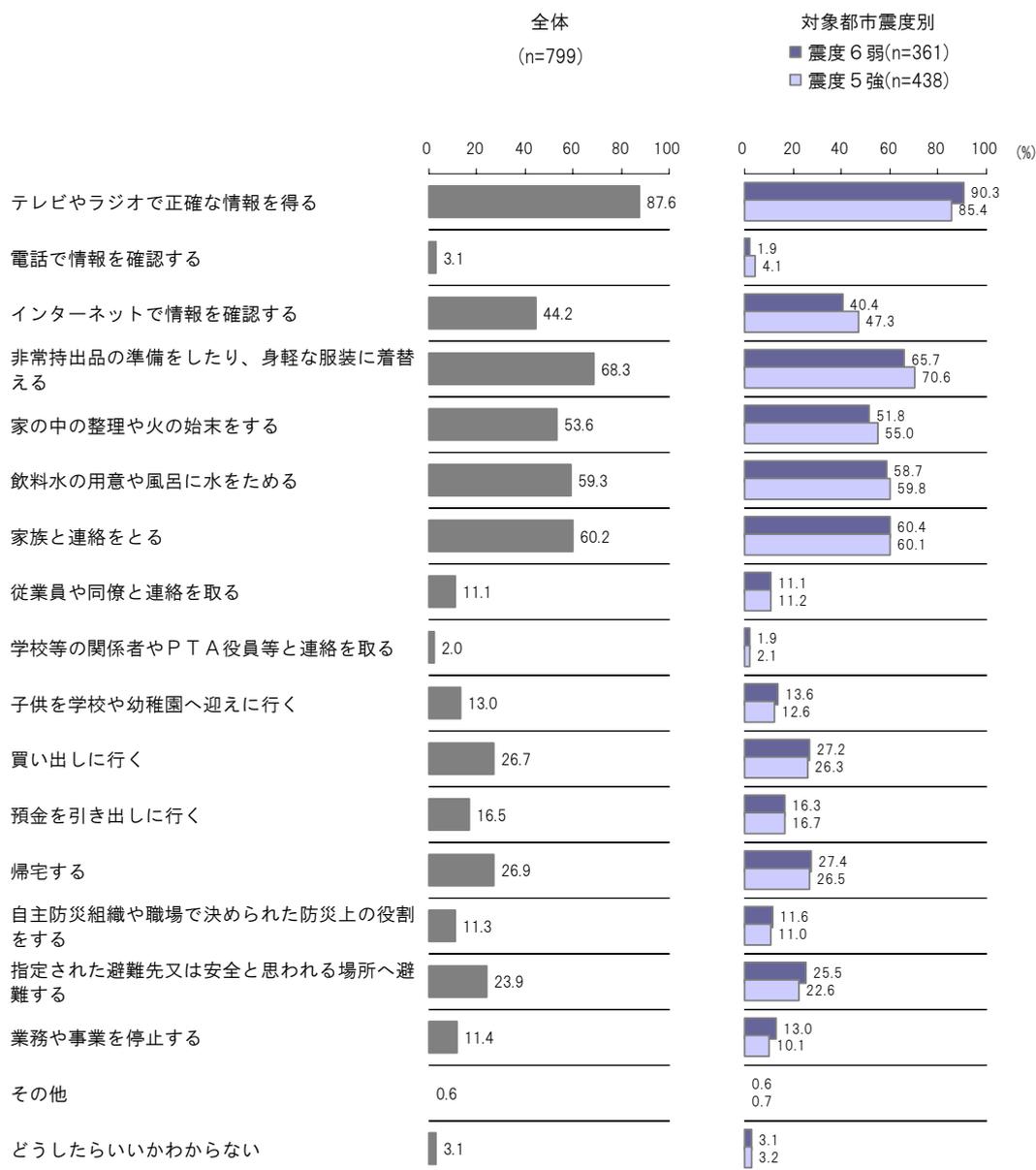
- 完全に予知できると思う
- 8割以上の確率で予知できると思う
- 5割くらいの確率で予知できると思う
- 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う
- 予知できないと思う
- その他



(4) 「東海地震注意情報」発表時の行動

「テレビやラジオで正確な情報を得る」が9割弱

問 22 「警戒宣言」を発表するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。そのときあなたはどのようにしますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



「東海地震注意情報」が発表された場合にどうするかを尋ねたところ、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(87.6%)との回答が最も高く9割弱と大半を占めている。次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(68.3%)が7割弱、「家族と連絡をとる」(60.2%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(59.3%)が6割程度となっている。

IV. 調査結果

性・年代別にみると、女性・中年層では、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(80.7%)、「家族と連絡をとる」(75.6%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(75.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(68.9%)などの回答が高いほか、「帰宅する」(38.5%)、「買出しに行く」(37.0%)との回答がほかの性・年代よりも高くなっている。

対策実施度別にみると、実施度：高では、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(86.2%)、「家族と連絡をとる」(82.6%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(82.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(73.4%)との回答が高いほか、「帰宅する」(39.4%)、「自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする」(26.6%)、「業務や事業を停止する」(22.9%)との回答がほかの対策実施度よりも高くなっている。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	確 テ レ ビ や ラ ジ オ で 正	る 電 話 で 情 報 を 確 認 す	報 を 確 認 す る 情 報	に 着 替 え る 身 軽 な 服 装 を	始 末 を す る 整 理 や 火 の	に 飲 料 水 の 用 意 や 風 呂	家 族 と 連 絡 を と る	を 取 業 員 や 同 僚 と 連 絡	取 る 学 校 等 の 関 係 者 や P A 等 と 連 絡	へ 子 供 を 学 校 や 幼 稚 園	買 い 出 し に 行 く	預 金 を 引 き 出 し に 行	帰 宅 す る	
全 体	799	87.6	3.1	44.2	68.3	53.6	59.3	60.2	11.1	2.0	13.0	26.7	16.5	26.9	
回答者の性・年代別															
男性 若年層	155	83.9	5.2	51.0	57.4	41.9	49.0	48.4	13.5	1.3	18.7	24.5	12.3	24.5	
中年層	181	88.4	2.8	48.1	58.6	45.3	50.3	50.3	12.7	2.2	8.8	21.5	12.2	26.5	
高年層	53	86.8	1.9	32.1	66.0	45.3	64.2	49.1	3.8	-	5.7	20.8	11.3	15.1	
女性 若年層	251	88.4	3.6	42.2	76.1	59.0	60.6	69.7	9.6	2.4	15.5	29.1	20.3	25.5	
中年層	135	90.4	1.5	40.0	80.7	68.9	75.6	75.6	11.9	3.0	11.9	37.0	23.0	38.5	
高年層	24	83.3	-	41.7	66.7	66.7	79.2	50.0	12.5	-	4.2	8.3	12.5	20.8	
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)															
対策なし	154	78.6	4.5	40.9	55.8	45.5	42.9	46.8	7.8	1.3	5.2	24.7	16.9	20.1	
低 (1~2個)	355	88.2	2.8	43.1	62.8	49.0	56.1	55.5	10.1	1.1	12.1	25.1	13.2	20.3	
中 (3~4個)	181	91.2	3.9	46.4	79.0	57.5	65.7	67.4	12.7	3.3	15.5	28.2	19.3	38.1	
高 (5個以上)	109	92.7	0.9	48.6	86.2	73.4	82.6	82.6	16.5	3.7	22.9	32.1	22.0	39.4	

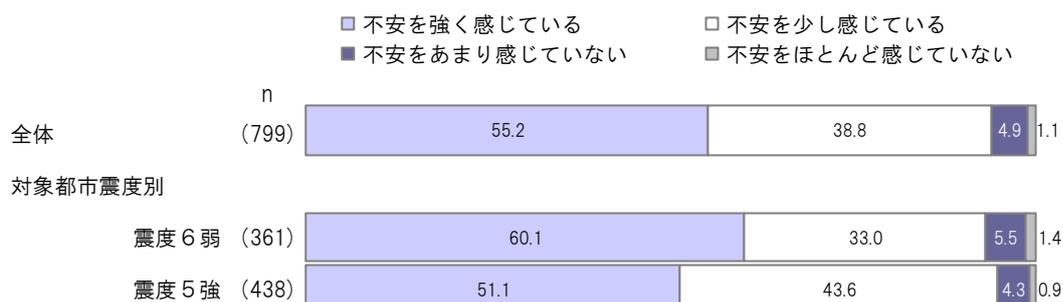
	n	の で 自 主 防 災 組 織 や 災 災 上 場	所 は 指 定 さ れ た 避 難 先 場 又	る 業 務 や 事 業 を 停 止 す	そ の 他	か ど う な し た ら い い か わ
全 体	799	11.3	23.9	11.4	0.6	3.1
回答者の性・年代別						
男性 若年層	155	10.3	19.4	15.5	1.9	8.4
中年層	181	14.9	21.0	14.4	-	2.2
高年層	53	15.1	17.0	13.2	-	5.7
女性 若年層	251	6.8	27.9	5.6	0.4	2.0
中年層	135	12.6	27.4	13.3	0.7	-
高年層	24	20.8	29.2	8.3	-	-
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)						
対策なし	154	4.5	18.2	7.8	0.6	7.1
低 (1~2個)	355	6.5	21.7	7.9	0.6	3.4
中 (3~4個)	181	17.1	29.3	14.4	-	1.1
高 (5個以上)	109	26.6	30.3	22.9	1.8	-

4 東海地震に対する意識

(1) 「東海地震」に対する不安

「不安を強く感じている」が5割台半ば

問 23 あなたは、東海地震に対する不安を感じていますか。

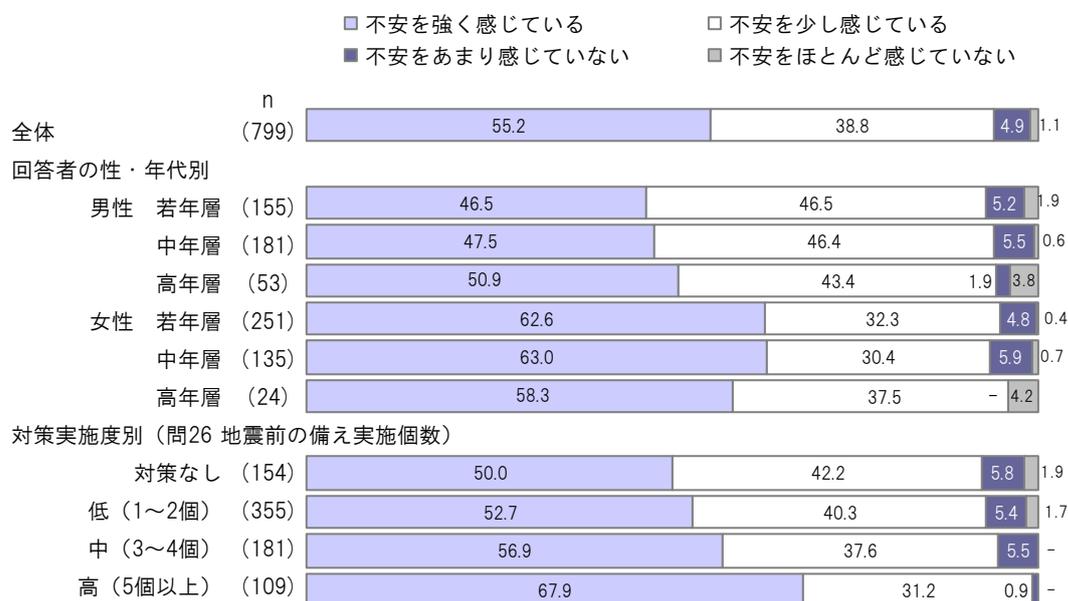


「東海地震」に対する不安感を尋ねたところ、「不安を強く感じている」(55.2%)との回答が最も高く5割台半ばで、「不安を少し感じている」(38.8%)との回答を合わせると9割台半ばとなり大半を占めている。

性・年代別にみると、「不安を強く感じている」との回答は女性・若年層(62.6%)、女性・中年層(63.0%)で6割台となり、男性より女性の方が不安を感じている傾向がみられる。

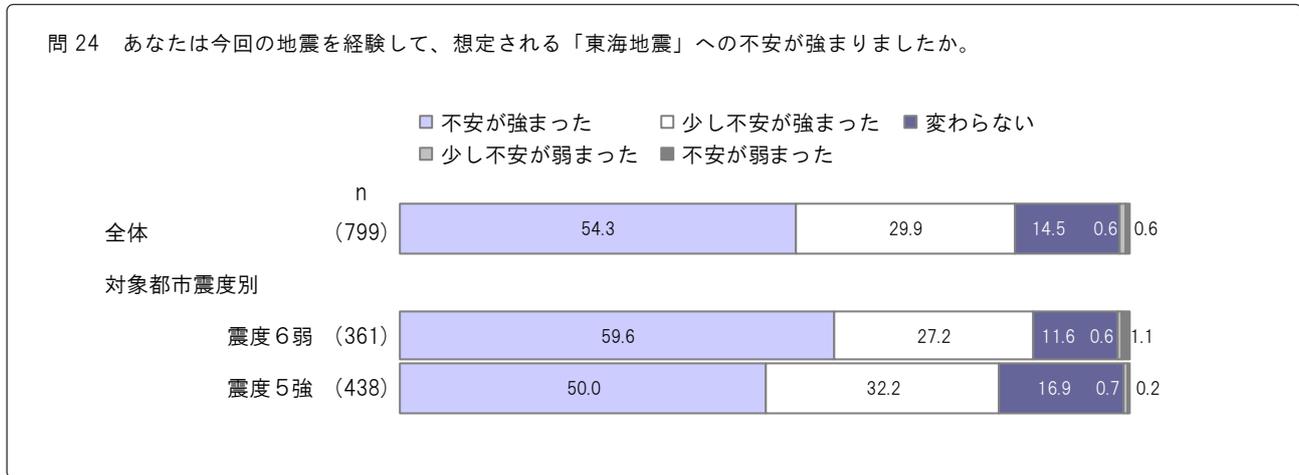
対策実施度別にみると、「不安を強く感じている」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(67.9%)で7割弱となっている。

性・年代別／対策実施度別



(2) 地震後の「東海地震」への不安の変化

「不安が強まった」が5割台半ば、「少し不安が強まった」が3割

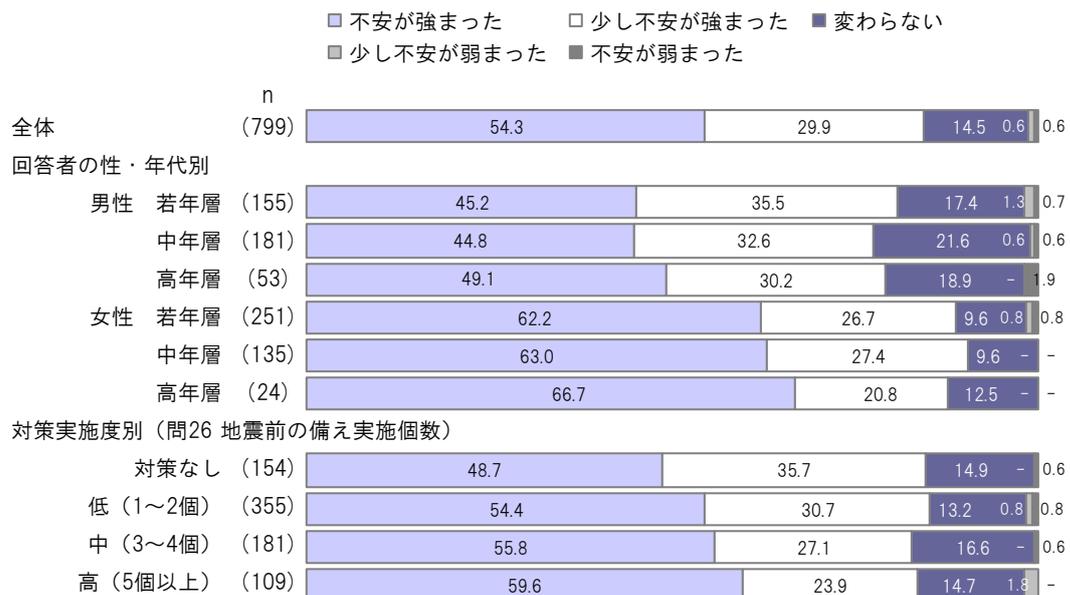


今回の地震を経験して、想定される「東海地震」への不安が強まったかを尋ねたところ、「不安が強まった」(54.3%)との回答が最も高く5割台半ばを占め、「少し不安が強まった」(29.9%)と合わせると8割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「不安が強まった」との回答は女性・中年層(63.0%)と女性・若年層(62.2%)で6割台となり、女性の方が男性より不安が強まっている傾向がみられる。

対策実施度別にみると、「不安が強まった」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(59.6%)で6割弱となっている。

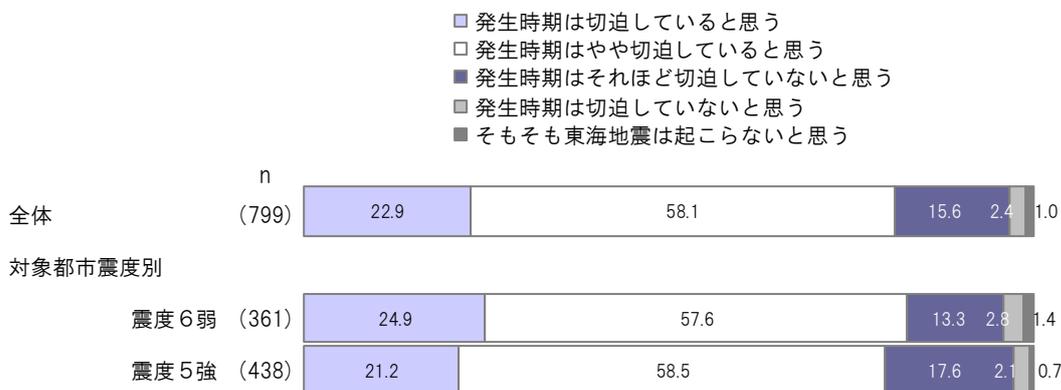
性・年代別／対策実施度別



(3)「東海地震」の切迫感

「切迫している」が2割強、「やや切迫している」6割弱

問 25 あなたは近い将来「東海地震」が実際に発生すると思いますか。また、その時期はいつごろだと思いますか。

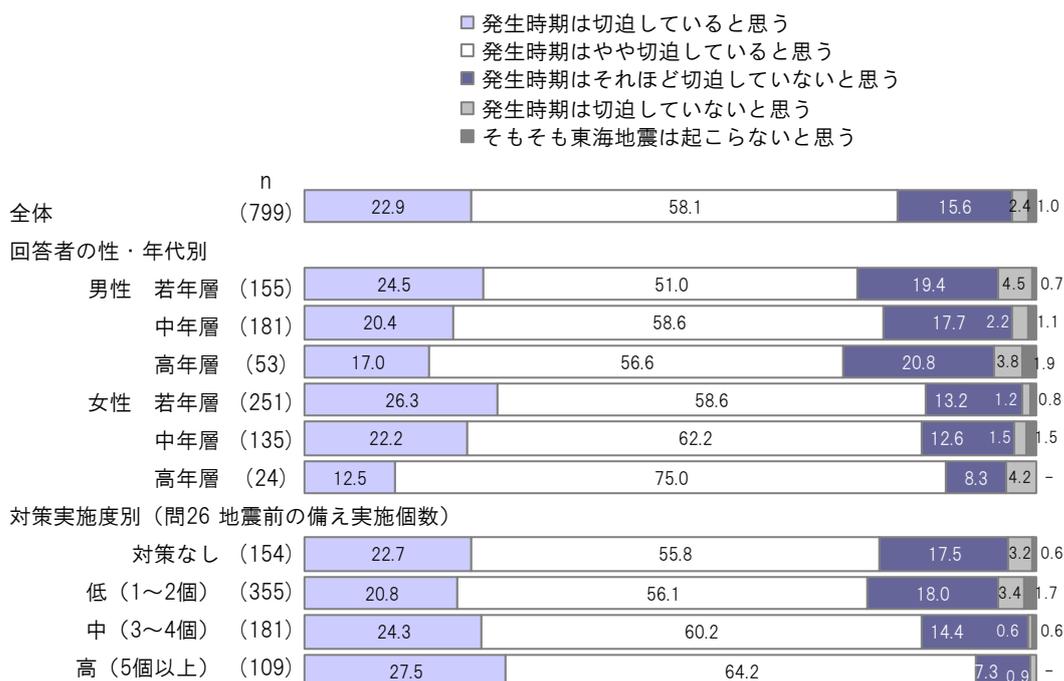


近い将来「東海地震」が実際に発生するか、また時期はいつごろだと思うかを尋ねたところ、「発生時期はやや切迫していると思う」(58.1%)との回答が最も高く6割弱を占め、「発生時期は切迫していると思う」(22.9%)を合わせると『切迫している』と感じている人は8割強となっている。

性・年代別にみると、「発生時期は切迫していると思う」は男女ともに年代が低いほど高くなっている。

対策実施度別にみると、「発生時期はやや切迫していると思う」との回答は実施度：高(64.2%)で6割台半ばと高くなっている。

性・年代別／対策実施度別



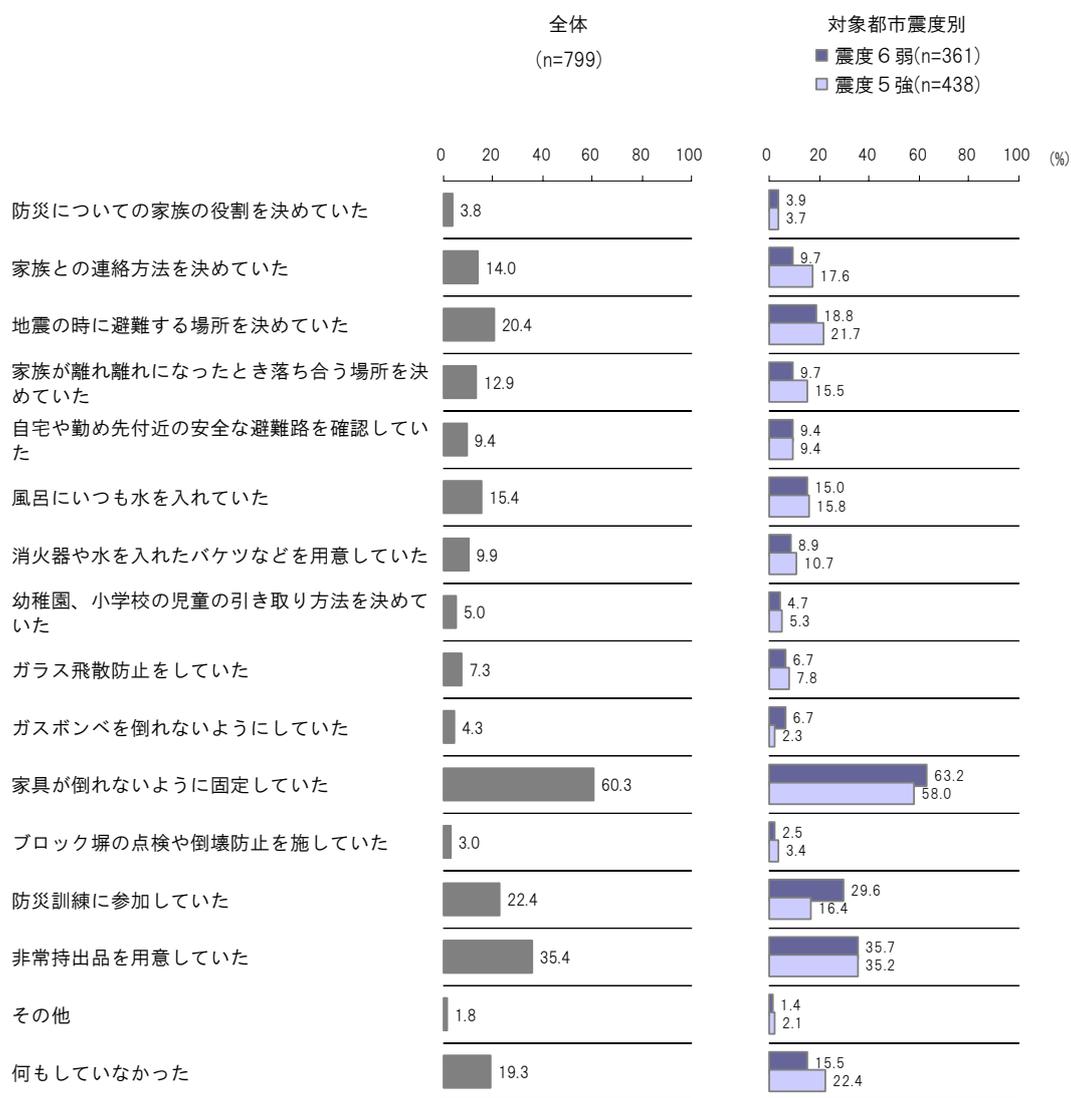
5 地震への備え

(1) 地震に対する備え

① 今回の地震前の備え

「家具が倒れないように固定していた」が6割

問 26 今回の地震が起こる前と起こった後での対策についておうかがいします。地震に備えてお宅で行っているものがありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。※今回の地震前の状況をお答えください。



地震に備えて行っているものについて尋ねたところ、「家具が倒れないように固定した」(60.3%)との回答が最も高く6割を占めている。次いで「非常持出品を用意していた」(35.4%)、「防災訓練に参加していた」(22.4%)、「地震の時に避難する場所を決めていた」(20.4%)が続いている。

対象都市震度別にみると、「防災訓練に参加していた」との回答は震度6弱（29.6%）で3割弱と高くなっている。

性・年代別にみると、「家族との連絡方法を決めていた」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層（26.4%）で2割台半ばとなっている。「防災訓練に参加していた」との回答は女性・中年層（34.1%）で3割台半ばと高くなっている。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

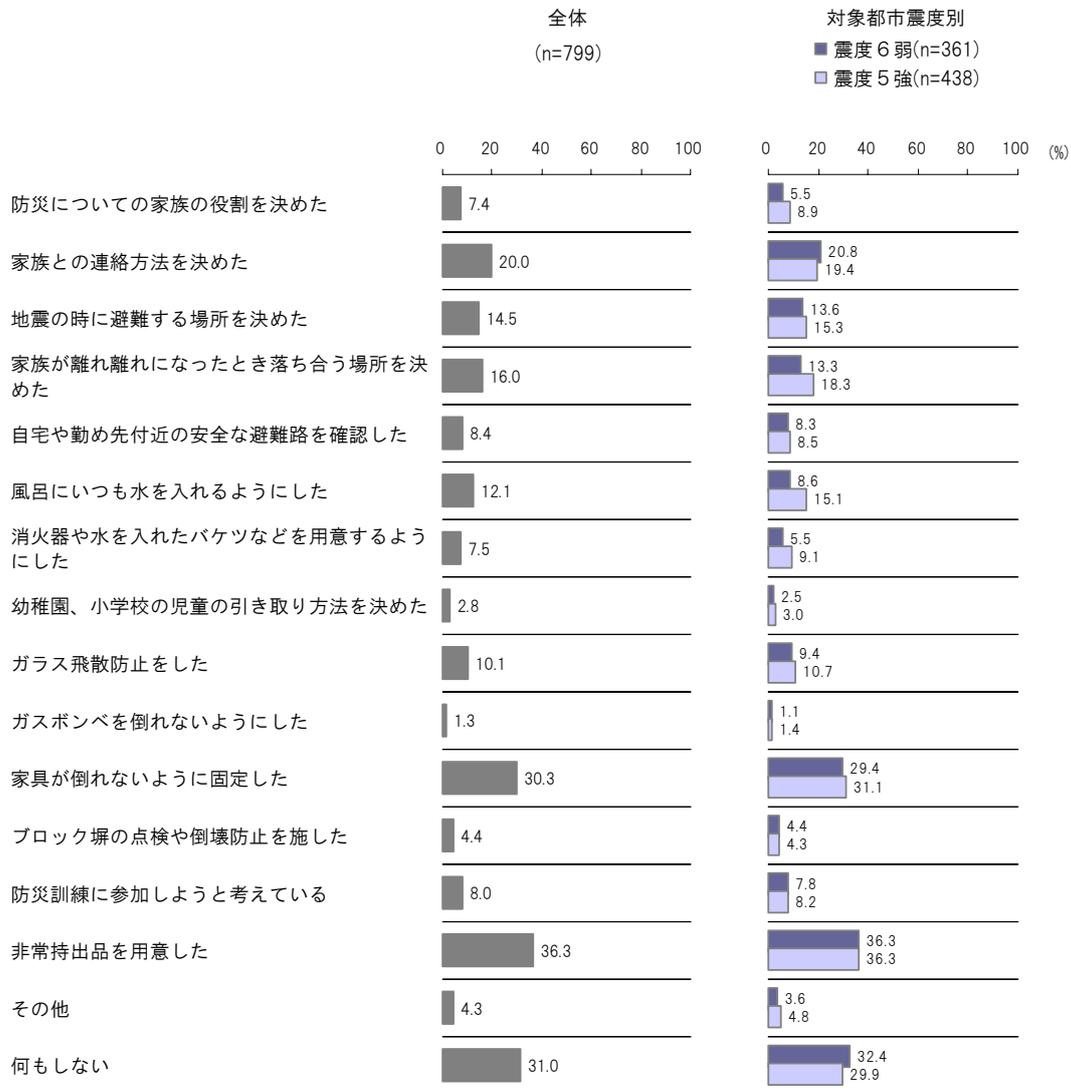
	n	の 防 災 割 を 決 め て い た 家 族	決 め て い た 家 族 と の 連 絡 方 法 を	場 所 を 決 め て い た 避 難 す る	場 所 を 決 め て い た 離 れ 合 う	安 全 な 避 難 路 を 確 認 し た	自 宅 の 先 付 近 の 路 を 確 認 し た	風 呂 に い つ も 水 を 入 れ て い た	バ ケ ッ ツ な ど を 入 意 し た	消 火 器 や 水 を 入 意 し た	決 め て い た 取 り 方 法 を 確 認 し た	幼 稚 園 、 小 学 校 の 児 童 を 引 き 取 り 方 法 を 確 認 し た	ガ ラ ス 飛 散 防 止 を し た	ガ ス ボ ン に し て い た 倒 れ な い よ う な 防 止 を し た	家 具 が 倒 れ な い よ う な 防 止 を し た	倒 壊 防 止 を 施 し て い た	ブ ロ ッ ク 塀 の 点 検 い や を し た	防 災 訓 練 に 参 加 し て い た	
全 体	799	3.8	14.0	20.4	12.9	9.4	15.4	9.9	5.0	7.3	4.3	60.3	3.0	22.4					
回答者の性・年代別																			
男性 若年層	155	1.9	7.7	11.6	7.1	7.1	12.9	9.0	4.5	2.6	3.2	53.5	2.6	13.5					
男性 中年層	181	3.9	14.9	22.7	10.5	14.4	16.0	11.0	3.3	7.7	7.7	65.7	3.3	30.4					
男性 高年層	53	7.5	26.4	26.4	18.9	13.2	11.3	5.7	1.9	11.3	3.8	62.3	5.7	26.4					
女性 若年層	251	5.2	13.1	19.9	14.3	6.4	13.5	6.4	6.8	6.4	0.8	56.6	2.0	13.5					
女性 中年層	135	2.2	17.8	26.7	17.0	8.9	23.0	17.0	6.7	10.4	5.2	65.2	3.0	34.1					
女性 高年層	24	-	8.3	16.7	16.7	12.5	12.5	-	-	16.7	16.7	70.8	8.3	37.5					
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）																			
対策なし	154	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
低（1～2個）	355	1.7	3.9	9.0	2.8	3.4	7.3	4.8	2.3	2.0	0.8	64.2	0.8	11.0					
中（3～4個）	181	3.3	19.9	31.5	18.2	9.9	27.6	13.3	6.6	11.6	8.8	82.9	3.9	40.9					
高（5個以上）	109	16.5	56.9	67.9	55.0	41.3	43.1	34.9	18.3	27.5	13.8	95.4	12.8	60.6					

	n	て 非 常 に 持 出 品 を 入 意 し た	そ の 他	何 も し て い な か っ た
全 体	799	35.4	1.8	19.3
回答者の性・年代別				
男性 若年層	155	28.4	1.3	24.5
男性 中年層	181	40.9	1.1	13.8
男性 高年層	53	37.7	1.9	18.9
女性 若年層	251	33.5	2.4	23.5
女性 中年層	135	37.0	2.2	14.1
女性 高年層	24	45.8	-	12.5
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）				
対策なし	154	-	-	100.0
低（1～2個）	355	26.8	2.3	-
中（3～4個）	181	56.4	0.6	-
高（5個以上）	109	78.9	4.6	-

②今回の地震後の備え

「非常持出品を用意した」、「家具が倒れないように固定した」が3割台

問 26-1 今回の地震後、地震に備えてお宅で行ったもの、または行おうとしているものはありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。※地震後の状況をお答えください。



地震発生後、地震に備えて行ったもの、または行おうとしているものを尋ねたところ、「非常持出品を用意した」(36.3%)との回答が最も高く3割台半ばとなり、次いで「家具が倒れないように固定した」(30.3%)、「家族との連絡方法を決めた」(20.0%)が続いている。一方、「何もしない」(31.0%)は3割強となっている。

性・年代別にみると、「家具が倒れないように固定した」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、女性・中年層(37.0%)で3割台半ばとなっている。

対策実施度別にみると、「家族との連絡方法を決めた」と「家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めた」との回答は実施度：高で高く、家族で対策に取り組む姿勢がうかがえる。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

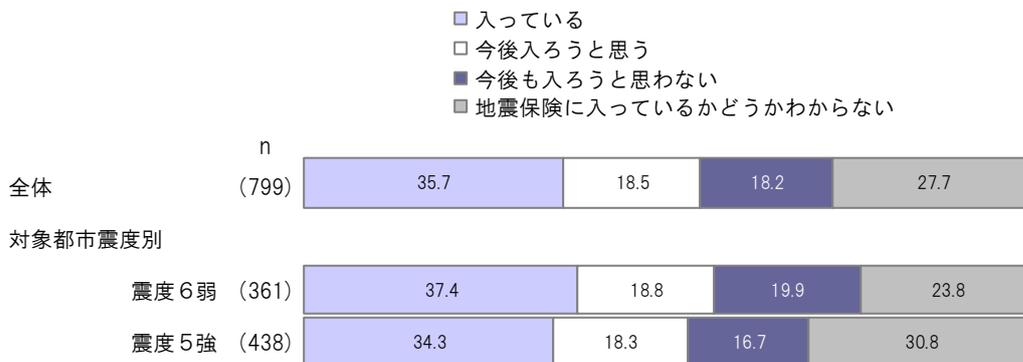
	n	の 防 災 に つ い て の 家 族 の 役 割 を 決 め た	家 族 と の 連 絡 方 法 を 決 め た	地 震 の 時 に 避 難 す る 場 所 を 決 め た	地 震 の 時 に 離 れ 合 う 場 所 を 決 め た	家 族 が 離 れ 合 う 場 所 を 決 め た	自 宅 や 近 所 の 避 難 路 を 確 認 し た	自 宅 や 近 所 の 避 難 路 を 確 認 し た	風 呂 に い つ も 水 を 入 れ る よ う に し た	消 火 器 や 水 を 入 れ た よ う に し た	決 め た 引 き 取 り 方 法 を 確 認 し た	幼 稚 園 、 小 学 校 の 児 童 の 引 き 取 り 方 法 を 確 認 し た	ガ ラ ス 飛 散 防 止 を し た	ガ ス ボ ン ベ を 倒 れ な い よ う に し た	家 具 が 倒 れ な い よ う に し た	倒 壊 防 止 を 施 し た	ブ ロ ツ ク 塀 の 点 検 や 倒 壊 防 止 を 施 し た	防 災 訓 練 に 参 加 し よ う と 考 え て い る	
全 体	799	7.4	20.0	14.5	16.0	8.4	12.1	7.5	2.8	10.1	1.3	30.3	4.4	8.0					
回答者の性・年代別																			
男性	若年層	155	6.5	15.5	13.5	11.6	7.7	7.7	3.9	2.6	9.0	-	23.9	5.2	6.5				
	中年層	181	7.2	18.8	9.4	12.7	5.0	11.6	5.0	2.2	7.7	1.7	26.5	4.4	6.6				
	高年層	53	13.2	13.2	11.3	18.9	5.7	9.4	11.3	1.9	13.2	-	34.0	-	5.7				
女性	若年層	251	7.2	20.3	16.7	15.9	8.4	11.6	9.2	3.2	8.0	1.2	31.9	4.0	7.6				
	中年層	135	7.4	28.9	20.0	23.7	14.1	17.0	11.1	3.7	17.8	3.0	37.0	6.7	14.1				
	高年層	24	4.2	20.8	12.5	20.8	12.5	29.2	4.2	-	8.3	-	37.5	-	4.2				
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）																			
	対策なし	154	1.9	10.4	5.8	4.5	1.9	5.8	4.5	0.6	6.5	-	22.7	0.6	2.6				
	低（1～2個）	355	6.2	18.9	13.0	13.2	6.5	9.9	5.1	2.0	7.6	0.6	27.6	3.9	6.2				
	中（3～4個）	181	8.8	22.1	16.0	16.0	8.8	13.8	12.2	2.2	9.9	1.7	33.1	7.2	7.7				
	高（5個以上）	109	16.5	33.9	29.4	41.3	22.9	25.7	11.9	9.2	23.9	4.6	45.0	6.4	22.0				

	n	た 非 常 持 出 品 を 用 意 し	そ の 他	何 も し な い	
全 体	799	36.3	4.3	31.0	
回答者の性・年代別					
男性	若年層	155	37.4	2.6	36.8
	中年層	181	23.2	4.4	33.1
	高年層	53	20.8	1.9	37.7
女性	若年層	251	43.8	3.6	28.3
	中年層	135	44.4	8.1	24.4
	高年層	24	37.5	4.2	29.2
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）					
	対策なし	154	33.1	0.6	50.6
	低（1～2個）	355	36.1	3.9	31.8
	中（3～4個）	181	34.3	5.0	24.9
	高（5個以上）	109	45.0	9.2	11.0

(2) 地震保険の加入状況

「入っている」が3割台半ば

問 27 お宅では地震保険に入っていますか。

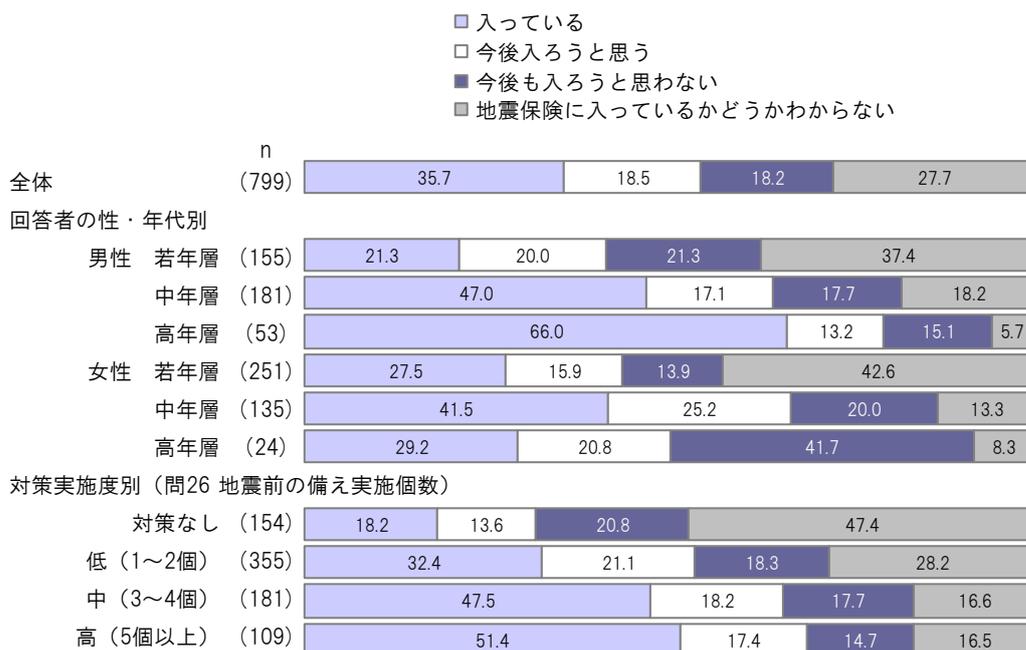


地震保険の加入状況を尋ねたところ、「入っている」(35.7%)との回答が最も高く3割台半ばとなっており、「今後入ろうと思う」(18.5%)という前向きな回答を合わせると過半数となっている。

性・年代別にみると、「入っている」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(66.0%)で6割台半ば、男性・中年層(47.0%)と女性・中年層(41.5%)で4割台となっている。

対策実施度別にみると、「入っている」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度:高(51.4%)では過半数を占めている。

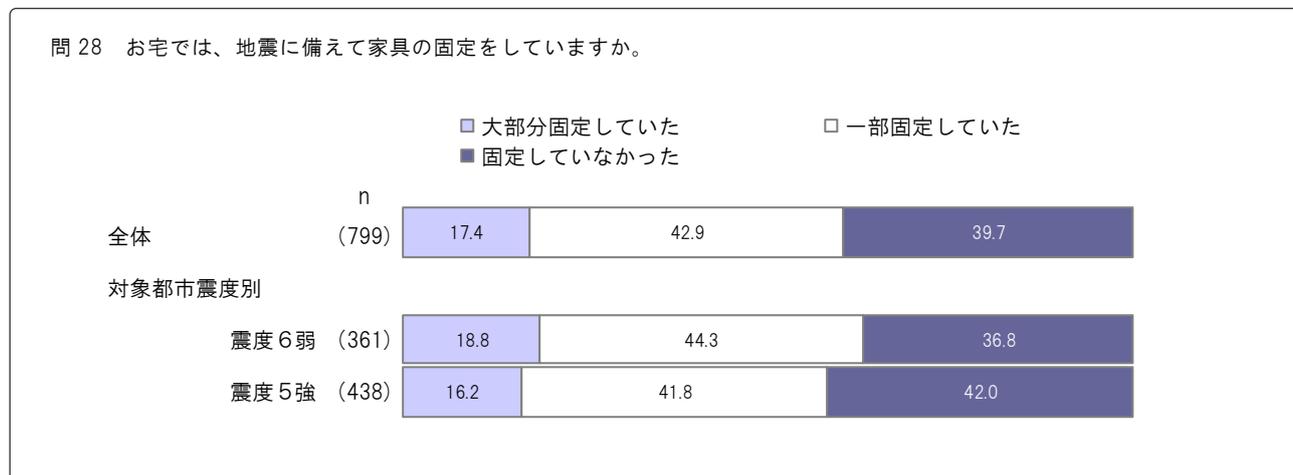
性・年代別／対策実施度別



(3) 家具の固定

①固定の実施状況

「大部分固定していた」 1割台半ば、「一部固定していた」 4割強

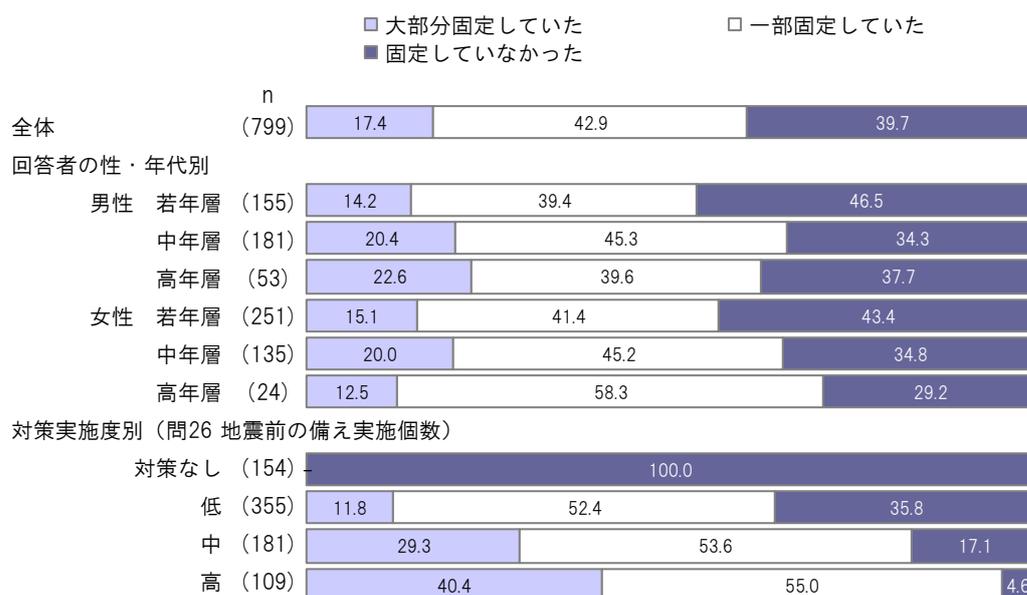


地震に備えて家具の固定をしているかを尋ねたところ、「大部分固定していた」(17.4%)との回答は2割弱で、「一部固定していた」(42.9%)を合わせると『固定している』との回答は6割となっている。

性・年代別にみると、「大部分固定していた」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(22.6%)で2割強となっている。

対策実施度別にみると、「大部分固定していた」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度高(40.4%)で4割となっている。

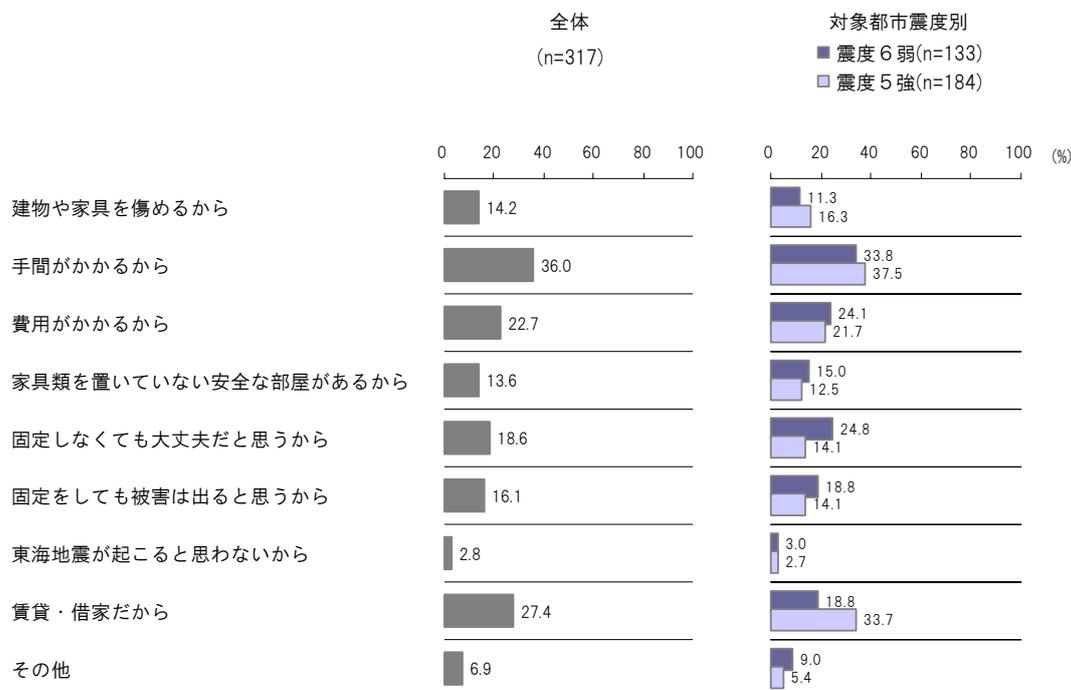
性・年代別／対策実施度別



②家具を固定していない理由

「手間がかかるから」 3割台半ば、「費用がかかる」 2割強

問 28-1 問 28 で「3 固定していなかった」を選んだ方におうかがいします。
家具の固定をしていなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



地震に備えて家具を固定していなかったと回答した317人に対し、その理由を尋ねたところ、「手間がかかるから」(36.0%)との回答が最も高く3割台半ばとなり、次いで「賃貸・借家だから」(27.4%)、「費用がかかるから」(22.7%)が2割台で続いている。

対象都市震度別にみると、「固定しなくても大丈夫だと思うから」との回答は震度6弱(24.8%)で2割台半ばと高くなっている。

性・年代別にみると、「固定しなくても大丈夫だと思うから」との回答は男性・中年層(32.3%)で3割強と高くなっている。また、女性・中年層では「手間がかかるから」(53.2%)と「費用がかかるから」(34.0%)との回答が高くなっている。

対策実施度別にみると、「手間がかかるから」と「費用がかかるから」は対策実施度が低くなるほど低くなっている。

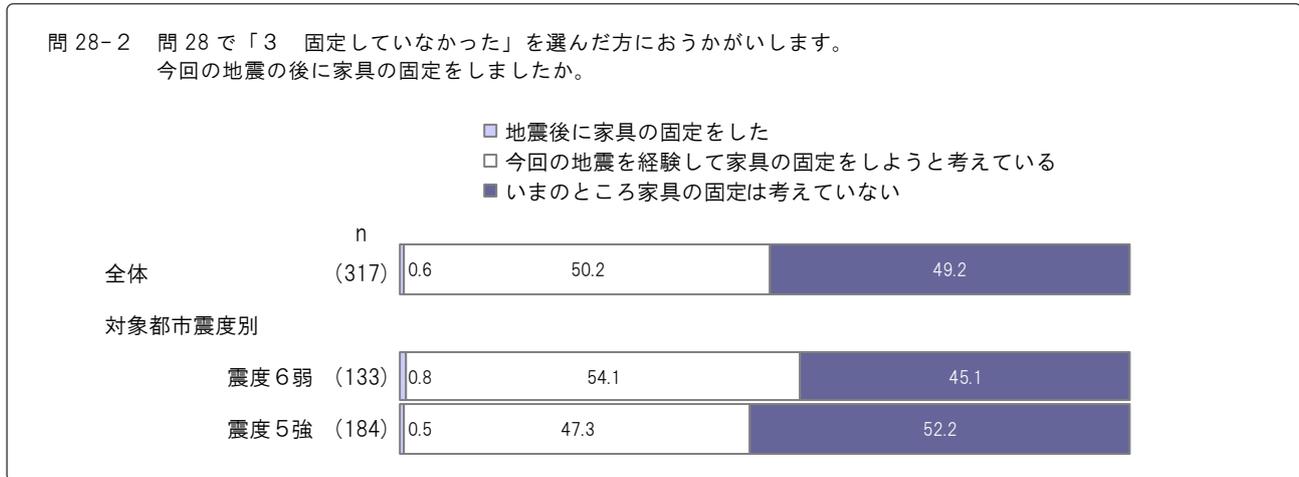
性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	か ら 建 物 や 家 具 を 傷 め る	手 間 が か か る か ら	費 用 が か か る か ら	か ら 安 全 な 部 屋 が あ る	家 具 類 を 置 い て い な い	夫 だ と 思 う か ら 大 丈 夫	固 定 し な く も 出 る と 思 う か ら	固 定 し て も 被 害 は	東 海 地 震 が 起 こ る と 思 わ な い	賃 貸 ・ 借 家 だ か ら	そ の 他
全 体	317	14.2	36.0	22.7	13.6	18.6	16.1	2.8	27.4	6.9		
回答者の性・年代別												
男性 若年層	72	16.7	34.7	23.6	9.7	13.9	15.3	4.2	36.1	5.6		
中年層	62	17.7	25.8	9.7	17.7	32.3	17.7	3.2	12.9	6.5		
高年層	20	10.0	50.0	30.0	30.0	15.0	25.0	-	-	-		
女性 若年層	109	11.9	33.0	22.9	7.3	12.8	15.6	0.9	40.4	10.1		
中年層	47	10.6	53.2	34.0	17.0	23.4	14.9	6.4	17.0	6.4		
高年層	7	28.6	28.6	28.6	42.9	14.3	-	-	14.3	-		
対策実施度別（問26 地震前の備え実施個数）												
対策なし	154	16.2	40.3	24.7	9.1	17.5	14.9	3.2	30.5	3.9		
低（1～2個）	127	12.6	31.5	21.3	15.7	21.3	16.5	3.1	24.4	9.4		
中（3～4個）	31	6.5	32.3	19.4	19.4	16.1	16.1	-	29.0	12.9		
高（5個以上）	5	40.0	40.0	20.0	60.0	-	40.0	-	-	-		

③地震後の家具の固定

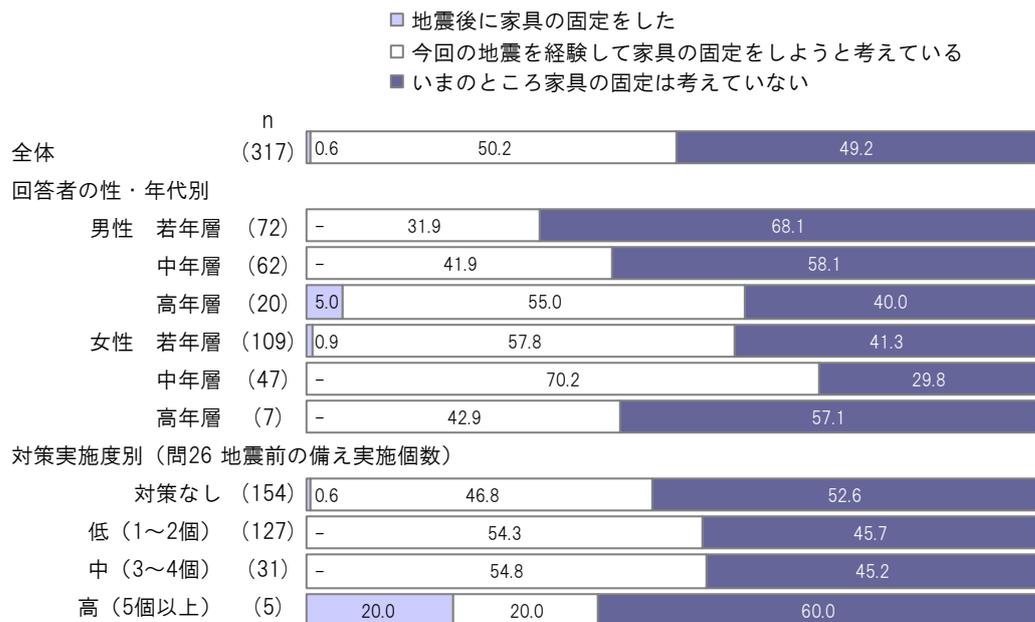
「今回の地震を経験して家具の固定をしようと考えている」が半数



地震に備えて家具を固定していなかったと回答した317人に対し、今回の地震の後に家具の固定をしたか尋ねたところ、「今回の地震を経験して家具の固定をしようと考えている」(50.2%)との回答が最も高く半数を占めたが、「いまのところ家具の固定は考えていない」(49.2%)も5割弱となり、意見が分かれている。

性・年代別にみると、「今回の地震を経験して家具の固定をしようと考えている」との回答は女性・中年層(70.2%)で7割、女性・若年層(57.8%)で6割弱となり、男性より女性の方が高い傾向がみられる。

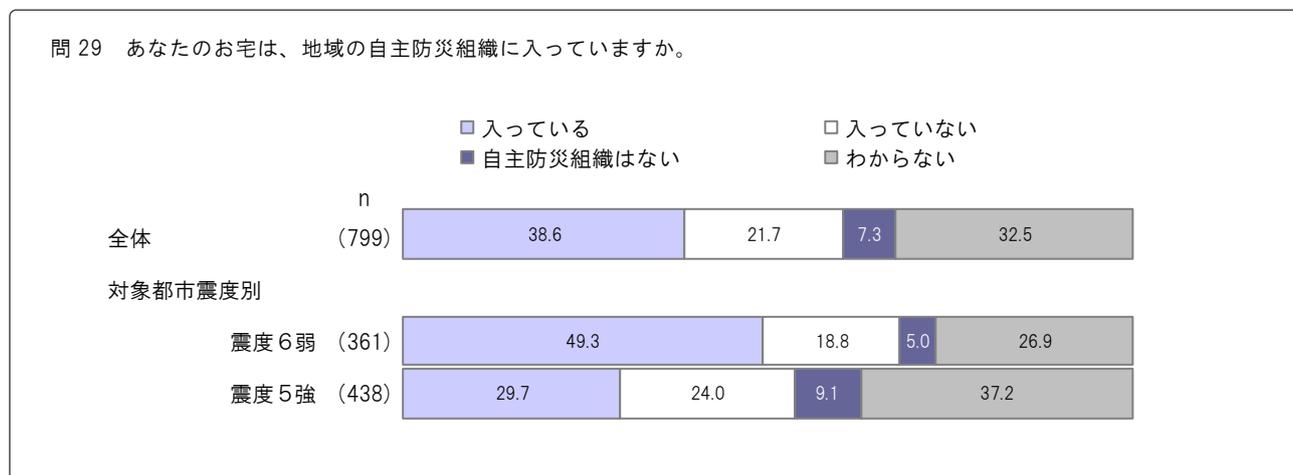
性・年代別／対策実施度別



(4) 地域の自主防災組織

①自主防災組織の加入状況

「入っている」が4割弱



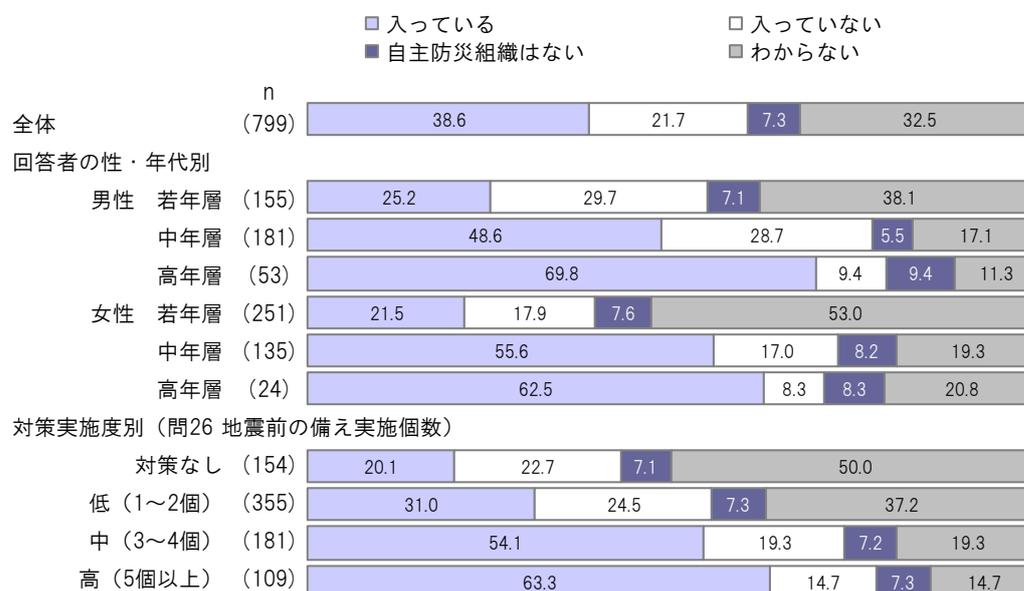
地域の自主防災組織への加入状況を尋ねたところ、「入っている」(38.6%)との回答が最も高く4割弱となっている。

対象都市震度別にみると、「入っている」との回答は震度6弱(49.3%)で5割弱と高い。

性・年代別にみると、「入っている」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(69.8%)で7割弱、女性・中年層(55.6%)で5割台半ば、男性・中年層(48.6%)で5割弱となっている。

対策実施度別にみると、「入っている」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度:高(63.3%)で6割強、実施度:中(54.1%)で5割台半ばとなっている。

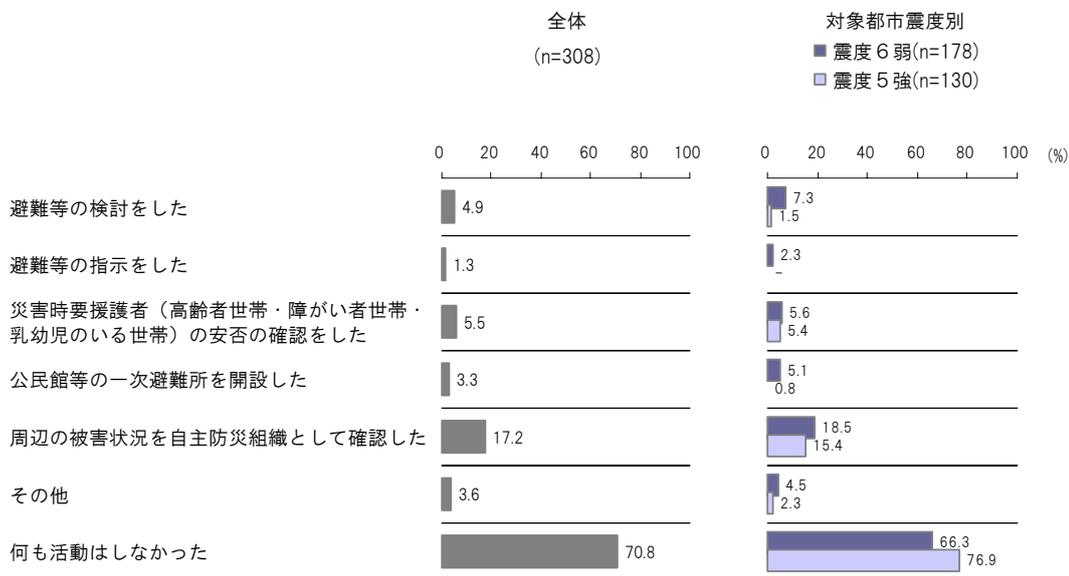
性・年代別／対策実施度別



②自主防災組織での対応行動

「何もしなかった」が7割

問 29-1 問 29 で「1 入っている」を選んだ方におうかがいします。
 あなたの加入されている自主防災組織では、今回の地震で何か行動を起こしましたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。



地域の自主防災組織に入っていると回答した308人に対し、今回の地震で加入している自主防災組織での行動を尋ねたところ、「何も活動はしなかった」（70.8%）との回答が最も高く7割を占めている。対応行動の中では「周辺の被害状況を自主防災組織として確認した」（17.2%）が高く2割弱となっている。

性・年代別にみると男性・若年層では「災害時要援護者（高齢者世帯・障がい者世帯・乳幼児のいる世帯）の安否を確認した」（12.8%）と「避難等の検討をした」（10.3%）との回答が高くなっている。

対策実施度別にみると、「周辺の被害状況を自主防災組織として確認した」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高（24.6%）で2割台半ばとなっている。

性・年代別／対策実施度別

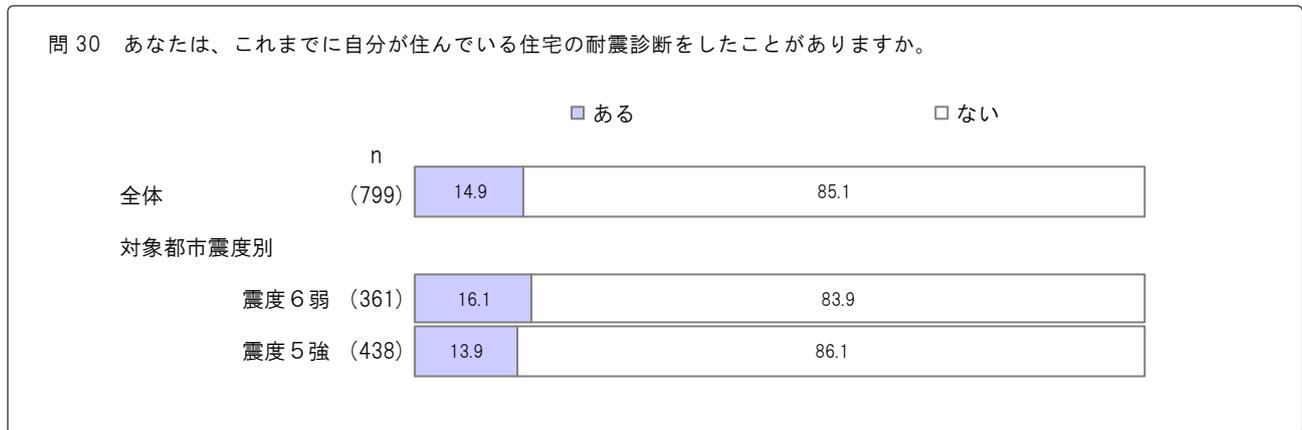
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	避難等の検討をした	避難等の指示をした	幼児のいる世帯の安全の確認をした	災害時要保護者(高齢者・障がい者・乳児)の世帯の安全の確認をした	公民館等の開設した	認主防した	周辺の被害状況を自	その他	た何も活動はしなかつ
全体	308	4.9	1.3	5.5	3.2	17.2	3.6	70.8		
回答者の性・年代別										
男性										
若年層	39	10.3	2.6	12.8	7.7	17.9	5.1	53.8		
中年層	88	4.5	-	5.7	2.3	20.5	1.1	73.9		
高年層	37	2.7	-	5.4	-	21.6	2.7	73.0		
女性										
若年層	54	5.6	3.7	3.7	5.6	13.0	5.6	72.2		
中年層	75	4.0	1.3	2.7	2.7	12.0	5.3	74.7		
高年層	15	-	-	6.7	-	26.7	-	66.7		
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施回数)										
対策なし	31	3.2	-	-	-	9.7	-	87.1		
低 (1~2個)	110	6.4	2.7	5.5	3.6	12.7	3.6	73.6		
中 (3~4個)	98	4.1	1.0	5.1	4.1	19.4	5.1	69.4		
高 (5個以上)	69	4.3	-	8.7	2.9	24.6	2.9	60.9		

(5) 耐震診断

①耐震診断の実施状況

「ある」が1割台半ば

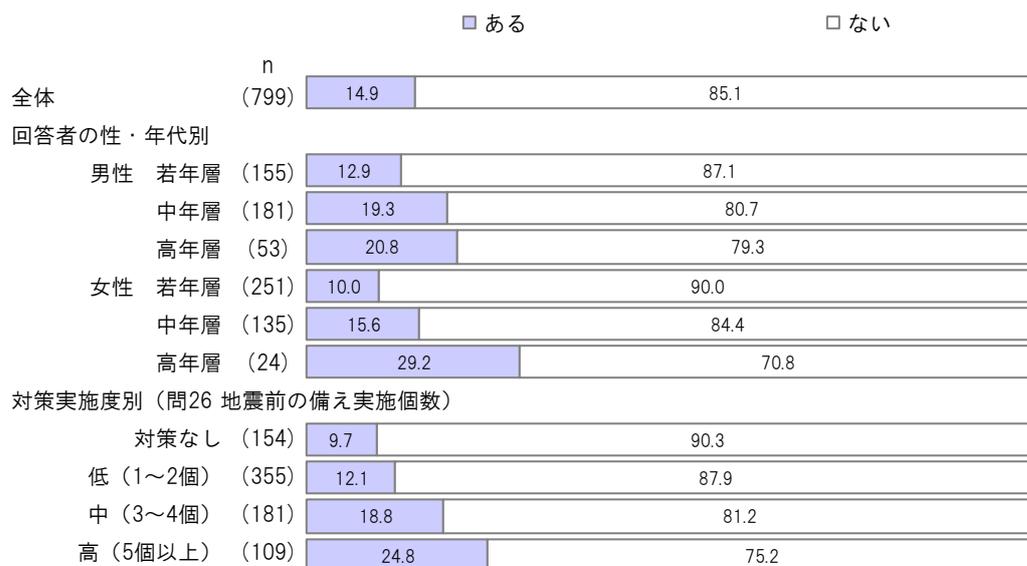


住んでいる住宅の耐震診断の実施状況を尋ねたところ、「ある」(14.9%)との回答は1割台半ばで、「ない」(85.1%)との回答は8割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「ある」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(20.8%)で2割となっている。

対策実施度別にみると、「ある」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(24.8%)で2割台半ばとなっている。

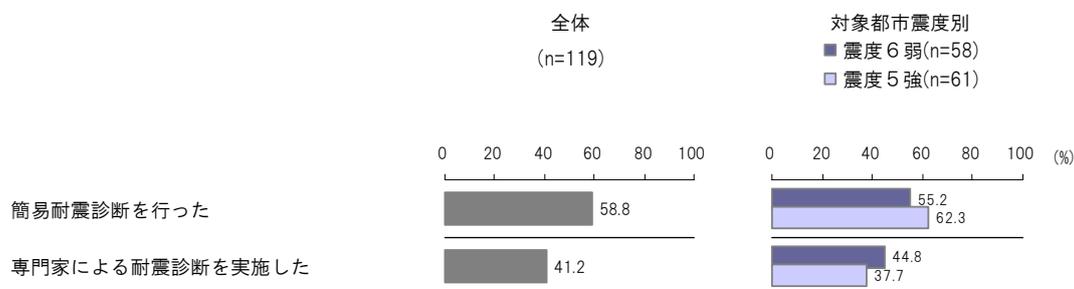
性・年代別／対策実施度別



②耐震診断の種類

「簡易耐震診断を行った」が6割弱

問30-1 問30で「1 ある」を選んだ方におうかがいします。
 どのような耐震診断をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選び下さい。



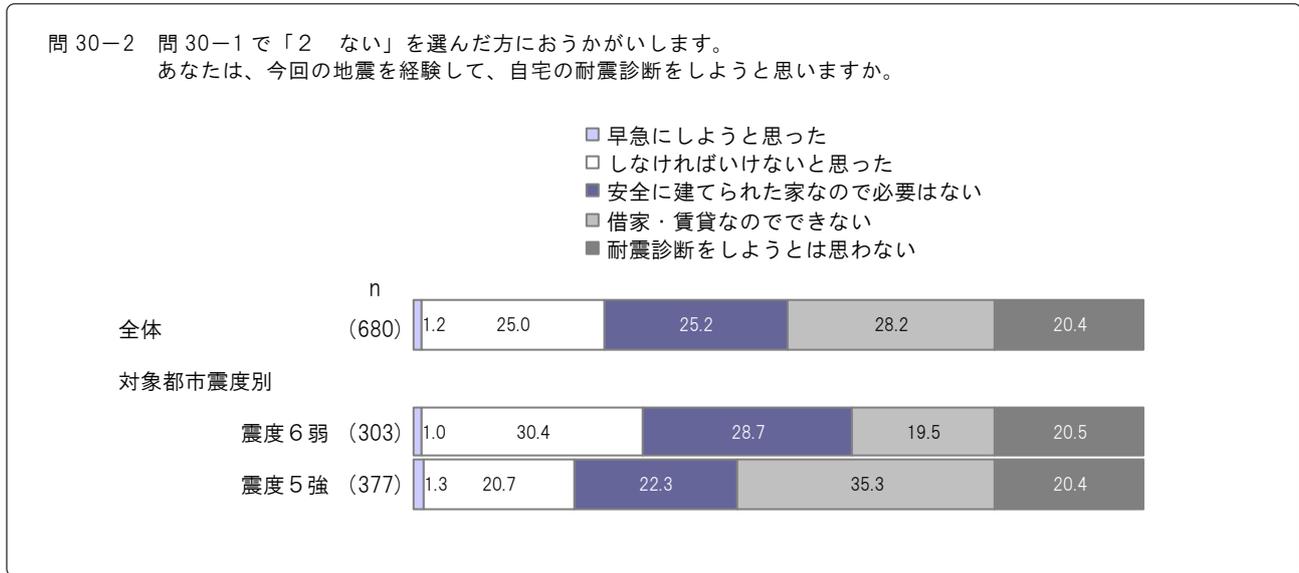
住んでいる住宅の耐震診断をしたことがあると回答した119人に対し、どのような耐震診断を行ったか尋ねたところ、「簡易耐震診断を行った」(58.8%)との回答が6割弱となり、「専門家による耐震診断を実施した」(41.2%)は4割強となっている。

性・年代別／対策実施度別

	n	た簡易耐震診断を行った	断専を門家施しよる耐震診
全体	119	58.8	41.2
回答者の性・年代別			
男性 若年層	20	65.0	35.0
中年層	35	57.1	42.9
高年層	11	54.6	45.5
女性 若年層	25	56.0	44.0
中年層	21	57.1	42.9
高年層	7	71.4	28.6
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施個数)			
対策なし	15	80.0	20.0
低 (1~2個)	43	55.8	44.2
中 (3~4個)	34	52.9	47.1
高 (5個以上)	27	59.3	40.7

③耐震診断の意向

「早急にしようと思った」、「しなければいけないと思った」で2割台半ば



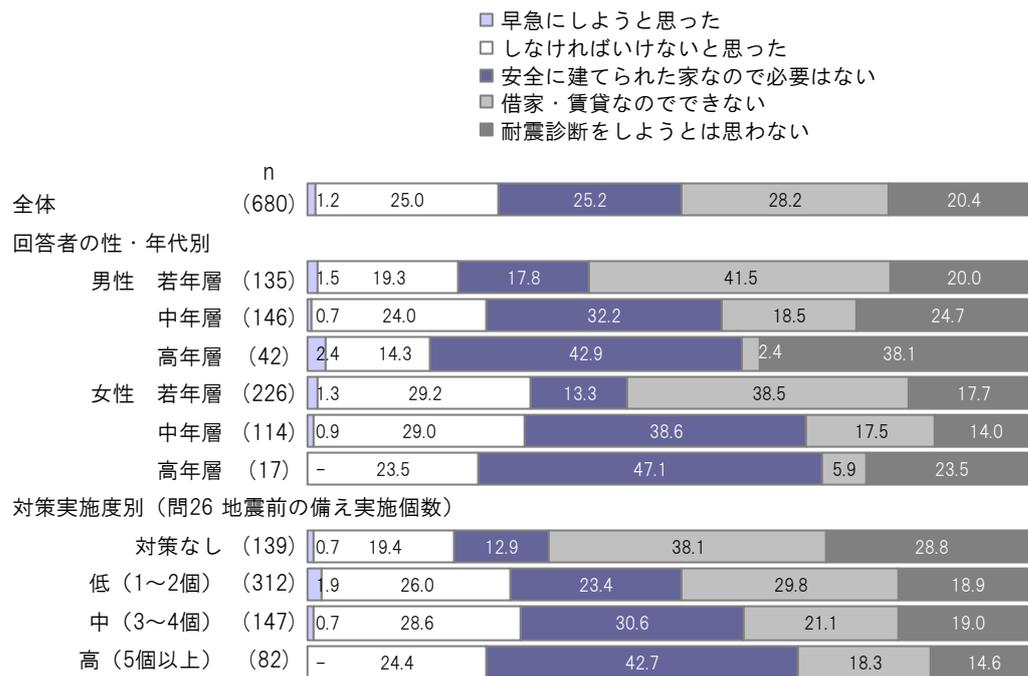
住んでいる住宅の耐震診断をしたことがないと回答した680人に対し、今回の地震を経験して耐震診断をしようと思うか尋ねたところ、「早急にしようと思った」(1.2%)、「しなければいけないと思った」(25.0%)、を合わせた『しようと思った』(26.2%)は2割台半ばとなっている。一方、「借家・賃貸なのでできない」(28.2%)との回答も高く3割弱、次いで「安全に建てられた家なので必要はない」(25.2%)が2割台半ばとなっている。

対象都市震度別にみると、「しなければならぬと思った」との回答は震度6弱(30.4%)で3割と高くなっている。

性・年代別にみると、「安全に建てられた家なので必要はない」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(42.9%)で4割強、女性・中年層(38.6%)で4割弱、男性・中年層(32.2%)で3割強となっている。

対策実施度別にみると、「安全に建てられた家なので必要はない」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(42.7%)で4割強、実施度：中(30.6%)で3割となっている。

性・年代別／対策実施度別



(6) 耐震補強

①耐震補強の実施状況

「ある」が6.5%

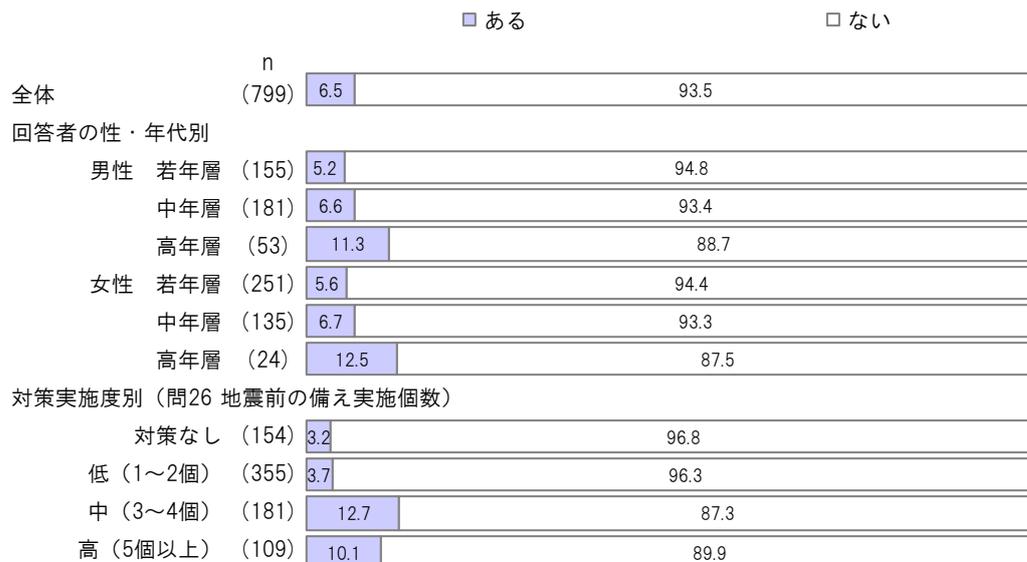


自宅の耐震補強の実施状況を尋ねたところ、「ある」との回答はわずか6.5%で、「ない」(93.5%)が大半を占めている。

性・年代別にみると、男女とも年代が高くなるにつれて「ある」との回答が高くなる傾向にある。

対策実施度別にみると、「ある」との回答は実施度：中(12.7%)で1割強、実施度：高(10.1%)で1割を超え、やや高くなっている。

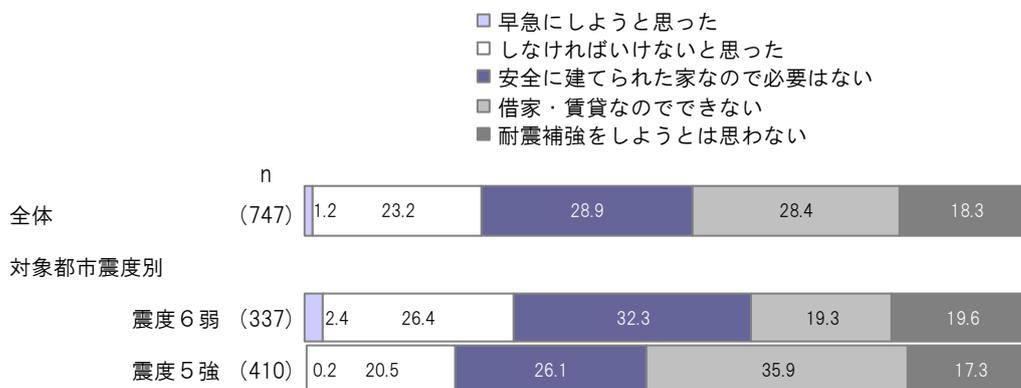
性・年代別／対策実施度別



②地震後の耐震補強の意向

『しようと思った』 2割台半ば

問 31-1 問 31 で「2 ない」を選んだ方におうかがいします。
あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震補強をしようと思いますか。



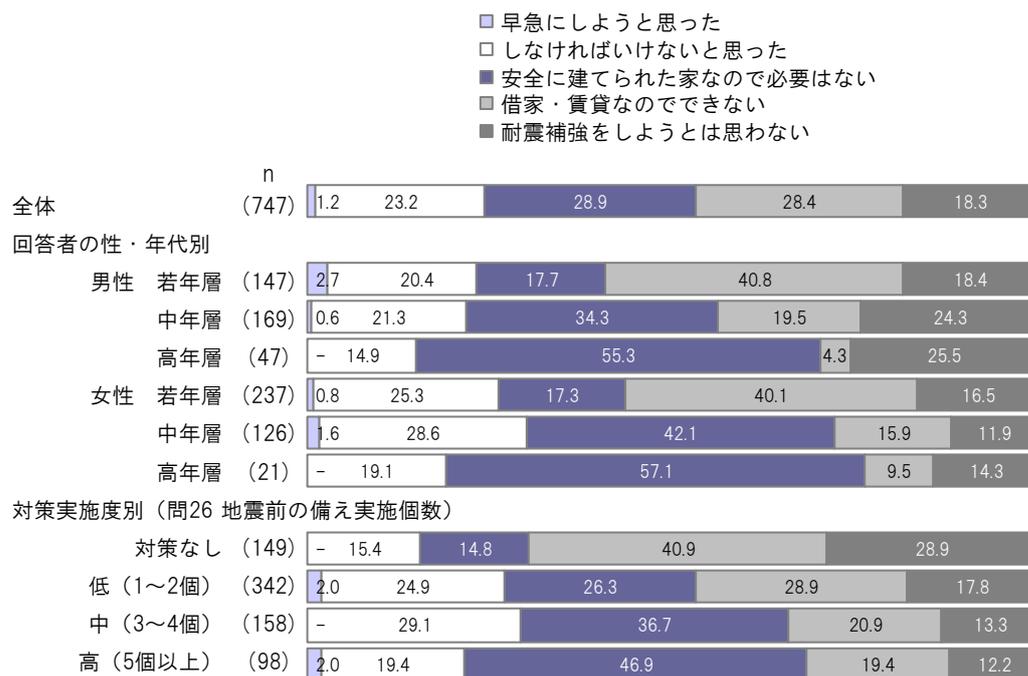
自宅の耐震補強をしたことがないと回答した747人に対し、今回の地震を経験して自宅の耐震補強をしようと思うか尋ねたところ、「早急にしようと思った」(1.2%)、「しなければいけないと思った」(23.2%)を合わせた『しようと思った』は2割台半ばとなっている。一方、「安全に建てられた家なので必要はない」(28.9%)、「借家・賃貸なのでできない」(28.4%)との回答も高く、それぞれ3割弱となっている。

性・年代別にみると、「安全に建てられた家なので必要はない」との回答は年代が高くなるにつれて高くなり、男性・高年層(55.3%)で5割台半ば、女性・中年層(42.1%)で4割強、男性・中年層(34.3%)で3割台半ばとなっている。

対策実施度別にみると、「安全に建てられた家なので必要はない」との回答は実施度が高くなるにつれて高くなり、実施度：高(46.9%)で4割台半ば、実施度：中(36.7%)で3割台半ばとなっている。

IV. 調査結果

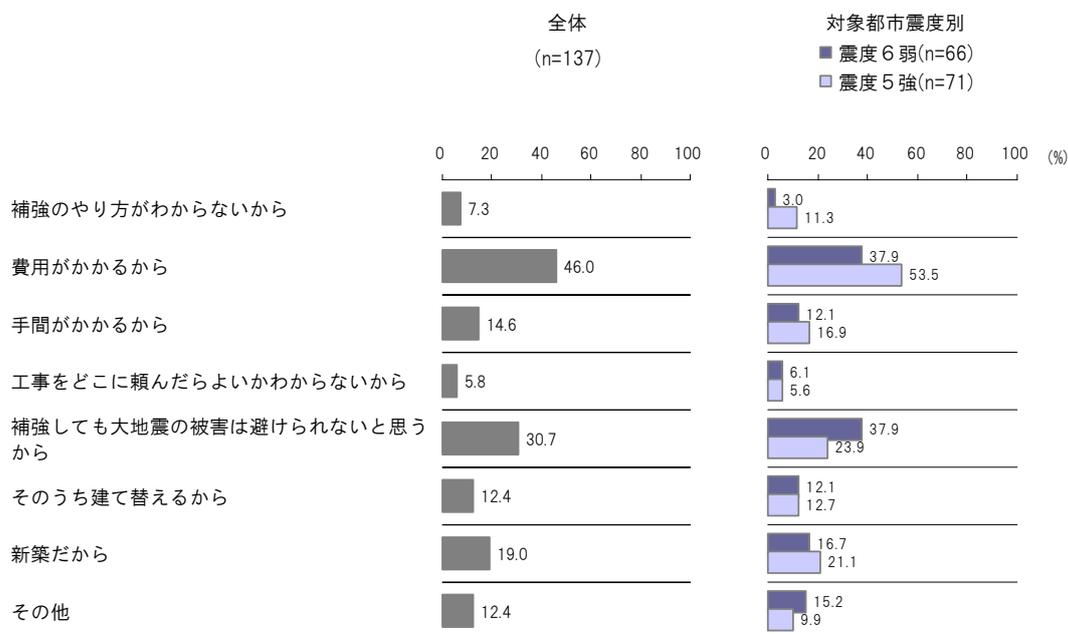
性・年代別／対策実施度別



③耐震補強をしようと思わない理由

「費用がかかるから」 4割台半ば、「大地震の被害は避けられないと思うから」 3割

問31-2 問31-1で「5 耐震補強をしようと思わない」を選んだ方におうかがいします。
ご自宅の耐震補強をしようと思わないのはどのような理由からですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



今回の地震を経験して自宅の耐震補強をしようと思わないと回答した137人に対し、耐震補強をしようと思わない理由を尋ねたところ、「費用がかかるから」(46.0%)との回答が最も高く4割台半ばを占め、次いで「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(30.7%)が3割で続いている。

対象都市震度別にみると、「費用がかかるから」との回答は震度5弱(53.5%)で高い。また「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」との回答は震度6弱(37.9%)で4割弱と高くなっている。

対策実施度別にみると、「費用がかかるから」と「手間がかかるから」との回答は実施度：対策なしで高くなっている。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

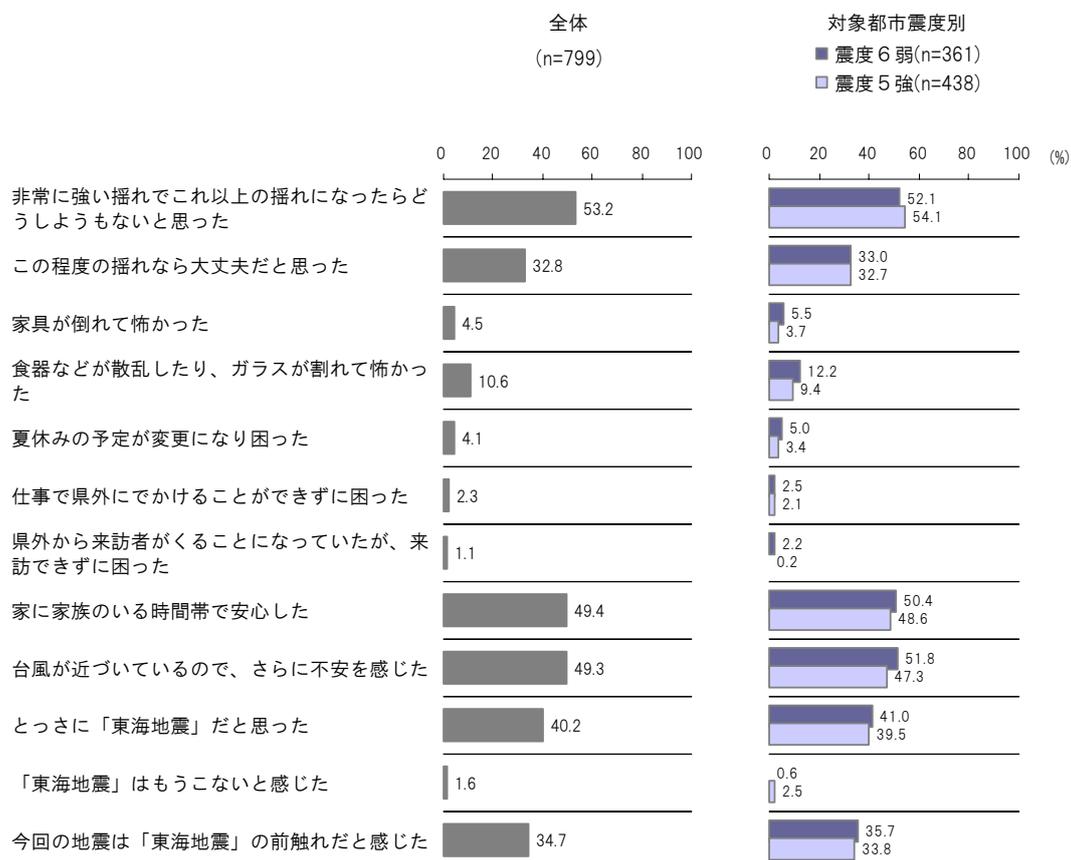
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	補強のやり方がわか	費用がかかるから	手間がかかるから	からよいかどうか知らない	工事のどこに頼んだ	被害を避けるために	補強しても大地震の	かそのうち建て替える	新築だから	その他
全体	137	7.3	46.0	14.6	5.8	30.7	12.4	19.0	12.4		
回答者の性・年代別											
男性 若年層	27	11.1	48.1	25.9	7.4	14.8	14.8	18.5	7.4		
中年層	41	-	39.0	4.9	-	31.7	9.8	26.8	14.6		
高年層	12	-	50.0	8.3	8.3	50.0	-	16.7	16.7		
女性 若年層	39	15.4	48.7	15.4	12.8	30.8	12.8	15.4	7.7		
中年層	15	6.7	60.0	26.7	-	40.0	26.7	-	26.7		
高年層	3	-	-	-	-	33.3	-	66.7	-		
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施回数)											
対策なし	43	14.0	60.5	25.6	4.7	37.2	7.0	7.0	9.3		
低 (1~2個)	61	3.3	42.6	6.6	6.6	29.5	11.5	26.2	11.5		
中 (3~4個)	21	9.5	38.1	23.8	9.5	23.8	19.0	19.0	19.0		
高 (5個以上)	12	-	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	16.7		

(7) 今回の地震を体験して感じたこと

「どうしようもない」が5割台半ば

問 32 あなたは今回の地震を体験してどのように感じましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



今回の地震を体験してどのように思ったかを尋ねたところ、「非常に強い揺れでこれ以上の揺れになったらどうしようもないと思った」(53.2%)との回答が最も高く5割台半ばを占め、次いで「家に家族のいる時間帯で安心した」(49.4%)、「台風が近づいているので、さらに不安を感じた」(49.3%)、「とっさに「東海地震」だと思った」(40.2%)が4割台で続いている。

性・年代別にみると、「台風が近づいているので、さらに不安を感じた」との回答が女性・若年層(61.4%)で6割強と高くなっている。

対策実施度別にみると、実施度：高では「家に家族のいる時間帯で安心した」(67.0%)、「台風が近づいているので、さらに不安を感じた」(61.5%)が高いほか、「今回の地震は「東海地震」の前触れだと感じた」(49.5%)、「とっさに「東海地震」だと思った」(45.9%)のように、「東海地震」を思い浮かべた人が多い。

IV. 調査結果

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

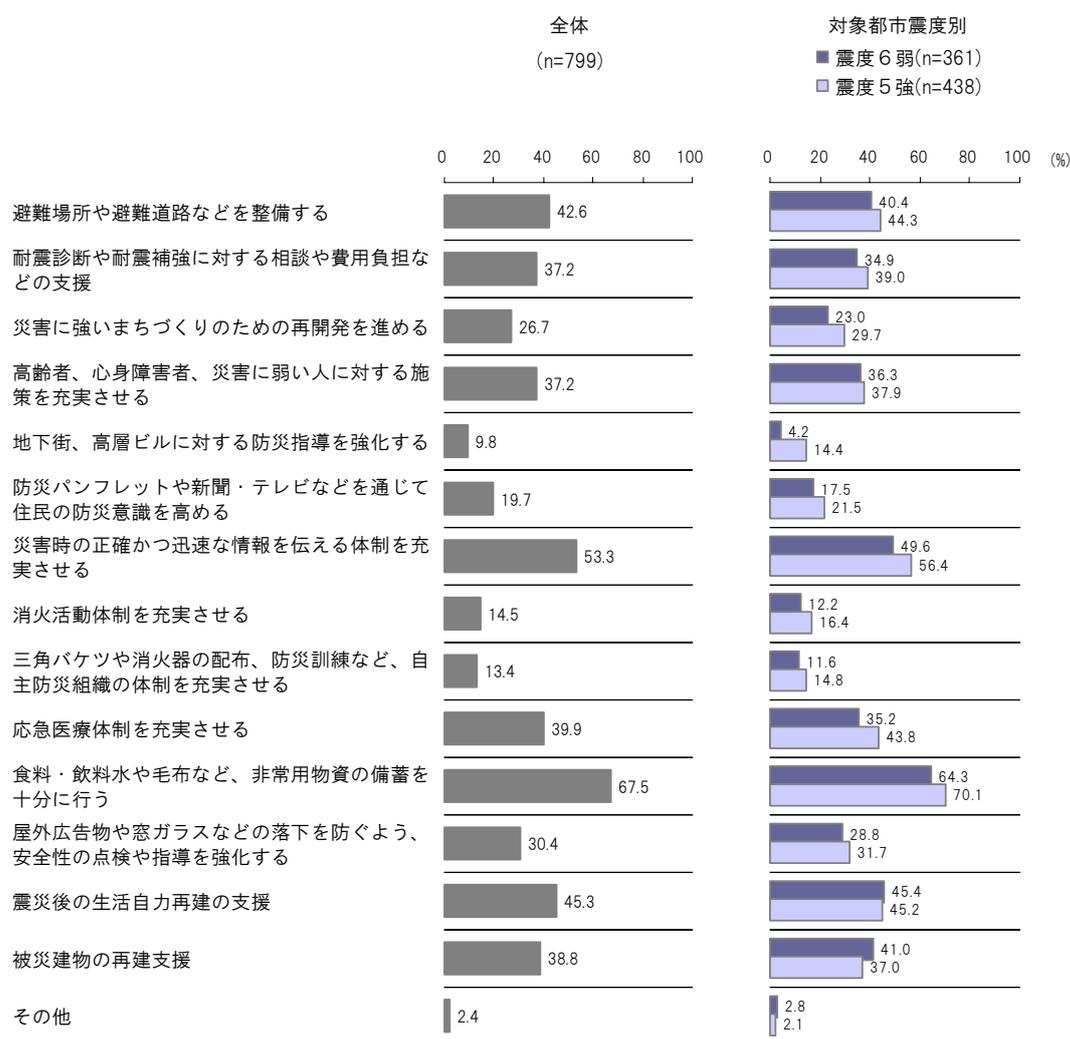
	n	非常に強い揺れでこれ以上の揺れにならなかったと思うかどうか	この程度の揺れなら大丈夫だと思っただろうか	家具が倒れて怖かった	食器などが散らかった	夏休みの予定が変更になった	仕事で県外にでかけることができなかった	県外から来訪者がくることになったが、来訪できずに困った	家で家族のいる時間帯で安心した	台風の近づくに不安を感じた	「東海地震」だと思っただろうか	「東海地震」はもうないと感じた	今回の地震は「東海前触れ」だと感じた
全体	799	53.2	32.8	4.5	10.6	4.1	2.3	1.1	49.4	49.3	40.2	1.6	34.7
回答者の性・年代別													
男性 若年層	155	42.6	35.5	4.5	8.4	8.4	1.9	0.6	30.3	41.3	36.1	1.3	34.8
中年層	181	55.8	36.5	2.8	10.5	2.2	2.8	1.7	42.5	43.1	40.9	0.6	29.8
高年層	53	60.4	34.0	-	11.3	-	-	-	43.4	37.7	37.7	1.9	39.6
女性 若年層	251	55.0	27.9	7.2	11.2	4.0	2.4	0.4	56.6	61.4	37.8	3.6	37.1
中年層	135	54.8	32.6	4.4	14.1	4.4	2.2	3.0	69.6	51.9	48.1	-	34.1
高年層	24	58.3	37.5	-	-	-	4.2	-	50.0	33.3	45.8	-	37.5
対策実施度別 (問26 地震前の備え実施回数)													
対策なし	154	58.4	27.3	5.2	10.4	4.5	1.3	-	33.1	44.2	31.8	4.5	29.2
低 (1~2個)	355	50.1	31.0	4.8	9.6	3.9	2.5	1.1	44.5	47.0	39.7	1.4	32.4
中 (3~4個)	181	54.1	40.3	4.4	10.5	4.4	2.2	1.7	62.4	50.8	44.8	0.6	34.8
高 (5個以上)	109	54.1	33.9	2.8	14.7	3.7	2.8	1.8	67.0	61.5	45.9	-	49.5

6 行政への要望など

(1) 防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいもの

「食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分に行う」が7割弱

問 33 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものをいくつかもお選びください。



防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものについて尋ねたところ、「食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分行う」(67.5%)との回答が最も高く7割弱を占めている。次いで「災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」(53.3%)、「震災後の生活自力再建の支援」(45.3%)、「避難場所や避難道路などを整備する」(42.6%)などが続いている。

性・年代別にみると、「食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分行う」との回答は女性・若年層(79.3%)で8割弱と高くなっている。

対策実施度別にみると、「震災後の生活自力再建の支援」と「被災建物の再建支援」との回答は実施度：

IV. 調査結果

高で高くなっている。

性・年代別／対策実施度別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	n	避難場所や避難道路を整備する	負担などの相談や支援	耐震診断や耐震費用	進めるための再開	災害に強いまちづく	高齢者、心身障害者、災害に弱い人に対する施策を充実させる	地下街、高層ビルに	防災意識を高める	防災パンフレットや新聞・テレビなどを通じて住民の防災意識を高める	災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる	消火活動体制を充実させる	三角バケツや消火器の配布、防災訓練など、自主防災組織の体制を充実させる	応急医療体制を充実させる	備蓄を十分に行う	飲料水や毛布	食料	全性の点検や指導を強化	屋外広告物や窓ガラスなどの落下を防ぐよう、安全
全体	799	42.6	37.2	26.7	37.2	9.8	19.6	53.3	14.5	13.4	39.9	67.5	30.4						
回答者の性・年代別																			
男性	若年層	155	37.4	39.4	30.3	29.0	12.3	20.6	44.5	18.1	12.9	36.1	62.6	24.5					
	中年層	181	37.0	29.3	23.8	30.4	3.9	14.9	56.9	11.6	8.8	37.0	58.0	20.4					
	高年層	53	39.6	28.3	26.4	52.8	7.5	13.2	54.7	17.0	11.3	32.1	60.4	24.5					
女性	若年層	251	53.8	45.8	31.5	36.7	14.3	25.5	51.0	13.5	18.7	48.6	79.3	38.6					
	中年層	135	37.0	33.3	18.5	46.7	7.4	15.6	61.5	14.8	11.9	36.3	70.4	37.0					
	高年層	24	37.5	33.3	20.8	58.3	8.3	25.0	58.3	16.7	8.3	33.3	45.8	33.3					
対策実施度別（問26 地震前の備え実施回数）																			
対策なし	154	41.6	38.3	22.1	29.2	8.4	13.6	42.2	13.0	11.7	39.6	67.5	25.3						
低（1～2個）	355	42.5	36.3	27.3	33.2	8.2	19.4	47.0	13.0	14.4	35.5	66.5	28.2						
中（3～4個）	181	45.9	35.9	22.7	41.4	9.9	22.7	65.2	15.5	12.2	42.5	69.6	32.0						
高（5個以上）	109	38.5	40.4	37.6	54.1	16.5	23.9	69.7	20.2	14.7	50.5	67.0	42.2						
対策実施度別（問26 地震前の備え実施回数）																			
対策なし	154	37.0	31.8	1.3															
低（1～2個）	355	44.2	36.3	2.3															
中（3～4個）	181	45.3	40.3	2.8															
高（5個以上）	109	60.6	54.1	3.7															

V

調査票（単純集計結果）

V. 調査票（単純集計結果）

駿河湾を震源とする地震に関する調査

問1 平成21年8月11日（火）5:07頃、駿河湾を震源とする（深さ23km）M6.5の地震が発生しました。あなたは、この地震が発生した時にどの地域にいましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 伊豆市		8.0	17.5	0.2
2 御前崎市		6.6	14.7	—
3 焼津市		21.5	47.4	0.2
4 牧之原市		9.1	19.9	0.2
5 静岡市		54.7	0.6	99.3
6 その他		—	—	—

問2 あなたは、この地震が発生した時にどこにいましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 自宅の建物内にいた		97.4	97.2	97.5
2 自宅の建物外にいた		0.3	0.3	0.2
3 自宅以外の建物内にいた		1.8	1.9	1.6
4 自宅以外の建物外にいた		0.3	0.3	0.2
5 その他		0.4	0.3	0.5

問3 あなたは、この地震が発生した時に何をしていましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 起きていた		17.5	15.0	19.6
2 就寝中だった		81.0	82.8	79.5
3 勤務先で仕事をしていた		0.9	1.4	0.5
4 自動車に乗っていた		0.3	0.3	0.2
5 その他		0.4	0.6	0.2

問4 あなたは、今回の地震が起きたときに、想定されている「東海地震」と思いましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 思った		51.4	52.6	50.5
2 思わなかった		33.9	34.9	33.1
3 わからない		14.6	12.5	16.4

問5 あなたは、今回の地震のあとに「東海地震」の「警戒宣言」が発表されると思いましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 思った		32.8	35.7	30.4
2 思わなかった		40.1	36.8	42.7
3 わからない		27.2	27.4	26.9

V. 調査票（単純集計結果）

問6 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	じっと様子をみていた	54.4	53.5	55.3
2	机などの下にもぐった	2.6	0.6	4.3
3	就寝中の家族を起こした	14.1	13.6	14.6
4	火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	2.6	2.2	3.0
5	家具を押さえた	6.9	6.7	7.1
6	安全な場所に隠れたり、身を守ったりした	11.0	8.0	13.5
7	頑丈なものにつかまって身を支えた	6.8	6.9	6.6
8	子供や老人、病人などを保護した	14.3	14.4	14.2
9	戸、窓などを開けた	10.1	10.0	10.3
10	家や建物の外に飛び出した	0.4	0.3	0.5
11	建物のなかに飛び込んだ	—	—	—
12	車を止めた	0.1	—	0.2
13	まわりの人の安全を確かめようとした	12.8	9.1	15.8
14	その他	5.5	6.4	4.8
15	無我夢中でおぼえていない	0.9	1.7	0.2
16	何もできなかった	13.0	14.4	11.9

問7 今回の地震でお宅ではけがをした人がいましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	自分や家族がけがをした	1.1	1.4	0.9
2	けがをした人はいなかった	98.9	98.6	99.1

問8 地震の揺れがおさまった後、1時間以内にあなたは何をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	服を着替えた	43.4	49.0	38.8
2	家族と今後の注意を話し合った	28.0	31.9	24.9
3	家族・友人・知人の安否を確かめようと電話した	34.9	36.6	33.6
4	テレビ・ラジオに注意した	83.4	82.8	83.8
5	携帯電話を操作した（電話・メール・インターネット）	44.1	42.4	45.4
6	パソコンを操作した（メール・インターネット）	20.8	18.3	22.8
7	近所の人と話し合った	5.9	7.2	4.8
8	職場の同僚等と連絡をとったり、職場にかけつけたりした	12.1	14.1	10.5
9	現金や貴重品・非常食などの持ち出し準備をした	9.0	10.8	7.5
10	水のくみ置きをした	8.8	8.3	9.1
11	屋外の安全な場所に避難した	1.4	2.5	0.5
12	家具の固定や安全点検を行った	16.9	14.4	19.0
13	自宅の被害箇所の点検・修理をした	36.1	36.6	35.6
14	こわれ物などの後片づけを始めた	28.8	31.0	26.9
15	周りの被害の状況を見に行った	14.5	18.0	11.6
16	ガスの元栓を閉めた	7.8	8.3	7.3
17	出勤・登校した	8.8	8.0	9.4
18	海や港を見に行った	0.5	0.6	0.5
19	その他	6.0	6.7	5.5
20	何もしなかった	4.1	4.2	4.1

問9 地震が起こったとき、あなたがいた所は、津波の危険がある場所でしたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	津波の危険性がある場所だった	22.7	35.5	12.1
2	津波の危険はほとんどない場所だった	65.1	53.2	74.9
3	津波の危険がある場所かどうかわからない	12.3	11.4	13.0

問 10 地震が起こったとき、あなたは津波に備えてどんな対応をしましたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 津波が心配で、すぐに避難した	0.9	1.9	—
2 津波が心配で、海の様子を見に行った	0.4	0.6	0.2
3 津波が心配で、テレビやラジオから津波情報を得ようとした	42.2	52.1	34.0
4 津波が心配で、行政から避難の指示が出たらすぐ避難できるように準備した	7.3	11.1	4.1
5 その他	2.1	1.7	2.5
6 津波のことは特に考えなかった	54.6	44.6	62.8

問 11 お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した	5.1	8.6	2.3
2 家の壁の一部にひびや亀裂が入った	8.1	10.5	6.2
3 窓ガラスがわれた	0.6	0.8	0.5
4 ブロック塀が壊れた	0.4	0.8	—
5 その他	2.9	2.5	3.2
6 建物自体の被害は全くなかった	86.2	82.3	89.5

問 12 では、家具など家の中はどのような状況でしたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 タンス・食器棚が倒れた	2.5	3.6	1.6
2 冷蔵庫が倒れた	0.3	0.6	—
3 テレビ（ブラウン管）が倒れた	4.0	5.5	2.7
4 テレビ（薄型）が倒れた	2.3	3.1	1.6
5 照明器具が落ちた	1.1	1.9	0.5
6 パソコンが倒れた	4.3	6.4	2.5
7 本や食器が落下した	35.0	36.8	33.6
8 花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり、落下した	60.3	64.3	57.1
9 その他の被害があった	8.9	10.0	8.0
10 落下・転倒などの被害はなかった	21.9	18.0	25.1

V. 調査票（単純集計結果）

問 13 あなたは今回の地震で何が困りましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった	24.0	24.1	24.0
2	行政からの情報が少なかった	13.5	13.6	13.5
3	行政からのどうすべきかの指示がなかった	11.6	10.8	12.3
4	鉄道などの公共交通機関がストップした	14.1	14.1	14.2
5	道路が渋滞した	20.9	22.4	19.6
6	電気が止まった	1.6	0.3	2.7
7	ガスが止まった	1.3	1.4	1.1
8	水道が止まった	6.0	7.5	4.8
9	電話がかからなかった（一般加入電話）	18.8	18.6	19.0
10	携帯電話がかかりにくかった	36.7	39.6	34.3
11	インターネットが使いえなかった	0.8	0.6	0.9
12	食料の備蓄等がなかった	8.8	8.0	9.4
13	家族との連絡がとれなかった	5.1	5.0	5.3
14	親戚・知人の安否がわからなかった	4.0	2.2	5.5
15	社員等の従業員の安否や連絡が取れなかった	1.5	1.7	1.4
16	出勤するか（登校するか）の判断に迷った	10.3	11.6	9.1
17	事業（会社等）や業務を休みにするか通常通りにするかの判断に迷った	2.8	3.1	2.5
18	何をしてよいのかわからなかった	13.0	10.0	15.5
19	何も困らなかった	24.2	23.3	24.9

問 14 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	今回の地震が東海地震に結びつくかどうか	58.5	58.2	58.7
2	まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか	65.7	65.9	65.5
3	今回の地震についての、震源地や規模などの情報	52.1	53.2	51.1
4	余震の可能性や、その規模	63.6	62.3	64.6
5	自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	29.3	32.7	26.5
6	自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報	40.1	38.8	41.1
7	家に戻らない家族の安否や居所	3.6	3.6	3.7
8	市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡	12.6	13.9	11.6
9	道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	32.8	35.2	30.8
10	その他	2.4	2.8	2.1
11	特になかった	4.8	5.0	4.6

問 14 で「11 特になかった」以外を選んだ方におうかがいします。

問 15 では、そのような情報を知るために役に立ったものは何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (761)	震度6弱 (343)	震度5強 (418)
1	NHKテレビ	76.5	77.0	76.1
2	民放テレビ	66.4	66.2	66.5
3	NHKラジオ	7.4	7.9	6.9
4	民放ラジオ	7.0	7.0	6.9
5	市町村の防災無線	13.7	21.0	7.7
6	インターネット（ホームページ等）	12.0	10.2	13.4
7	インターネットメール	3.8	2.6	4.8
8	電話	7.9	8.5	7.4
9	携帯電話	17.9	20.4	15.8
10	携帯電話メール	14.3	14.9	13.9
11	携帯電話のインターネット機能（iモード等）	3.2	2.9	3.3
12	市町村の広報車	2.4	2.3	2.4
13	その他	1.7	2.6	1.0
14	役立ったものは何もなかった	1.2	0.9	1.4

問 16 気象庁は、今回の地震に関して、平成 21 年 8 月 11 日午前「東海地震観測情報」を発表しました。あなたは「東海地震観測情報」を知っていましたか。

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 「東海地震観測情報」のことは前から知っていた		41.6	40.7	42.2
2 「東海地震観測情報」のことは今回はじめて知った		29.0	28.8	29.2
3 「東海地震観測情報」のことは知らない		29.4	30.5	28.5

問 17 今回「東海地震観測情報」が発表されたことを知っていますか。

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 知っている		55.4	54.0	56.6
2 知らない		44.6	46.0	43.4

問 18 気象庁は「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」と発表しました。あなたはこのことを知っていますか。

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 知っている		96.8	96.4	97.0
2 知らない		3.3	3.6	3.0

問 19 気象庁が「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」と発表したことについてどのように感じますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」との発表を聞いて安心した		16.7	15.5	17.6
2 東海地震に結びつくものではないが、ひき続き注意すべきと思った		66.6	64.3	68.5
3 東海地震の発生の可能性をより強く意識した		55.9	58.7	53.7
4 駿河湾で地震が発生したのに「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」の発表には疑問を感じた		16.5	18.3	15.1
5 駿河湾で地震が発生したのに「今回の地震は東海地震と結びつくものではない」との発表を聞いても安心できない		33.8	36.6	31.5
6 いったい「東海地震はいつ起こるのか」という疑念が強まった		49.8	50.4	49.3
7 その他		2.4	2.5	2.3
8 特に何も感じなかった		3.6	5.0	2.5

問 20 東海地震に関連する情報として、「東海地震観測情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の 3 つがあります。あなたは、以下のそれぞれについて知っていますか。

A 「東海地震観測情報」について

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 情報の内容まで知っている		19.9	18.3	21.2
2 ことばは知っているが内容までは知らない		52.1	51.3	52.7
3 ことばも内容も知らない		28.0	30.5	26.0

B 「東海地震注意情報」について

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 情報の内容まで知っている		15.8	15.2	16.2
2 ことばは知っているが内容までは知らない		51.4	49.6	53.0
3 ことばも内容も知らない		32.8	35.2	30.8

C 「東海地震予知情報（警戒宣言）」について

	(n)	全体 (799)	震度 6 弱 (361)	震度 5 強 (438)
1 情報の内容まで知っている		20.8	19.1	22.2
2 ことばは知っているが内容までは知らない		53.9	53.5	54.3
3 ことばも内容も知らない		25.3	27.4	23.5

V. 調査票（単純集計結果）

問 21 あなたは、現時点で「東海地震」は予知できると思いますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 完全に予知できると思う		0.8	0.8	0.7
2 8割以上の確率で予知できると思う		5.1	5.0	5.3
3 5割くらいの確率で予知できると思う		19.5	19.7	19.4
4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う		65.3	62.3	67.8
5 予知できないと思う		9.3	12.2	6.9

問 22 「警戒宣言」を発表するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。そのときあなたはどうしますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る		87.6	90.3	85.4
2 電話で情報を確認する		3.1	1.9	4.1
3 インターネットで情報を確認する		44.2	40.4	47.3
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える		68.3	65.7	70.6
5 家の中の整理や火の始末をする		53.6	51.8	55.0
6 飲料水の用意や風呂に水をためる		59.3	58.7	59.8
7 家族と連絡をとる		60.2	60.4	60.1
8 従業員や同僚と連絡を取る		11.1	11.1	11.2
9 学校等の関係者やPTA役員等と連絡を取る		2.0	1.9	2.1
10 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く		13.0	13.6	12.6
11 買い出しに行く		26.7	27.2	26.3
12 預金を引き出しに行く		16.5	16.3	16.7
13 帰宅する		26.9	27.4	26.5
14 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする		11.3	11.6	11.0
15 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する		23.9	25.5	22.6
16 業務や事業を停止する		11.4	13.0	10.1
17 その他		0.6	0.6	0.7
18 どうしたらいいかわからない		3.1	3.1	3.2

問 23 あなたは、東海地震に対する不安を感じていますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 不安を強く感じている		55.2	60.1	51.1
2 不安を少し感じている		38.8	33.0	43.6
3 不安をあまり感じていない		4.9	5.5	4.3
4 不安をほとんど感じていない		1.1	1.4	0.9

問 24 あなたは今回の地震を経験して、想定される「東海地震」への不安が強まりましたか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 不安が強まった		54.3	59.6	50.0
2 少し不安が強まった		29.9	27.2	32.2
3 変わらない		14.5	11.6	16.9
4 少し不安が弱まった		0.6	0.6	0.7
5 不安が弱まった		0.6	1.1	0.2

問 25 あなたは近い将来「東海地震」が実際に発生すると思いますか。また、その時期はいつごろだと思いますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 発生時期は切迫していると思う		22.9	24.9	21.2
2 発生時期はやや切迫していると思う		58.1	57.6	58.5
3 発生時期はそれほど切迫していないと思う		15.6	13.3	17.6
4 発生時期は切迫していないと思う		2.4	2.8	2.1
5 そもそも東海地震は起こらないと思う		1.0	1.4	0.7

- 問 26 今回の地震が起こる前と起こった後での対策についておうかがいします。
地震に備えてお宅で行っているものがありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。
※今回の地震前の状況をお答えください。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 防災についての家族の役割を決めていた	3.8	3.9	3.7
2 家族との連絡方法を決めていた	14.0	9.7	17.6
3 地震の時に避難する場所を決めていた	20.4	18.8	21.7
4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めていた	12.9	9.7	15.5
5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認していた	9.4	9.4	9.4
6 風呂にいつも水を入れていた	15.4	15.0	15.8
7 消火器や水を入れたバケツなどを用意していた	9.9	8.9	10.7
8 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めていた	5.0	4.7	5.3
9 ガラス飛散防止をしていた	7.3	6.7	7.8
10 ガスボンベを倒れないようにしていた	4.3	6.7	2.3
11 家具が倒れないように固定していた	60.3	63.2	58.0
12 ブロック塀の点検や倒壊防止を施していた	3.0	2.5	3.4
13 防災訓練に参加していた	22.4	29.6	16.4
14 非常持出品を用意していた	35.4	35.7	35.2
15 その他	1.8	1.4	2.1
16 何もしていなかった	19.3	15.5	22.4

- 問 26-1 今回の地震後、地震に備えてお宅で行ったもの、または行おうとしているものはありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。 ※地震後の状況をお答えください。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 防災についての家族の役割を決めた	7.4	5.5	8.9
2 家族との連絡方法を決めた	20.0	20.8	19.4
3 地震の時に避難する場所を決めた	14.5	13.6	15.3
4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めた	16.0	13.3	18.3
5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	8.4	8.3	8.5
6 風呂にいつも水を入れるようにした	12.1	8.6	15.1
7 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようになった	7.5	5.5	9.1
8 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	2.8	2.5	3.0
9 ガラス飛散防止をした	10.1	9.4	10.7
10 ガスボンベを倒れないようにした	1.3	1.1	1.4
11 家具が倒れないように固定した	30.3	29.4	31.1
12 ブロック塀の点検や倒壊防止を施した	4.4	4.4	4.3
13 防災訓練に参加しようと考えている	8.0	7.8	8.2
14 非常持出品を用意した	36.3	36.3	36.3
15 その他	4.3	3.6	4.8
16 何もしない	31.0	32.4	29.9

- 問 27 お宅では地震保険に入っていますか。

(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 入っている	35.7	37.4	34.3
2 今後入ろうと思う	18.5	18.8	18.3
3 今後入ろうと思わない	18.2	19.9	16.7
4 地震保険に入っているかどうかわからない	27.7	23.8	30.8

V. 調査票（単純集計結果）

問 28 お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 大部分固定していた		17.4	18.8	16.2
2 一部固定していた		42.9	44.3	41.8
3 固定していなかった		39.7	36.8	42.0

問 28 で「3 固定していなかった」を選んだ方におうかがいします。

問 28-1 家具の固定をしていなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

	(n)	全体 (317)	震度6弱 (133)	震度5強 (184)
1 建物や家具を傷めるから		14.2	11.3	16.3
2 手間がかかるから		36.0	33.8	37.5
3 費用がかかるから		22.7	24.1	21.7
4 家具類を置いていない安全な部屋があるから		13.6	15.0	12.5
5 固定しなくても大丈夫だと思うから		18.6	24.8	14.1
6 固定をしても被害は出ると思うから		16.1	18.8	14.1
7 東海地震が起こると思わないから		2.8	3.0	2.7
8 賃貸・借家だから		27.4	18.8	33.7
9 その他		6.9	9.0	5.4

問 28 で「3 固定していなかった」を選んだ方におうかがいします。

問 28-2 今回の地震の後に家具の固定をしましたか。

	(n)	全体 (317)	震度6弱 (133)	震度5強 (184)
1 地震後に家具の固定をした		0.6	0.8	0.5
2 今回の地震を経験して家具の固定をしようと考えている		50.2	54.1	47.3
3 いまのところ家具の固定は考えていない		49.2	45.1	52.2

問 29 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 入っている		38.6	49.3	29.7
2 入っていない		21.7	18.8	24.0
3 自主防災組織はない		7.3	5.0	9.1
4 わからない		32.5	26.9	37.2

問 29 で「1 入っている」を選んだ方におうかがいします。

問 29-1 あなたの加入されている自主防災組織では、今回の地震で何か行動を起こしましたか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

	(n)	全体 (308)	震度6弱 (178)	震度5強 (130)
1 避難等の検討をした		4.9	7.3	1.5
2 避難等の指示をした		1.3	2.3	—
3 災害時要援護者（高齢者世帯・障がい者世帯・乳幼児のいる世帯）の安否の確認をした		5.5	5.6	5.4
4 公民館等の一次避難所を開設した		3.3	5.1	0.8
5 周辺の被害状況を自主防災組織として確認した		17.2	18.5	15.4
6 その他		3.6	4.5	2.3
7 何も活動はしなかった		70.8	66.3	76.9

問 30 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震診断をしたことがありますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 ある		14.9	16.1	13.9
2 ない		85.1	83.9	86.1

問 30 で「1 ある」を選んだ方におうかがいします。

問 30-1 どのような耐震診断をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (119)	震度6弱 (58)	震度5強 (61)
1 簡易耐震診断を行った		58.8	55.2	62.3
2 専門家による耐震診断を実施した		41.2	44.8	37.7

問 30-1 で「2 ない」を選んだ方におうかがいします。

問 30-2 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震診断をしようと思いませんか。

	(n)	全体 (680)	震度6弱 (303)	震度5強 (377)
1 早急にしようと思った		1.2	1.0	1.3
2 しなければいけないと思った		25.0	30.4	20.7
3 安全に建てられた家なので必要はない		25.2	28.7	22.3
4 借家・賃貸なのでできない		28.2	19.5	35.3
5 耐震診断をしようとは思わない		20.4	20.5	20.4

問 31 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震補強をしたことがありますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 ある		6.5	6.7	6.4
2 ない		93.5	93.4	93.6

問 31 で「2 ない」を選んだ方におうかがいします。

問 31-1 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震補強をしようと思いませんか。

	(n)	全体 (747)	震度6弱 (337)	震度5強 (410)
1 早急にしようと思った		1.2	2.4	0.2
2 しなければいけないと思った		23.2	26.4	20.5
3 安全に建てられた家なので必要はない		28.9	32.3	26.1
4 借家・賃貸なのでできない		28.4	19.3	35.9
5 耐震補強をしようとは思わない		18.3	19.6	17.3

問 31-1 で「5 耐震補強をしようとは思わない」を選んだ方におうかがいします。

問 31-2 ご自宅の耐震補強をしようと思わないのはどのような理由からですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (137)	震度6弱 (66)	震度5強 (71)
1 補強のやり方がわからないから		7.3	3.0	11.3
2 費用がかかるから		46.0	37.9	53.5
3 手間がかかるから		14.6	12.1	16.9
4 工事をどこに頼んだらよいかわからないから		5.8	6.1	5.6
5 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから		30.7	37.9	23.9
6 そのうち建て替えるから		12.4	12.1	12.7
7 新築だから		19.0	16.7	21.1
8 その他		12.4	15.2	9.9

V. 調査票（単純集計結果）

問 32 あなたは今回の地震を体験してどのように感じましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	非常に強い揺れでこれ以上の揺れになったらどうしようもないと思った	53.2	52.1	54.1
2	この程度の揺れなら大丈夫だと思った	32.8	33.0	32.7
3	家具が倒れて怖かった	4.5	5.5	3.7
4	食器などが散乱したり、ガラスが割れて怖かった	10.6	12.2	9.4
5	夏休みの予定が変更になり困った	4.1	5.0	3.4
6	仕事で県外にでかけることができずに困った	2.3	2.5	2.1
7	県外から来訪者がくることになっていたが、来訪できずに困った	1.1	2.2	0.2
8	家に家族のいる時間帯で安心した	49.4	50.4	48.6
9	台風が近づいているので、さらに不安を感じた	49.3	51.8	47.3
10	とっさに「東海地震」だと思った	40.2	41.0	39.5
11	「東海地震」はもうこないと感じた	1.6	0.6	2.5
12	今回の地震は「東海地震」の前触れだと感じた	34.7	35.7	33.8

問 33 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものをいくつでもお選びください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1	避難場所や避難道路などを整備する	42.6	40.4	44.3
2	耐震診断や耐震補強に対する相談や費用負担などの支援	37.2	34.9	39.0
3	災害に強いまちづくりのための再開発を進める	26.7	23.0	29.7
4	高齢者、心身障害者、災害に弱い人に対する施策を充実させる	37.2	36.3	37.9
5	地下街、高層ビルに対する防災指導を強化する	9.8	4.2	14.4
6	防災パンフレットや新聞・テレビなどを通じて住民の防災意識を高める	19.7	17.5	21.5
7	災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる	53.3	49.6	56.4
8	消火活動体制を充実させる	14.5	12.2	16.4
9	三角バケツや消火器の配布、防災訓練など、自主防災組織の体制を充実させる	13.4	11.6	14.8
10	応急医療体制を充実させる	39.9	35.2	43.8
11	食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分に行う	67.5	64.3	70.1
12	屋外広告物や窓ガラスなどの落下を防ぐよう、安全性の点検や指導を強化する	30.4	28.8	31.7
13	震災後の生活自力再建の支援	45.3	45.4	45.2
14	被災建物の再建支援	38.8	41.0	37.0
15	その他	2.4	2.8	2.1

F 1 （職業）あなたのご職業についておうかがいします。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 自営業主（農林漁業・商工サービス・自由業含む）		12.9	14.4	11.6
2 家族従業（家事手伝い）		0.8	1.1	0.5
3 勤め（全日）		49.2	52.9	46.1
4 勤め（パートタイム）		13.3	14.4	12.3
5 専業主婦		14.5	13.3	15.5
6 学生		2.8	1.1	4.1
7 無職		6.6	2.8	9.8

F 2 （同居家族）あなたご自身、もしくはあなたが同居しているご家族の中に、次のような方はいますか。あてはまる方をすべてあげてください。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 乳児（0歳）		4.5	4.7	4.3
2 1～3歳		9.4	8.9	9.8
3 4歳以上で小学校入学前		7.3	7.2	7.3
4 小学1～3年生		6.8	8.0	5.7
5 小学4～6年生		6.6	10.0	3.9
6 中学生		6.4	8.6	4.6
7 65歳以上の方		35.7	34.6	36.5
8 病弱で寝たきりの方		2.4	2.8	2.1
9 いずれもない		44.4	43.8	45.0

F 3 （住居形態）お住まいは以下のどれにあてはまりますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 持家（一戸建て）		65.7	75.9	57.3
2 分譲マンション		4.0	1.7	5.9
3 民間の借家（一戸建て）		2.6	3.1	2.3
4 民間のアパート・借家		20.3	13.6	25.8
5 公団・公社・公営の賃貸住宅・アパート		3.3	1.7	4.6
6 社宅・公務員住宅など給与住宅		3.0	3.1	3.0
7 住み込み・寮・寄宿舎など		0.3	0.3	0.2
8 その他		0.9	0.8	0.9

F 4 （住居構造）お住まいの構造は以下のどれにあてはまりますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 木造		56.5	67.6	47.3
2 RC（鉄筋コンクリート）造		15.0	11.4	18.0
3 SRC（鉄骨鉄筋コンクリート）造		9.1	6.1	11.6
4 その他の非木造		6.4	5.8	6.9
5 非木造であるが構造はわからない		6.0	4.2	7.5
6 わからない		7.0	5.0	8.7

F 5 （建築年代）あなたがお住まいの住宅の建築年代は以下のどれにあてはまりますか。

	(n)	全体 (799)	震度6弱 (361)	震度5強 (438)
1 1981年（昭和56年）5月以降の建物		67.0	70.1	64.4
2 1981年（昭和56年）4月以前の建物		23.0	23.6	22.6
3 賃貸・借家なのでわからない		7.4	4.2	10.1
4 わからない		2.6	2.2	3.0

VI

自由回答

VI. 自由回答

問 34 家庭や地域の地震対策で大切なこと

居住地域	性別	年代	文字回答
伊豆市	男性	30代	自分の住んでいる地域があれだけの揺れにさらされても目立った被害がないのを知って心強く思った。しかし、身体障害者を抱えて、家族全員が一箇所にいることの少ない家庭は我が家だけではないと思うので万全の対策を講じなければいけないと思った。
		40代	緊急医療の充実。ライフラインの早急な回復。トイレを充実させる。
		40代	莫大な予算を地震予知に費やしているのだから、今回の地震くらい大きいものは事前に予知して発表してほしい。
		40代	落ち着いて行動すること
		40代	障害者への対応
		40代	自分の地域は震度6弱が観測された地域だったが、周辺地域も含めて全くと言っていいほど被害がなかった。TV等の報道はわざわざ被害を探して、それをことさら強調していて、平均的な被害の姿を伝えていない。結果として、遠方にいる親類に無用の心配をかけた。
		40代	東海地震は、今回の地震の200倍を想定しているとテレビで学者が言っていたが、200倍では、さすがに自宅も含めかなりの被害が出ると思う。
		40代	行政にはどうしても限界があります。自己防衛が第一。
		40代	住民への広報活動や、点検を迅速に行うこと
		40代	行政には頼らない準備が必要。行政は全く機能しないと考えている。警戒宣言は、発令できないのではないかと考えている。東海地震は突発的に起こると考えている。
		40代	何より情報を早く
		50代	観光地なので、今回は地震が短く、被害がほとんど無いのに、報道が特に被害があったところだけ大きく報道し迷惑だ。全体に被害はほとんど無いので全体的な被害情報をして頂きたい。
		50代	今回の地震で行政からの連絡や指示はなかったように思う。このような地震が起きた時、行政が何をしてくれるか整理しておく必要があると感じた。
		50代	同報無線を通じて被害情報などを放送して欲しい。
	女性	20代	的確な救援
		20代	余震について詳しく教えてほしい。(可能性、発生状況など)
		30代	地域住民と連携して災害に対するすばやい対応ができる体制の強化をお願いしたいです。また災害防止のための費用の補助などもしていただけることを要望します。情報の収集や提供を全住民が知ることが可能なような方法でお願いしたいです。またその方法についての周知も同様です。
		30代	今回は被害も無くてよかったが、テレビからの情報だけだったので町独自の広報車を出してもよかったのではと感じた。
		40代	家具の固定は大事。
		40代	地域の情報がきちんと届くようにして欲しい。
40代		ペットを連れて非難したい	
40代		災害後の支援を敏速に確実に行ってほしい。	
50代	地震の怖さは知っていたつもりでしたが、6.5恐怖でしたが幸いにも揺れが小刻みなので家具や食器が無事でした。判断力と平常心が必要だと実感。		
御前崎市	男性	30代	情報が遅い
		30代	正確な情報の徹底
		30代	事前予知情報の提供や備蓄物資の支援
		40代	的確な情報と非難及びその後の対応に対する情報
		40代	広報無線で現在の状況を放送してくれていたのだが、内容が聞きづらいのがかなりあった。もう少し聞きやすい話し方をするか、スピーカーの設置方法や場所を検討したほうがよいのではないかな。
		40代	災害時のホットラインなど行政ではかなり準備されているが一般の家庭ではほとんど何もされていないので行政は一般家庭の全てにリアルタイムで情報を共有できるような体制を作ってもらいたい。
		40代	津波に対してもっと情報が欲しい
		女性	20代
	30代		街のスピーカーが聞こえるようにならないかな？被災地以外からの援助がどれだけ早く受けられるのか？が重要。原子力発電所が危険極まりない。命は無いかもしいないと思っている。被災した状態でその後、生活していかなくてはならないとしたら、とても辛いことだと思う。
	30代		同報無線による地震の発表はとても早かったと思う。
	30代		正確な情報を早くほしいと思った。
	40代		自然災害が起きたとき、とっさには何も行動が出来ないものだった。状況を把握できるようにして欲しい。
	40代		地震で被害にあった家屋は無償で修理する、又は新築する予算を補正予算として蓄えて欲しい。
	50代	緊急地震速報や情報番組、地域の同報無線での連絡等、大変迅速に対応されていて驚いた。今後も是非同様の対応をお願いしたい。	
50代	私の家はテレビが壊れてラジオだけが情報源だったので、とても不安でした。		
焼津市	男性	20代	地震についての情報が直ぐほしかった。想定されている東海地震なのか？等、これから想定される被害についての対策。
		20代	とても大きな揺れだと感じた
		20代	広報が不十分だったと思う

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
焼津市	男性	20代	行政には火災報知機義務付けのように、緊急地震速報の機械設置義務付けの推進、または緊急地震速報機の助成金が1万以内で買えるようにしてほしい。
		20代	被害は比較的に少ないと思うが、被害にあわれた方に助成金などを渡してあげてほしい。
		20代	東海地震は今回の地震の200倍の規模という報道があったが、もしそれが事実であれば静岡県は壊滅すると思う。
		20代	自分ではそこまで大した地震ではないと思っていたが、ニュースでは東海地震との関連を含めて大々的に報道されていたので驚いた。
		20代	東名や橋など再度、耐震についての点検・補強を行ってほしい
		30代	テレビのニュース速報よりも早い情報伝達を検討して欲しい。
		30代	震度6を初めて体感したが、想像よりも大きな揺れではなかった。しかし想定される東海地震の規模が、今回の百数十倍と聞くと不安に感じた。
		30代	電車や道路は案外もろいと感じた
		30代	地震警報などの情報収集が地域単位で出来なかった。地震後も明確に情報が伝わって来なかった。
		30代	高速道路が自衛隊等の輸送路とか無理があると思う。今回、その道路が一部崩壊しているのだから、迅速な連絡、情報の公開をしてほしい。
		30代	地震後、すぐに市民に知らせる。
		30代	地震後のライフラインの早期復旧
		30代	防災無線が聞き取りにくいのでなんとかして欲しい
		30代	就寝中は何も出来ない
		30代	地震の速報を迅速正確に住民に伝え、避難するか否かの判断を素早く行い行動させる。
		30代	東海地震の予知、避難の指示。
		40代	東海地震説が知られるようになって既に30年以上が経つにも拘らず未だに耐震補強の済まされていない家屋が多数存在しているという事実には驚愕を禁じ得ません。もはやペナルティ物だと考えます。ブロック塀の倒壊などはもっての外でしょう。行政の権限で半強制的にでも耐震診断、補強を進めるくらいしたほうが良い状況に入りつつあるのではないのでしょうか。今回の地震では、我が国の大動脈である『東名高速道路』が不通になるという事態が起きました。この高速道路は、建設後40年を優に超えており、その耐震性に少なからぬ懸念を持ったのは多くの国民が共有するところでしょう。この際、現在建設途中の『新東名高速道路』の建設工事の完工の前倒しが現東名の復旧と併せて喫緊の課題とされるのではないのでしょうか？
		40代	建物などに被害が出ているのだから市町村で相談窓口くらい設けてほしい
		40代	情報提供・指示
		40代	防災無線は聞き取りにくい場所もあるので、そのほかの手段で情報を得る方法を確立してほしい。また、ライフラインが止まった場合の給水車などの配備状況などの情報がどういう手段で得られるのかなどを、普段から周知させてほしい。ガス漏れや土砂崩れ・橋の崩壊など、危険な場所を早い段階で確認できる情報手段がほしい。
		40代	交通機関が動かなくなったときの対応を何とかして欲しい
		40代	通勤に大井川を越えなければならない為、橋の強度の確認(補強)をして欲しい。
		40代	広報無線が聞こえない。
		40代	正確な情報をなるべく早く流してもらふことと、事後への備えだけ。自然の恐ろしさと言うか、自然災害に立ち向かう無力感みたいなものを今回悟った。地震が来るのは仕方がないし、被害があるのも仕方がない。それが最小限であることを祈る。強いていけば、浜岡原発だけは、万が一被害があったら人災だと思ふ。今回のことですごく身近に感じた。
		40代	この程度ではまだ良くわからない
		40代	被害への支援
		50代	市もしくは、県の防災局のHP上に各地の被災状況を収集できる機能を追加できれば 県内の状況がもう少し早く開示できるのではと感じた。今までの災害もそうであったが、被災状況(東名の崩落等)はかなり時間がたってからでないと状況が見えてこない。次にどんな動きをすればいいのか判断基準がわかりづらい。
		50代	もっと耐震補強をしてほしいと思う。
		50代	いろいろな情報がTVより遅かった
		50代	速やかな情報の伝達、救助物資の広報配布
		50代	広報無線がはっきりとした内容が分りづらかった。
		50代	市の広報の情報が遅いし、聞き取りにくい。
		50代	市からの地震情報-テレビ、ラジオでは情報地域が広すぎる
		50代	テレビ、ラジオによる確実な情報の提供
		50代	放送がごだまし聞きづらいので改善してほしい
		60代	ライフラインの復旧を(飲み水の確保が現実には一部しか供給出来てないのが実感した)どうしても(水等の届けに関して優先して届けられればと思った)一般車との区別が欲しい
		60代	地震発生後の全体の様子が分かる様な情報を、極力早く地域広報スピーカー等で流す。
		60代	対応の遅さをなんとかすべき。テレビの情報の方が早い(もっとも役人が集まる前に報道がながれている。)
		女性	20代
	20代		緊急地震速報というものがあるが、それを受信するためにはどうすればいいのかわからないので、調べて受信できるようにしたいと思った。行政には耐震診断や耐震補強の援助をしていただきたいです。
20代	第二東名を早く作って欲しい。		
20代	耐震工事の補助金を増やして欲しい		

居住地域	性別	年代	文字回答
焼津市	女性	20代	素早い連絡、住民の避難の有無などをしっかりと知らせて欲しいと思った。地方の広報では遅すぎる。
		20代	たった数十秒の地震で家や温水器にヒビが入るとは思っていなかったので、とにかくびっくりし、片づけ等でかなり疲れました。まだ余震もありますし、それに東海地震は今回の200倍といわれているので、きっと家は倒壊してしまうだろうと改めて感じました。(家自体もかなり古いので) 行政にはとにかく素早い対応と、耐震面、災害後の資金&物資的な補助を増やしてほしいと思います。
		20代	広報がながれたが、台風の影響でまったく聞こえなくて、さらに不安を感じた。
		20代	小さい地震でもどうしたら良いかを地震がおこったときにアナウンスしてほしい。避難場所を知らないので正確に教えて欲しい。
		20代	建物の耐震化
		20代	耐震性の弱い家に対する対策、援助。実際、瓦が取れたとき消防署の方はやったことがなく、逆に二度手間になった。しかも、態度が横柄でもう頼みたくないと思った。
		30代	避難場所の再度確認が必要では・・・。
		30代	地震が来ることを予知できるのであれば知らせてほしい。ペットがいるので、もっと大きな地震が発生したときとても不安になる。
		30代	東海地震ではなかったので安心したが、自身で経験した一番大きな揺れだった。避難や非常用食糧の備蓄など、家庭で出来る範囲のことをまとめたガイドブックがあればいいと思う。
		30代	災害状況によっても違うが、大きな地震で想定される液状化に対応した支援の対応をどうにかならないか検討してもらいたい
		30代	自宅からはなれた場所で地震にあったら怖いと思った。
		30代	行政の地震対策は、TVや広報で補助や政策について常に報告されているのだけれど、避難地までが遠いのが難点だと思う。我が家には90歳になる祖父がいるので、高齢者が過ごすのもつらいので、高齢者の避難に対して手をもう少し考えてほしい。
		30代	個別の地域で、詳しい情報を広報などでスピーカーより大きな音で聞こえるように流してほしいです。
		30代	食料や水などのライフラインが、すぐに復旧したり、配られること
		30代	防災意識が疎かになっていることに気づいた
		30代	防災無線は場所のせいか聞こえづらく、テレビの方が聞き取りやすかったので、テレビジャック行えないものかと思った。
		30代	東海地震への準備
		30代	今回の地震が東海大地震だったらと思わずにはいられない。今回の地震よりも大きいものが来るのだと思うとぞっとする。東海地震の予知とかいつ頃起きるとかを知りたい。
		30代	広報焼津(市内放送)は、反響したりして何を言ってるのか全くわからずかえって不安になるので、停電などが起こってTVが見れなくなったら困る。携帯サイトなどで速報がわかるサイトの情報を広めるとかしてほしい。
		30代	東海大地震の予知にかなり研究がされているが、今回のような地震の予知はできなかったのか。
		30代	最新の情報を迅速に伝えてほしい
		30代	できればもっと早く地域放送などで指示してくれるといいなと思う
		30代	国の大動脈の東名高速が崩落し、静岡県内の物流が麻痺、道路は大渋滞した。渋滞の原因の一つに一級河川に架かる橋の幅員が狭い、また橋の本数が少ない為に一極集中してしまい交通の麻痺を招いたと考える。よって、早急な避難道路整備や迂回路整備等の対策を望む、静岡県内の東名高速の重要度が国も県も分かったのではないかと。焼津市内の広報の放送が風や騒音の影響や、放送用スピーカーの位置や音量、距離により毎回聞き取れない。折角ある設備なのにスピーカー付近の住民しか聞き取れてないのが現状である。改善策を考えて欲しい。
		30代	とにかく怖かった。どうしたらよいか全く分からなかった。
		30代	事前にわかる事ならばもっと末端に情報を流してもらいたい。一部だけ知っているても何も意味がない。運がよくこの程度にすんでますが、次はそうはいかないと思う。もっともっと情報を欲しいです。
		30代	余震が続くのかとか、ライフラインは大丈夫なのか等の情報が早めであればよかったのと思う。
		40代	東海地震の不安に対する正確な情報提供や心のケア
		40代	予知はあてにならない
		40代	前から思っていたのですが、市の広報無線の声が聞き取りにくくて何を言っているのか聞き取れません。色々な場所のスピーカーから時間差で聞こえるような感じで言葉が重なって聞こえるのでなんとかならないかなと思います。以前住んでいた茨城県ひたちなか市では東海村の放射能漏れ事故後に各家庭にスピーカーを家の中に取り付けてくれました。それなら窓を閉めていても聞けるので安心だと思います。そのような事も考えてくれるといいと思います。
		40代	訓練でよく津波警報のサイレンは鳴らしていたのが、今回はブザー音だった。サイレンではないので、大きな津波ではないのだろうと思ったが、サイレンだけではなく、ブザーは注意などという段階を踏んだ訓練もしてほしい。
		40代	情報はとても早く収集できたと思う。行政の対処は早く今回は安心したが、予想される規模の東海地震が起こったときに安心できるかの保証は無いと思っている。
		40代	家具の無料固定に数量の限度があったので、数ヶ所無料で固定してほしい。
40代	古い家屋の耐震補強はもっとすすめるべきと思うが、費用も手間もかかるため、つい先送りしてしまいがちだが、できるだけ簡単にできる工法とか開発して、容易に耐震補強できるようにしてほしい。		

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答		
焼津市	女性	40代	震度6弱でこれだけの揺れなのに、この何十倍何百倍のものがきたら、どんなに丈夫な家でも壊れてしまうのではないかと感じました。地震が来る来ると言われていても、どこか人事のようところがあつたので、この地震で他人事ではないかと思知らされました。		
		40代	地震による被害状況や津波情報などの今後の行動に影響する情報の案内が遅かったので、早く案内出来る体制を確保して欲しい		
		40代	揺れている最中は、何も出来ないことを改めて感じた。		
		40代	地震の詳しいことを的確に迅速に伝えてほしい。		
		40代	やはり、東名の崩壊と東海道本線の遅延（いつ、動くか分からない等）が困った。（減多にこういった事がないので）		
		40代	地震後のライフラインが早急に復旧できること。避難所での生活になったらストレスを感じると思うので、そういうことへの配慮。地震直後の行政からの無線が聞き取りにくいので、正確に情報が伝わるようにしてほしい。		
		40代	今回の地震は阪神大震災に比べてかなり規模が小さいのに、みんな大騒ぎをしすぎだと思う。これぐらいでこんなに騒いでいるようでは、本当に大きい地震が来た時にパニックになってしまうだろう。		
		50代	どんな小さな被害にも手を差し伸べてほしい。		
		50代	情報が早くほしい。		
		50代	被害状況の把握、被害の修理を迅速に		
		50代	防災無線が聞き取れない。隣の市のほうが何とか聞こえる。何を言っているのか解からないようならもっと他の方法で確実に知らせてほしい。		
		50代	東海地震の話題が身近になった		
		50代	同じ地域でも各々被害が違うので、個人が出来る事は自分でするしかないと思います。行政は個人では出来ないことに頑張ってもらい、（補修工事など）地域のことは、各々がすべきと思います。		
		60代	とっさには何もできない。防災訓練には必ずでているので、それをするしかない。		
		60代	震災後の生活は自分で守るという意識		
		60代	市の広報は聞き取りにくく、通知が遅い。NHKラジオ、テレビの方が情報提供が早い。防災ラジオの感度が悪くあまり頼りにならない。細部の情報入手は地域行政が頼りなので、正確で迅速な伝達手段を確立してほしい。		
		牧之原市	男性	20代	水の配布はあつたが、ポリタンクがなかったため水を取りに行くことに苦労した。
				20代	水道の復旧の遅さに不安を感じた
				30代	損傷等で費用が発生した場合の負担
30代	避難の指示と避難所の開設を迅速に行って欲しい				
30代	行政は迅速に対応できていたと思う。				
30代	水道が断水してから給水車が来るのが遅かった。				
30代	食料と水の備蓄				
30代	主要道路の点検				
30代	災害住宅への修理費援助。				
30代	同報無線の音が小さく聞こえない。				
40代	しっかりとした情報がほしいです。				
40代	水道や電気の情報を、地区長や組長を通じて、各地区に合った情報を流して欲しい。自分の住む地域では、断水が断続的であつた。検査のための断水もあつた様だが、各地区の検査の時間等わかっていれば教えて欲しかった。（市→区長→組長→各戸へ連絡網等を使って）ただ、給水車も早くから配備して頂き、よかつたと思いました。				
40代	避難の必要性の広報				
40代	想定の中東海地震は今回の何倍もの揺れとなると聞いて行政に要望というより、被災後残っている家や建物があるのか疑問。地震直後もそうだが、数年単位で生活の安定化ができるような仕組みや制度を！				
40代	今回が東海地震であつてほかつた。（これで数十年心配しなくてすむ。この程度で済む食器の半分を失う程度。）M6.5でこれほど大変な状態になったのでこの数百倍のエネルギーを放出する東海地震に対しては恐怖を感じる。報道は静岡市などの主要地域を報道し地震の被害を評価していたので、県内で最も被害が出た牧之原市相良地区に住む自分は報道の不十分さを感じた。同一エネルギーでも最も揺れる地域に住んでいることが判明してしまつたので東海地震を考えると憂鬱だ。行政に対しては防災放送が聞きづらい為、改善してほしいと思った。				
40代	近くに原発があるので地震の後すぐ大丈夫か情報を知りたい。				
40代	とにかく正確な情報をより早く伝達する仕組みを整える必要があると感じた				
40代	行政は、生活弱者の安否確認を的確に行いたい。災害指定にならない災害ほど行政の危機管理に質が問われる。				
60代	地震直後は呆然自失の状態なので、行政からの指導を防災無線を通じてして欲しいと思った。				
女性	20代		ラジオの地震情報が、10秒前くらいという事だつたのが、発生と同時の情報だつたので、あれでは全く意味がなかつた。		
	20代	すばやく、確実に情報や対策などを提供してほしいと思った。			
	30代	同報無線が聞き取りにくい場所を何とかしてほしい。屋根の損壊ほか、緊急に復旧が必要なものについて、対策。ブルーシートを一部配布していたが、足りないし、だれがとりつけるのか、一般ではできない家も多い。東海地震とは関係ないことはショック。もう来てしまつてほしい。これ以上の怖いことがいつあるかと思っていることは不安なだけ。それが一番強い思い。			
	30代	町の広報が、度々何か放送してくれていたけど、声が割れてしまい、うちではほとんど聞き取れない状態で役に立たなかつた。大切な情報なのに、それでは意味がないのでなんとかならないのかと思つた。			

居住地域	性別	年代	文字回答
牧之原市	女性	30代	広報の聞き取りづらさを改善してほしい。
		30代	防災無線が大変役に立ちました。日頃うるさいと思ってました。
		30代	就寝中だったため、動くことができなかった。防災訓練はただ参加するのではなく、今回の経験を活かして、日中に地震が起こった場合の想定、早朝時、夜中時といったように訓練は必要だと思った。
		30代	周りのコンビニにスーパーなどはおにぎり、飲料水がなくなってしまうほど買い占められてしまっていて困った。なんとかかしてもらいたい。
		30代	食料・水の確保、避難できる場所を多くして欲しい。
		40代	マスコミの対応！
		40代	事前の警戒情報など今回みたいに早朝で得られない場合はどうしたらいいかとか考えて欲しい。
		40代	水道管の復旧をスピーディにしてほしい
		40代	食料品とか備蓄品の確保をしてほしいと思う。
		40代	市役所の広報は放送しているのだが、とても聞き取りにくい。是非とも改善してもらいたい。
		40代	非難しても役場の駐車場にいただけ。どうしていいかわからない。体育館の開放を。
		40代	今回地震で水道管が破裂しました。たくさんの方が断水状態が続きました。今回、電気、ガスは大丈夫でしたが、水の有り難さ、そして市の水道事業を改善して頂きたいと思いました。
		60代	揺れが収まってからするべき事の支持を防災無線で出して欲しいと思いました。
静岡市葵区	男性	20代	被害に対する補償など
		20代	東名が通行止めは困る
		20代	予測をちゃんとできるようにしてほしい。
		20代	東名の通行止め
		20代	全国各地で起こっている地震が、対岸の火事のように思っていた。しかし、今回の件で自分の身にもし天災が降りかかったらどうするべきか、地震をもっと身近に感じる事となった。天災は起きてしまうのは仕方がないが、起きた時にどう対処するかを考えたほうが今後の自分の人生に大きく影響すると感じた。
		30代	今回の地震で困った人たちの意見を集約して、本当に必要なもの、本当に注意しなければいけないこと、本当にすべき対策などの情報をまとめてほしい。
		30代	東名高速道路の早期復旧
		30代	地震保険
		30代	迅速な情報（第1報）があり感心した。東海地震の可能性があれば、必ず早く教えて欲しい。
		30代	予知情報の知らせ方を簡潔に分かりやすくしてもらいたい。
		30代	行政に関しては、状況の把握と伝達。被災現場の迅速な復旧です。
		30代	被害報告を迅速にして欲しい。
		30代	そのまま会社に出社したので自宅付近はどうかかわからないが、会社のある市内山間部は、特に地域の孤立がないかなど情報収集が行われていて、初動態勢も含め評価できたと思う。
		30代	地震に対する心構え対策など広報で、常に呼びかけて市民、県民の地震に対する意識を高めてほしい。
		30代	天災で行政に頼るのは初期には何も無し、インフラの早期復旧を行政には期待するが、被災後十日以内は無理だと感じる、整うまでは自力で何とかするべき。行政への過度の期待はするべきでない。
		40代	停電で情報収集が困難でした。停電地帯には速やかな広報活動をして欲しかったです。
		40代	やはり地震は何時来るのか分からないと痛感した。
		40代	余震やその後の危険についてもっと正確な情報をわかりやすく提示すべき
		40代	空振りでも構わないので地震速報をありとあらゆる方法で流してほしい。
		40代	病院に行くほどでない怪我。家等の破損などの連絡先の用意・広報。
		40代	税金はモノよりヒトに配分せよ
		40代	広報の発令を早くして欲しい。
		40代	正確な情報をいち早く伝達すること
		40代	食料の備蓄
		50代	地震の規模に割に被害が少なくて良かった。
		50代	この程度の地震では別れないが、万が一の時の非常食が弱者に不向きなものしか備蓄していないので、考慮が必要だと思う。
		50代	相談窓口の統一、案内広報
		50代	もう少し揺れが激しかったら、住んでいたマンションも打撃を受けていたと思います。食品の備蓄を増やそうかと感じました。行政は、寸断されたライフラインの復旧を一刻も早く行って欲しいです。あとは、第二東名の開通時期を早くしてもらいたいです。
		50代	これを機会に、ライフラインの再点検を要望する。
		50代	広報での指示を、的確でスピーディーにして欲しい。
		50代	市内で発生した災害の状況を広報等で知らせて欲しい。
		50代	今回、ラジオは情報が速かったと感じた。東京も大分揺れたからそうだったのかな、と思った。小さな地震でも、東京から離れたところで発生しても、速く情報を流して欲しいと感じる。
60代	地震は家事と違いどうしようもない。		
60代	町内での安全確認が無かった。		
60代	非常食や飲料水の準備をしなければと思った。		
60代	広報が聞けるようにしてほしい		

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市葵区	男性	60代	詳細な地震状況やその際の行動について同報無線等は余り役に立たないと思われる。地域ごとに助け合い行動出来る様な組織、情報網の構築（既存の組織等の活用）をさらに進める。地区の一部役員に任せるだけでなくその地区に住む市職員がその所属部署に関係なく指導的立場で関わって欲しい。（市職員は一般市民より遙かに多くの地震時対応の情報を持っている・・・そのように訓練されているハズ）
		60代	ライフラインの保全の充実はこの地震で確認できました。ただし本番の時どれだけ本領を発揮できるか不安です。
		60代	情報を素早く伝達する方法を構築すること。生活道路の整備。
		60代	報道機関の落ち着いた行動
		60代	正しい情報の伝達。
		60代	行政も頑張っている。
	女性	20代	早急な対応
		20代	高速が使えなくなったときの素早い対策（渋滞などがすごいので）
		20代	テレビが一時的に故障してしまい（20分間くらい）情報が得られず困ったので、地域の放送などで状況を伝えて欲しかった。
		20代	頼っても何もやらなそうなので期待はしていません。
		20代	地震予測の精度が上がってほしいです。
		20代	地震の予知。
		20代	正確な情報提供
		20代	東海地震が怖い。死者も多数出る可能性が高いとのことで建物が倒壊したら終わりだと思った。主人がいない時、子供達を私1人で守ることができるのかとても不安になった。
		20代	被害にあった静岡県民は、割と冷静なのに、情報を簡潔に冷静に伝えなくてはならないメディアのキャスターが興奮状態で冷静じゃなかった事が滑稽だった。
		20代	交通網のパニックを改善。大家(住宅管理会社)による定期的な耐震チェック、報告。改善の補助。災害用品の確保。医者看護師の確保。
		20代	海外にいるときに、災害があった場合の情報収集の方法があまり無いことに気づいた。NHKBSが見れるところにいたが、災害当日はそれでも地震情報を長時間行っていたが、次の日からは普通の番組や特集（今回は終戦日や原爆投下の日が近いので戦争の特集でしたが・・・）を行っていたので、ほとんど情報収集が出来なかった。特集も、残念ながら若い戦争を知らない私たちからするととても興味の無いもので、今本当に放送する必要のあるものか？と、思ってしまうくらいで残念でした。もっと、災害について長時間情報を流して欲しいと思った。特集を放映している間は、画面の一部で字幕放送をしていてくれるとか、工夫をして欲しい。また、携帯電話で、災害があった場合、携帯電話会社から契約者に一斉に災害発生などという情報を一括送信して欲しい。全世界で繋がる時代だし、発生直後にそういう情報が送られてきたら、とてもいいと思いました。
		20代	予知が出来るものならTV等で知らせて頂きたい。備えがあれば非難も出来るかと。
		20代	すぐに指示が出なかったので、不安に感じました。
		20代	どうしたらいいのかを指示してほしい。
		20代	防災無線などで、もっとその地域に密着した情報を流してほしい。
		20代	緊急地震速報などの充実。メディアのほうリアルタイムの情報がわかるので、行政でもよりリアルタイムな情報を発信すべきだと思う。
		20代	避難場所や飲食料の確保
		20代	地震のNHKの予知が意外と遅かった事や、就寝中だったのでTVだと聞こえない事。地震予知の為に装置に支援をして頂ければ助かる。
		20代	インフラの整備
		20代	近いうちに地震が来るだろうとは思っているが、非常時の対策がまだまだ不十分だった。
		20代	地震はいきなりやってくるので、いざとなったら自分は何も出来ない。そして、地震がおさまっても、恐怖心からすぐには動けなかった。停電はしなかったため、テレビから情報を得ることが出来たが、停電していたらもっとパニックになっていたと思う。緊急時地震速報が伝わってこない。地震直後の広報アナウンスが何を言っているのかわからない。地震発生後から毎日ヘリコプターが飛んでいるが、安全確認は上空からしかしないのか？
		30代	自宅や周辺では大きな被害がなかったので何ともいえないが、たとえばライフラインが止まってしまった場合の対応策を今以上に充実して欲しいと思う。
		30代	こんなに大きな地震がくるなんて予測できなかったのか？予測できるような機械とか何かがあったらいいのになと思う。
		30代	高速道路などの交通機関の補強。水・ガス・水道などのライフラインの補強。
		30代	もっと情報を流して欲しい、どうすべきかを広報が何かで放送して欲しい、東海地震が発生したらきっと生きてはいないだろうと感じました。
		30代	緊急地震速報の普及
		30代	緊急の救急車などの確保とか。何かあった時の救助がスムーズに行われるようにして欲しい。
		30代	緊急地震速報の充実
		30代	地震はいつでもどこで起こるか分からない
		30代	東名高速が地震に弱いのは以前からわかっていたが、沿岸部でなく山間部で会ったことに驚いた。第二東名は山間部を通っているが大丈夫なのか安全確認。
30代	テレビですっと状況を見ていたが、必要な情報は十分にあったと思う。		
30代	正しい情報の提供。今回の地震の情報は市の情報がなかった。（大雨注意報だけだった！）		
30代	広報で放送が流れたが、少し時間が遅かった気がする。もう少し早ければもっと良かったと思う。放送が流れた事に関しては、きちんと動いてくれているようで、ほっとした。		
30代	指示を迅速正確に出してほしい		

居住地域	性別	年代	文字回答		
静岡市葵区	女性	30代	情報の一元化		
		30代	もう少し、早く指示を出さないと、逃げ遅れやけが人が出ると思う。高齢者障害者の逃げる速度等考えてほしいと思います。		
		30代	4時間ほど停電し、不安になりました。ライフラインの復旧はなるべく早くして欲しいです。		
		30代	高速道路が一部寸断されたせいで一般道が渋滞するという事態になってしまった。あのような自体は今回が初めてだというけど、ライフラインの復旧は早急してほしい。		
		30代	被災した後、行政からの指示を受けるためには何に注意していれば一番早いのでしょうか？テレビ？ラジオ？それをはっきり教えておいてほしいです。		
		30代	広報静岡の放送をもっとしっかり各家庭に聞こえるようにして欲しい。せめて地震が来る前にサイレンを鳴らすとかして欲しい。		
		30代	寝たきりの父が心配。幸い勤務先は自宅の近くなので歩いて帰るが避難所まで連れて行けない。行政に頼めるようなことでもないし、近所の方に力を貸してもらえない。でも男性二人以上ないと運べない・・・実際は避難なんて出来ないだろう。		
		30代	私のところは特に被害が出たところでもないが、テレビを見ないと行政が何をしているのかわからない。全員が判るようにするのも無理だとは思いますが。		
		40代	いつも思うが、大雨洪水警報発令などをはじめ屋外の放送が、風向き・車の騒音等により、よく聞こえない事が多い。室内に受信装置などの設置を義務付け、普段から確実に情報を聞き取れる環境整備が必要である。		
		40代	早い情報		
		40代	広報などで予知情報があれば、と。		
		40代	広報無線が全然聞こえない。こちらは広報静岡です。までは聞こえても、肝心の内容は何一つ聞き取れない。こうした情報を確実にみんなに知らせる手段をもう一度考えてほしい。まだに通行止めとなっている、東名高速道路。これでは、東海地震のとき、自衛隊や支援物資も入ってこなくなるかと思うと、早く第2東名を開通するように努力してほしい。		
		40代	県庁の職員の集まっている様子を見て、ユニフォームを用意するお金を他の事に使って欲しかったと思いました。		
		40代	東海地震の予知を正確に行うことができないかと感じる		
		40代	被害状況について迅速な情報を伝えてほしい		
		40代	ライフラインの確保		
		40代	行政へはひとり暮らしの老人への対処はできているのか心配です。		
		40代	何時来てもおかしくないと思った。ペットの安全。		
		40代	広報しずおかは流れましたが、ゆっくり過ぎて何を言ってるのかわかりませんでした。		
		50代	広報をしっかりと伝達して欲しい。停電だとテレビでの情報はつかめない。		
		50代	静岡では前々から東海地震が想定されている地域のため住民の防災意識が高く同じ規模の地震にあった他地域にくらべかなり被害が少なかったように思います。しかし他地域から来て住んでいる方ではパソコンやテレビを破損されたという声を聞いたので一人暮らしのお年寄りだけでなく他地域からの大学生、転勤者にも防災の知識を持ってもらえるような対策を執ってほしいと思います。		
		50代	ある程度、地震が予知できるのなら迅速に知らせたいし、また、地域的な情報も迅速に対応して欲しい。		
		50代	すみやかな情報の伝達。		
		50代	行政によるより充実した備蓄。		
		60代	防災訓練はおこなったりしてるので、あわてないで行動出来る指導をお願いしたいと思います。		
		60代	高齢者に対して避難方法などを提示して欲しい		
		60代	行政を頼るより、自分たちの常日頃、地震がおきても困らないように考えて置くべきと思う。		
		静岡市駿河区	男性	20代	食糧、飲料水の確保
				20代	もし余地が可能ならもう少し早く連絡が欲しかった
				20代	どんな対処をすればよいかいち早く情報を届けてほしい
				20代	家具の転倒防止用の金具の無償提供、建物の耐震工事（県による負担高率）をして欲しい
30代	道路の整備				
30代	防災グッズを配布してほしい。				
30代	食料や水、ライフラインの整備				
30代	引き続き強化				
30代	防災無線をこういふときにこそ活用し、十分な情報を市民に還元してほしい。				
30代	行政は良くやってくれていると思うので、あとは個人の心がけの問題。				
30代	新しい建物に住んでいてよかった				
30代	施設を用意して欲しい				
30代	低所得者や地震災害地域の住宅を補助金や税金を活用して無料で対策してほしい				
30代	年配の方の把握とその方たちへの避難方法・備蓄品の確認など手を差し伸べていただければと思います。そこに私たちが地域のような地域の若い力も積極的に参加するシステムを作ることによって地域ぐるみで防衛ができ、また避難地生活もスタート時から一体感を持って生活ができストレスの緩和にも繋がるのではと思いました。				
30代	実際、地震発生時には直ぐには動けない。その後の余震情報など誤報が無い様に正確・迅速な情報が必要。尚且つ地域によって広報が聞き取りにくい場所があるのでアナウンスは聞き取りやすい声の人間がするべき。				
30代	基本的には自分たちで準備しておくべきだとは思いますが、地域でも水などの準備をさらに充実してもらえるといいと思う。				
30代	行政に期待したところで郊外まではなかなか手が届かないから自分で何とかしなくては、と考えた				

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市駿河区	男性	40代	行政からの情報提供
		40代	災害の発生状況を一覧できるような Web サイトなどがあっても良いと思う。東名高速が通行止めになり、一般道路が非常に渋滞した。しかし、ラジオでは渋滞情報は聞けるが、道路交通情報センターの Web サイトを見て細かい情報が無いし、他にも情報を得る術が無い。がけ崩れ等による通行止めの情報もニュースなどでは出るがそれを見逃したら得ることが出来ない。渋滞情報、津波の情報、火災の発生、停電や水道などのインフラ、建物倒壊、火災、洪水、こういった情報は1箇所ですべてまとめて閲覧することが出来るようなシステムが必要だと思う。
		40代	必要な情報を流す
		40代	各家庭でやるべきことや地震に関する情報を流して欲しい
		40代	今回の地震で、市民の防災意識、東海地震に対する関心が高まったのは間違いないので、この機会を有効に生かし防災意識、対策、訓練、シミュレーションなど高めていって頂きたい。自身も含め想定される震度7以上という地震の怖さは皆、充分わかったと思うので。30数年前から言われ続け静岡県民はどこか他人事、非現実的（自分が生きている内には起こらないんじゃないか的な）な受け取り方になっていた気がする。
		40代	今回は、物が落ちてきただけで、ライフラインなど生活に関する災害が無かったため、危機感を感じませんでした。これは、意識が低すぎですね。反省です。
		40代	道路の防災対策をしてほしい
		50代	町内放送もあってよかった
		50代	迅速な対応
		50代	知事が応召時にニコニコしながら県庁に行き、被災地も知事がまるで視察に行かないのを県民に対して何と考えているのか。危機感もなく、対応能力もない。
		50代	もっとしっかりとした支援を考えて欲しい
		50代	神戸も震災に遭いましたが、立派に復興しております。考えられる対策を実施して東海地震に生き残り復興に役立つと思っております。（建設業なので）
		50代	なるべく早く行政のトップ自らが直接、住民・国民に対して声明を出す。
		50代	比較的行政（静岡市）は落ち着いて対応していたと見受けられた
		50代	情報の報道
		60代	家具の転倒防止は大切だ
		60代	被害の状況、地震の情報を素早く報道してほしい。
		60代	防災放送が聞こえにくい
		60代	不安の解消
		60代	同報無線の充実。いつも聞きなれているフレーズは聞こえるが、肝心要のところがいつも聞こえないので行動が起しづらい。瓦がずれて屋根への被害はありましたが、行政は被害状況の数字の根拠はどこからの数字なのでしょう。調査は来ないし？ふしぎ。
	60代	広報	
	60代	自主防組織の活動強化が必要だと思った。	
	60代	行政からの指示や情報伝達システムの構築が不可欠。今回、台風接近による大雨洪水関係情報は流れていたが、地震に関しては一切の情報は無かった（伝わってこなかった）・・・機能していないと判断せざるを得ない。	
	60代	決められた避難場所には自主防災組織の役員と共に行政の担当者が点検とパトロールを実施してほしい。今後、高齢化、少子化が進む中で、避難場所の提供でなく、それ相応の人材も必要ではないかと思った。又、あれだけの揺れの後、比較的穏やかな雰囲気があったことは、被害にかかわらず災害に対する日ごろの伝達が役立っていたと思う。	
	女性	20代	万が一東海地震が発生して、家屋の下敷きになってしまったりけがを負って逃げられなくなった時、なるべくすぐに救助しに来てくれたら本当に助かると思った。
		20代	停電、断水と大雨が重なったときの情報源の確立。広報では聞きづらい。
		20代	地震の予測は難しいと思うが何より市の広報アナウンスはいつも聞きとりづらい。今回もテレビが一番役に立っていた気がする。アパート住まいだと広報新聞も入ってこず、普段から地域から孤立しがちな気がする。もっと備えや避難場所の情報が欲しいと感じた。
		20代	外に流れる広報の音が小さすぎて全く聞こえなかった。これでは全く意味がありません。
		20代	情報を速やかに提供すると同時に、情報を周知させること。また、起こった後のサポート体制を速やかに行える環境を整備してほしい。
		20代	津波対策をお願いしたい。地震で生き残っても、津波で死んでしまう！
		20代	発生時に市役所の放送が1度あっただけだった。
		20代	今回の地震がおきてから行政が何かしてくれたようには思わなかった
		20代	本当に恐かった。
		30代	いざとなったら何も行動が出来ない
		30代	負傷を免れたあとですぐに心配になったことは、津波と火災の2点だった。それが無ければ自宅にいるほうが安全だし、それがあればどう発生したかで避難する場所がまるで変わってくる。広報やテレビの割り込みをしてでも、その情報は真っ先に流すべき。また、発生していないときでも、「発生したらすぐに知らせる」というスタンスを示して、安心させる必要があると思った。
		30代	もっと、早急な手配がほしい。
		30代	情報が錯綜することがないように、確実に正確な情報を迅速に提供してほしい。
		30代	エレベーターに閉じ込められていた人がいましたが、地震の起こった直後の知識として、エレベーターには乗らないということをもっと周知するべきだと思いました。
		30代	広報などで、出来る限り早く情報を知らせるようにしてほしい
		30代	障害者に対する支援が必要ではないのか？
		30代	東海地震に対してもっとしっかりと備えなければならない

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市駿河区	女性	30代	耐震補強の補助などをしっかりやってもらい、倒壊ゼロを目指して欲しい
		30代	耐震補強工事の費用をもっと多くして欲しい
		30代	台風が来ていたので雨音が激しく、また窓も閉まっていたため、防災放送がほとんど聞こえなかった。行政からの情報が入ってきた印象が全く無い。もっと積極的な各地域への連絡を求めたい。
		30代	もっと地元地域の情報が欲しいのに、全国版のテレビで大きな被災があったとこしか放送や情報を流してくれなかった。どこのどこに道路陥没だとか土砂崩れだとか、細かいことも情報を流して欲しかった。実際に在来線が使えず、みんな車で動かざるを得なかったのが渋滞が起きてしまったのに、そういうことの情報も全く流れてなかった。東名が使えなくなったのはわかったから、もっと一般道とかの情報も欲しかったし、電車が止まったしバスも一部運行してなかったから、どうしたらいいかとか流して欲しかった。
		30代	早い情報や、一人暮らしの高齢者に対するの対策
		30代	頼りにしていますので、宜しくお願いします。
		30代	発生直後からテレビで情報を得られたのは良かったです。ただ、職場が介護施設なので、職場についての心配事が沢山あります。幸い利用者も全員無事で大きな落下物等なくよかったです。大震災の時にエレベーターが止まり自力では歩けない方達のことを考えると何とかならないかと思えます。
		30代	正確な情報を少しでも早く公開してほしい。
		40代	職場の防災組織はあるが、公共交通機関が動かないと出勤すらできず、活動できない。地域の防災組織づくりが必要だと思った。
		40代	最新の情報の提供
		40代	自宅や近所も被害がなかったが、停電していたので、いったいどのような状況か判断できなかった。なので広報で少しでも情報がつかめたのはありがたかったが、東海地震なのか、その前兆の地震なのか、これから更に大きな揺れがくるのか知りたかった。まあそのような予知は無理でしょうが。
		40代	県政・市政はかなり充実してきたのでいいと思う。このまま慎重に続行し、過剰になり過ぎて芯がずれない様にあって欲しい。
		40代	もっと地域の情報が欲しかったです。テレビやインターネットは同じ情報ばかりで、どんな状況で、どうしたらいいのか？わかり難かったです。ペットの対策はあるのでしょうか？とても不安です。
		40代	広報が聞き取りにくい
		50代	東海地震が騒がれて35年程経っていると思います。なんとなく慣れっこになっていたところにある意味で良い警告になったと思います。でも、余裕の無い中、なかなか建物の耐震までは出来ません。もう少し補助金を増やして貰えたらと思います。防災用品を揃えようと思いました。今回のように就寝中では警報も聞こえず役に立たないと思います。主要な東名高速が崩壊し市内がひどく渋滞しています。道路の耐震も急務ですね。
		50代	東海地震の予知体勢を更に強化する
		50代	地震が来る前の情報が無かった事、予知はどの辺りまで出来て、皆に伝えられるものなのか今回の地震で不安を覚えました。もっと広報を利用しては如何でしょう。
		50代	就寝中であつたため、ひどい揺れなのに、実際は体を起こす事も、声を出す事も何もできないというのが現実だった。頭を保護することや家具など転倒しそうなものから離れることもできなかった。家具の固定、物の飛び出しが無いように点検することがまず第一。つぎに、寝る場所を考えた方がいいと思った。
		50代	こわかったです。道路の点検をしっかりしてほしい。リアルタイムの交通情報をTVで流す。
		60代	町内放送もあつたし、よくなされていると思った
60代	行政の発表や対策が遅く感じた。後手後手に回っていた感じ。		
60代	同報無線をもっと活用してほしい		
60代	今回は迅速に対応してくれたと思う。公共施設、とくに学校の耐震化を急いで欲しい。		
静岡市清水区	男性	20代	途切れない、もしくは途切れても回復が早いライフラインの整備。
		20代	東名が通行止めにならないようにしてほしい
		20代	いざ地震になったら、何も考えられなくなってしまったので、テレビやラジオでの指示や情報をもらいたいと思う。
		20代	地震情報が行政から携帯へ情報が送られてきたが、地震とほぼ同タイミングであつたため、行政には、もう少し早めの予知をして頂けると助かります。
		20代	非常用の持ち出しものの配布
		30代	予想される東海地震は今回の200倍のエネルギーと言われているので恐ろしく感じます。行政にはケガ等があつた際の医療の対策をして欲しいです。
		30代	家が倒れたり家の中の物が壊れたりという被害は少なかつたのに、国でしっかり守られていそうな東名高速があつさり崩れたのには驚いた。いくら個人個人が備えをきっちりしていても、土砂崩れや津波など大きい2次災害が起きたらどうしようもないので、そういう面での整備は行政でしっかりしてほしい。
		30代	初めての大地震で、この恐怖は忘れ難い経験となった。
		30代	自分の住んでいる地域ではテレビ、ラジオからの情報以外に全く情報が入ってこなかったように思う。市や県からの防災放送はあつたのかもしれないが、聞こえた記憶が無い。幸い今回の地震で停電は無かつたが、テレビが停電で使えなかつたらラジオ以外に情報が全く無かつたかもしれないのかと思う。
		30代	被害状況や交通情報等の提供を頻繁にして欲しかった。ラジオを聞いていたが地震地震と言ってる割には何も具体的な事がわからなかつた。東海地震が騒がれる我が県なのだから、ほかの地域より先を行く情報整備対策などが整ってほしいと思います。

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答	
静岡市清水区	男性	30代	耐震補強の補助金の充実	
		30代	正確な情報	
		30代	安全な避難場所の確保、ライフラインの確保	
		30代	ライフラインの耐震化の強化。細かい区画での情報がほしい。	
		30代	東海地震想定発生域内の地震の予知ができていないことは非常に残念。静岡県を中心にした『東海地震』と東京などの関東を中心にした『関東地震』に対し、湯水のごとく予算を費やして地震予知研究、歪み計などの機材を設置していて、この結果はないと思う。また、東名高速道路の一部の路肩が崩れ、不通になったことも残念に思う。東海地震に対し、まだ対策が十分ではないことが良く分かったと思う。ただ、他の地域と違い、人やモノの被害が少なかったことは良かった。行政だけが『東海地震』に対応しているわけではなく、一人一人が常に高い防災意識を持っていたことを評価してほしい。	
		40代	予知の強化。	
		40代	ラジオが使えない地域にいたので、テレビなど情報が入るようにしていただきたい。道路が使えなくなったときの早急な修復をお願いしたいです。	
		40代	状況確認の体制を確立して欲しいと思いました。	
		40代	復旧についての情報	
		40代	テレビ等の情報がいろいろあって混乱する。	
		40代	一部落下したものの落下防止の実施。家内の問題点が分かった。東海地震に対する有意義な「予行演習」だった。	
		40代	より速い情報連絡	
		50代	あれだけの揺れになっても被害が少なかったのは常日頃、地震大国の静岡県の取り組みだと思えます。自分のうちもそうですが、何を作るにしても地震に対して気をつけています。行政の迅速な対応も良かったと思っています。	
		50代	それぞれの地域での一人暮らしのお年寄りへの連絡体制	
		50代	離れていた家族への連絡がとりにくかった。電話&携帯とも100Km先への連絡がたいへんだった。規制が早くに入ったのでは？	
		50代	行政などは当てにならない。自分は自分で守るしかない。	
		50代	予知と情報	
		50代	人生最大の地震であったが、東海地震は更に大きいと言われておりがっかりした	
		50代	水、食料等の供給体制、ライフラインのさらなる拡充が必要に思う	
		50代	今回の地震くらいで、東海道線が長時間不通になったり、東名高速が普及工事。弱すぎる！！ここは、日本の中央で交通関係が寸断されたらどうにもならないだろう。以前、七夕洪水の時も2日近く道路関係は麻痺し、西東が寸断されて、長野・山梨経由で動いていたが、一号線と東名が動けなくなると静岡はどうしようもなくなってしまう。	
		50代	あまり期待していない	
		60代	避難場所に十分な食料・水・毛布などがあるか？	
		60代	地震の怖さを実感した。	
		60代	道の復旧を早くしてほしい	
		60代	行政への期待よりも地域での対応が必要。	
		60代	道が混んで困る	
		60代	何をあいても、家の耐震性が重要で、大半の家が崩壊するような想定外の大地震の来ないことを祈るばかりである。行政は、東海地震に対する日頃の訓練の成果を、実際の地震で検証できたはずなので、内容を精査して、防災準備等を充実させてほしい。	
		60代	行政は後の事で取り敢えず家族の様子や家の状況。近所のお年寄りの一人住まいの安否。自主防災の担当者が町内の家屋の被害状況の調査。	
		女性	20代	これを機に、東海地震への準備をより一層呼びかけてほしい。
			20代	一人暮らしなので怖かった。
			20代	東名の通行止め
			20代	時間的にも問題があったかもしれないがもう少し迅速に情報の提供をして欲しいと思った。
			20代	地震が起きた後は、余震がくるのではという恐怖がある。今後、また余震が来る可能性があるのかなどの情報提供をしてほしい。
	20代		ライフラインの整備	
	20代		静岡は地震対策がしっかりされている。	
	20代		地震が起きた時にどうすればいいのか具体的に指示が来るようにしてほしい。	
	20代		防災グッズをもうちょっと安くしてほしい。一人暮らしにも安心できるような対策がほしいです。	
	20代		災害対策本部から県民への情報提供を即座にできるようにしてほしい	
	20代	余震等その後の揺れの速報が遅いと感じた。大した揺れでなくても気になるので早く知りたい。		
	20代	非難すべきかどうか、情報が欲しい。		
	20代	地震後の行動。地震が起きてから1時間以内に何かしらの連絡？指示？が欲しい。		
	30代	東海地震に対する恐怖が増した。実際に起きたら助からないのではないかと思う。もっと耐震診断や補強が必要だと思う。地震に対する備えなどを各家庭にアドバイスしてほしい。		
	30代	防災意識が高まったと感じた。		
30代	自分の周囲では被害はなかったが、身近な所に何らかの被害が起きたことによって地震への脅威を感じた			
30代	第二東名を作るべき。道1本ないだけで全国が混乱する状況はあり得ない。子供の頃、怒られて何回もやり直させられた避難訓練が役に立っている気がする。これからも避難訓練はやっていくべきだと思った。			
30代	怖かった			

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市清水区	女性	30代	どんな時間帯であれ、5秒前であれ、自治区の放送を使い、サイレンを鳴らして欲しい。素早い指示、火の始末や子供老人の非難、など放送して欲しい。自己判断ではなかなか、怖くて動けない。
		30代	交通機関の確保はやはり大切だと思った。電車や道路もそうだが今一度、地震対策をチェックし補強してほしい。
		30代	非難生活になった場合、早急に食料品や生活用品を用意して頂けたらと思います。
		30代	静岡県の学校で、地震の怖さを再確認させるために、地震についての知識や備えなどをもっと教えるべきだと思う。「避難訓練」も重要だとは思いますが、実際には家庭で起きる率が高いと思うので、今回の地震を教訓に、阪神大震災などとの比較などを今後教えていくべきだと思う。耐震を各家庭にさせるなら、もっと負担をしてほしい。自治会の広報の放送がまったくされなかったことがとても残念です。せっかく政令指定都市になった清水区ですが、まったくアフターケアがなく、すごく不快でした。
		30代	テレビが落ちてすぐに地震情報を確認出来なかったのが、市の広報ですぐに情報を流して欲しい。
		30代	怪我人も建物の全半壊も身近な人にはなかったのが良かったが、私自身にはタンスが倒れるということもあったので一歩間違えれば、とゾッとした。広報の放送が地震後あったのだが、ほぼ聞こえず、とても気になった。
		30代	東海地震について、予知が出来るのかどうかの発表をして欲しい。
		30代	怖かった。行政にはあまり期待出来ないと思う。
		30代	津波情報、今後の余震など、メールで送ってもらえたらうれしい。テレビなどですぐに地震情報を放送してくれたのでよかった。
		30代	TVの報道は早かったけれど地区の放送などはなかったのが情報を早くながしてほしい。
		30代	自分が小さな頃からいつか必ずくるといわれている東海地震に対し、いつしか警戒の意識も薄れてきていました。小学生の頃は、学校の避難訓練も頻繁だったし、地域の防災訓練なども今より力が入っていたような気がします。でも、今回体験した初めての大きな地震、揺れ、恐怖・・・とっさに子供を抱きかかえました。もっともっと、情報がほしい。行政は、きれいごとではない情報を市民に送るべきだと思います。
		30代	地下断層の提示
		40代	今回、行政がどんな動きをしたのか良くわからなかった。
		40代	災害難民が出ないようにしてほしい
		40代	ライフライン、公共交通機関の状況を刻々と知らせるシステムを作ってほしい。家にいる間はテレビで情報を得られたが、出勤のために出かけてからは情報が入りづらかったのが、携帯で見られるサイトを作ってほしい。
		40代	怖かったです。
		40代	まず、自分たちで出来る事からやっつけていこうと思う。また子供、老人、弱者に対して配慮しなくてはならないと思う。
		40代	今回の地震は交通渋滞以外の被害がまったくないことに驚いた。住居地は地盤が強いのか震源地による影響があるので、東海地震は今回とは違うので気は抜けない。佐用町の豪雨の被害のほうも深刻だ。
		40代	今回、震度が高かったのですが、大きい被害があまりなかったように思います。東海地方に地震が来ると子供の頃から学校などで訓練していたせいか、地震が来た時にどうするのか自覚を持って行動した人が多かったのではないかと思います。回覧板などで、今一度、常備品（何を用意しておいたらよいか）、非難場所、耐震のためにしておいた方がいい事などの防災対策をお知らせしていただきたいと思っています。
		40代	避難行動の指示をしてほしい
		50代	地震直後には、どのような事に注意するか広報した方が良いと感じた。
		50代	地震はいつくるかわからないから常に備える
		50代	正確・迅速な情報をお願いしたいと思う。
		50代	町や町内の状況を、広報などで知らせて欲しいです。
		50代	落ち着く事。状況報告、これから取ればよい行動（避難すべきかなど）の連絡。
		50代	市からの広報とかがなかった
		60代	防災訓練はやっているが、今回の時の様な時こそ、日頃の訓練と同じ様に動けるように指導していくべき。
		60代	早急な情報公開・被災後の支援
		60代	万が一の時の医療や救助体制をしっかりやって欲しい。

問 35 今回の地震に関して感じたことや行政などに対する要望

居住地域	性別	年代	文字回答
伊豆市	男性	30代	連絡が取り合える体制作りが必要。
		30代	家族と落ち合うにしろ、避難するにしろ、経路を確保できなければ意味がないので道路整備が重要だと思った。
		30代	緊急連絡網や情報伝達
		30代	いつ起こるか分からないけれど、日頃から食糧備蓄や水の確保は心がける。
		40代	飲み水や食糧の確保
		40代	現状をすぐに把握したい
		40代	社会的弱者（独居高齢者など）への災害時のサポートと、日常生活上の絆。
		40代	飲料水の確保。周辺の危険地域の再確認。
		40代	親の安否の確認。
		40代	予知は出来ないで、日頃の準備や起きた時に、慌てずに行動すること
		40代	生き残り、復旧まで自活ができる準備。
		40代	道路の災害復旧にいままで仕事で専念。今から感じるのかも。
		40代	正確な情報
		50代	落ち着いて行動を考える事
		50代	最近、東海地震に関心が薄れてきていたので、地域での防災体制を再度見直すことが必要だと感じた。
	60代	日ごろの準備	
	女性	20代	冷静に対応すること。日ごろの準備。
		20代	乳児がいるため、ミルクやおむつなどの準備が必要だと気付いた。避難場所の確認もしておく必要があると思ったが、佐用町の洪水のように早めの避難により災害に遭うこともあるのでいつ避難したらよいか分からない。
		20代	心構え（どういう行動をすべきか普段から考えておく）。枕元に懐中電灯・靴をおく。食料などの備蓄。
		30代	「家庭」について：今回は被害がなかったが、揺れを感じながらいつ家具が倒れてくるか不安だったので、家具は固定したほうが良いと思った。「地域」について：家に防災無線がないので最新の情報はテレビに頼るしかなかった。今回はライフラインに影響がなかったのでテレビで確認することができたが、通勤で使う電車が動いているかどうかは電話で確認するか、直接駅に行って確認するしかなかった。（私鉄のためテレビでの情報は確認できなかった）テレビでの情報は全体的なものになるため、市役所で確認する最新情報を各家庭にいち早く発信する方法を確立して欲しいと思う。
		30代	地震の際やその後にやらなければいけないものや用意しておきたいものを改めて確認する必要があると感じました。年配の方の一人暮らしのお宅もあるので地域全体での災害に対する活動が可能な体制強化が必要だと感じました。
		30代	各家庭の防災意識を高めて、最低限の備蓄は備えておかないといけないと感じた。
		30代	家族との災害時の打ち合わせ。
		40代	情報伝達の整備。
		40代	家具の固定。寝室に危ないものは置かない。
		40代	宛に角起きたとこの事を想定して家族の対応をよく話し合っておく
50代		日ごろ食料や飲料水防災グッズを用意して自分達で最低2日自活できるぐらい備蓄しようと思いました。	
御前崎市	男性	30代	冷静な判断
		30代	防災グッズ
		30代	日頃からの点検や家族とのコミュニケーション
		30代	普段からの避難訓練や食糧備蓄は必然だが、地域による援助や事前に予知情報が欲しいと思う。
		40代	家具や電化製品（テレビ等）の固定。飲食の準備。迅速な情報とすばやい対応。行政の対応。
		40代	あわてずに行動すること
		40代	周りで瓦等が落ちたので耐震は必要と感じた。
		40代	静岡県並びに御前崎市の地震対策は迅速でした。さすが、東海地震の地域の行政だな、と思った。最初の震度だけ、震度4と誤報をしたが、すぐに震度6弱と訂正をした。
		40代	東海地震が危惧されてからすでに30年以上過ぎていて未だにこない東海地震なので今更心配しても仕方がないが今回ほとんど影響がなかったので少し安心もしている。とにかく揺れが始まったらあわてないで逃げ道の確保だけはしないといけないと感じた。
		40代	避難場所の安全性確認と避難方法
	女性	20代	地震は本当にいつくるか分からない。今回もこのような地震は全く想定していなかった。だから日ごろ備えは重要だと思った。
		20代	行政側の視点から考えると、日頃の防災訓練や防災意識を高める広報活動のおかげで、この程度の被害で済んだと思う。住民の防災意識に対する真剣さや取り組みが重要だと感じた。
		30代	落ち着いて情報を入手すること
		30代	田舎の古い家が多いので、その辺再度確認が必要と思われる。私は賃貸なので出来ることは少ないが、考えたい。家具の固定はやっぱりしておかないと、と思った。慌てて外へ飛び出すのはよくない。スピーカーから市役所からの情報が入るのだが、上手く聞き取れなかったのが困った。揃っていると思った避難セット揃ってなかったので、再度行く。
		30代	地震に対する情報の大切さ。東海地震観測情報ははじめて聞いた、または聞いたけど忘れてしまって、同報無線で放送され、これは東海地震なのか！とかえって焦った。情報の無さはパニックへつながると感じた。

居住地域	性別	年代	文字回答
御前崎市	女性	30代	荷物の整理が大事だと思った。背の高い家具はあまりないけれど、高いところにもものがあるので、それを片づけたいと思った。
		30代	どこで寝るのか、寝室の布団の位置を考えること
		30代	実際に大きい地震が来ると何もできないんだろうと思うので、常に地震がいつ来るかわからないということを意識していきたい。
		40代	今回は早朝で家族が全員家にいたが、バラバラの時のことも考えて避難場所などもしっかり再確認しておきたい。又地震後、近所で助け合うことも重要だと実感した。
		40代	防災グッズの準備をすること。家具が倒れないように固定する。
		40代	まずは家庭にある家具の固定と貴重品の持ち出し用袋の徹底化と家屋の強化が大切
		50代	これを教訓に、薄れ掛けてきた東海地震への防災意識を高め、今以上に備えておかなければいけないと痛感した。
		50代	つねにいつ地震が起きてもいいように、意識して準備しておかないといけないと思いました。
焼津市	男性	20代	とにかく周りの人たちがパニックを起こさない事。地震直後、直ぐ情報がほしい。家で出来る地震対策は出来る限りの事をする・・・。
		20代	道路や建物の耐震強化
		20代	正しい情報の速急な収集
		20代	一家に一台、緊急地震速報の機械の配置。ライフラインの早急に復旧すること。
		20代	あわてないこと
		20代	地震が起きてから準備するのではなく、事前から準備できることはしておく、逃げる際に、より早く逃げられるのかなと思った。
		20代	正確な情報をいつでも入手できるようにしておくこと
		20代	家族と一緒にいない時間帯に地震が来たときに備えて、連絡の取り方などを再確認しておくこと。家具の転倒防止。
		20代	2階で就寝する
		20代	事前に地震に対しての対策が必要と思った
		30代	東海地震を考えると、逆に何もする気が無くなったのも事実。
		30代	パニックにならない様に、地震が起きたらどう行動するかを事前にある程度考えておかなければならないと感じた。
		30代	家具の固定
		30代	震災前の準備が自分たちの命を守るためには必要だと感じた。また、地域ごとの震災後の支援を明確にすると、市民の震災への意識も高まると感じた。
		30代	本物の東海地震では地震発生時に生き残る事ができるかどうか。対策はその確立をあげる事かなど。正直、本物の東海地震に対して絶対の対策はないと思う。運の要素が結構あるかなど。いっどこで起こるかかわからないので。
		30代	水の備蓄
		30代	昼間などに起きたら家族との連絡のとりにかた、安否確認が取れる体制を強化してほしいと思った。行政の体制強化をしてほしい。
		30代	事前の訓練、シュミレーションをすること。
		30代	ライフライン、情報の確保、とにかく情報がほしい
		30代	建物が倒れないこと
		30代	ある程度自分で対処すべき
		30代	迅速かつ正確な情報伝達、市の広報の放送があらゆる角度と距離の違いから打ち消しあい何を言っているのか普段の行方不明者等の放送時でも分からないので改善策を考えてほしい。また、周りの騒音に消されていて聞こえないので音量も上げてほしい。
		40代	まず落ち着いて、冷静に行動する。
		40代	準備
		40代	地震発生直後、津波の情報を得ようと、すぐに窓をあけて防災無線を聞いたが、放送の声がどんだんかぶって行ってしまって、何を言ってるのか全く聞き取れなかった。今回は、TVで情報を得たのであわてることはなかったが、情報が無いということが一番不安になるし、次にとるべき行動の判断を誤ることもなるので、情報を確実に得る手段を確立する必要がある。
		40代	まずは、自分で自分の身を守るように準備すること。
		40代	今回夜勤で出勤していた為、家族の安否の確認で携帯電話が繋がりにくく確認に時間が掛かった。携帯の非常用伝言の活用が必要だと感じた。
		40代	慌てないこと。情報をしっかり確認すること。
		40代	備えあれば憂いなし。
		40代	東海地震は今回の地震の100倍以上を想定していると聞き、どうしようもないと思った。準備することは、運良く生き残った場合のことを想定して何を準備しておくか？それも実際に持ち出せるかどうか分からないが、食料等を一箇所にまとめておいて、地震後に運良く持ち出せればラッキーというところか、とにかく家族が無事に外へ逃げ出せることだけを祈るだけ！（特に父親が障害者なので、子供と妻の安全を確保してからという順序は、今回認識させられた）
40代	点検を行い、危険をなくしていく。		
40代	地震への意識		
40代	市の広報スピーカーがすぐに何か言っていたが、聞き取れなかったので、行政からの情報伝達方法に改善が必要ではないかと思った。		

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答	
焼津市	男性	50代	今回は、早朝でかつ学校も夏休み中であったため、家族全員が自宅におり安否の確認をする必要がなかったが、家族間の安否確認方法を再度、携帯、伝言ダイヤル等優先順位を決めておく必要を感じた。また、もう少し遅い時間であれば朝食の仕度で火を利用している事が想定され、火災発生による被害もでていたのではと感じた。本地震では、震央距離18kmと近いことからいきなり大きな揺れに襲われガス等の消火する余裕もなかったのではと考えたと揺れが収まった直後に消火作業可能な準備が必要であると感じた。	
		50代	高速道路が使えないのが大変困る。	
		50代	油断大敵！！	
		50代	家の耐震対策、地震後の対応の訓練	
		50代	日頃の地震に対しての心構え・準備など。	
		50代	日頃地震に対する意識を持ち続ける	
		50代	電気に支障がなかったことが前提だが、テレビ等による随時の情報提供があれば落ち着いた行動ができるということ。	
		50代	広報無線を使い、情報をいち早く伝えてほしい。	
		50代	家の耐震については新しいので問題はないかと思うが、家の中では物が倒れたり落ちたりしたので、その点の対策をしなくてはと思った。	
		50代	地震対策の徹底	
		50代	今回は家族のいる時間帯なので安心でしたが仕事に出かけているときは家族の安否が一番気になると思います。日頃の連絡方法をしっかり把握したいです。	
		50代	近所との助け合い	
		60代	友達の家で原市に水を届けたが、交通の便が悪く不便を感じた（飲料水不足）	
		60代	家具の固定、食器棚の中の物が、飛び出ないように対策する。寝室には、家具を置かない。	
		60代	海岸に住んでいるので津波対策をどうすべきかの指針がほしい	
		女性	20代	もっとひどくなったとき、安心だと思って余震が来たときの対応がうまくできるかどうか。
			20代	家庭ではもう一度家具などの点検をすることや、備蓄食料の備蓄場所の変更、また地震が発生したときに避難経路を確保するために、室内の整理をすること。それ以外では避難場所の確認や、そこに行くまでの非難ルートの確認が大切だと感じた。
	20代		家具をきちんと固定する。日ごろから、地震に対する意識を強める。	
	20代		防災訓練。防災用品のメンテナンス。家具などの転倒防止。	
	20代		離れた場所にいる家族との連絡の取り方、どこに避難すれば良いのか、家具の固定や災害に備えての準備、以上をしっかりと考えて備えておこうと思った。	
	20代		自分の身の回りだけです、非常持出品をまとめておくことは本当に大切だなと感じました。また、物が落ちてこない&物を置かない環境づくりもしなければと思いました。逃げる際に足場がなくなってしまうことを痛感しました。	
	20代		ベッドの周りに倒れるものや落ちてくるものを置かないように注意しようと思った	
	20代		非常用の備蓄を用意しておくべきだと思う	
	20代		何か起こったときの非難場所を知っておくこと。貴重品や食品のある程度の備蓄・集約をしておくこと。	
	20代		今回、我が家は何もなくて安心し、家が地震に強いと感じました。ただ、地域によっては水が止まったりしているので水などのライフラインの事はちゃんと考えないといけないと思いました。家具も固定する為にネットで色々、探しています。	
	20代		防災意識	
	20代		家が古く絶対に地震がきたら潰れるとわかっている為、両親は何もしていない。地震が来てから騒ぐのではなく、こういった家庭にいい対策をしてほしい。	
	20代		持ち出し袋の点検。 寝るときに枕元に、動きやすい服を置いておく。	
	20代		子供や年寄りの安全の確保が大切	
	30代		屋内・屋外に関わらず整理整頓！ブロック塀の固定をし倒壊しないようにするか、倒壊時の通行の妨げにならないようにブロック塀を撤去することも必要と思う。	
	30代		大丈夫だろうという考えを変える！！いつ地震が来ても最低限の被害で済むように家具の固定など普段から準備をしておくこと。	
	30代		慌てずに、テレビなどで地震情報を確認すること。	
	30代		新築なので家事態の強度は大丈夫だが、地域的に液状化の場所なので今回の地震でも少し海側では液状化が確認されているので、逃げ場もないし、災害援助も対応していないので、常備食や水を多めに用意しないといけないと思った。	
	30代		古い建物に対する整備を地域で行う。家具は固定する。モノの置き場所に配慮する。	
	30代		家の被害はガラスのコップが3個程度で、たいしたことはなかった。それは平日頃からの対策で家具の固定や、家具の選択時における想定があるから被害が少なかったからであって何も考えていなければ被害はもっと多かつただろうと思う。平日頃からの地震対策と、非常時に動きやすい準備。ベッド下にスリッパなど、行政の対策も大事だが日常における準備も大事なものに思える。	
	30代		借家なので、地域の人たちとの係わりが薄いので、一人にいるときはとても不安です。広報などもスピーカーが近くにないので、とても聞こえにくく、地域の情報を得られるかとても不安です。	
	30代		身の安全を守ることが一番だと思いました。その後、食料や、水などのライフラインの確保が大事だと思いました。	
	30代		大型以外の家具の固定	
	30代		子供が怖がって離れなくなってしまったので、どう行動するべきか、夫とよく話し合うべきだと思った。	

居住地域	性別	年代	文字回答
焼津市	女性	30代	各家庭での準備が必要
		30代	非常食や水などが準備不足だったので買っておこうと思った。
		30代	各家庭、建物の耐震見直し。家具、置いてあるものの固定・ものをあまり外に置かない。水道管などの補強。各家庭での緊急時用の物資の準備。実際地震が起きて近所の人とも特に何も話したりしなかったし、地域の防災組織より各家庭でのそれぞれの行動・準備が一番信用できるし重要だと思った。
		30代	大型家具しか固定してなかったので、もう少し他の家具も固定した方が良いと思った。家の中に安全な場所を確保すべきと思った。
		30代	もっと強い地震がきたらきっとパニックになっていると思う、難しいことかと思うけど冷静に行動したい。
		30代	倒れてくるものがないようにする。備蓄を確認する。住人の居場所の確認。
		30代	津波に備えて近くの高い建物が開放されていたが、ほとんどの人は知らなかったと思う。何か連絡方法を考えたほうがいい。
		30代	その時々状況の時に地震がきた時どうするかを考えておかなければいけないということ、今回は家族と一緒にいたからよかったが、もし一人のとき、地震がきたらどうするかを考えてシュミレートしておく必要があると思いました。地震と台風などと複数の自然災害が来た場合どうしたらいいのか考えるようにしたい。
		30代	正確、迅速な情報伝達
		30代	会社関係では、連絡網の作成&確認が必要だと思った。家族とは離れて暮らしている為、電話が繋がらない時の連絡方法を決めておく必要があると思った。揺れが収まった後、どうしたらよいか全く分からなかったで、どのような行動をとるべきか、把握しておく必要があると思った。とにかく、飲料水の確保が必要だと思った。
		30代	実家と同じ市内に住んでいますが、道が陥没した時に困るのでなるべく実家の近くに住み、常に地震について話し合う事が大切だと思いました。
		30代	日頃から訓練には参加しているが本当の地震のときに何処にいるか分からないのでそういうときのことを考えさせられました
		30代	あわてず落ち着いて行動すること。日頃からの準備（非常食、飲料水等）。
		40代	転倒防止、家具の補強、棚が開かないように閉めておく、など。
		40代	食料品の備蓄
		40代	固定できる家具は固定したり、寝室にはあまり大きな家具や重い物を置かないようにするなどできる事はしたほうが良いと思った。私の住んでいる所では断水や停電はなかったのですが、断水など起こった所もあったとの事なので日頃からペットボトルなどの飲料水を備蓄しておいたりすぐに食べられる食料品なども買っておく必要があると本当に感じました。
		40代	静岡県は恐らく他の県と比べて地震の発生は決して多くない。しかし東海地震のおかげで子供の頃から訓練や、頭の中での想定は出来ていた。食料や水も多少なら用意してあった。しかし、それは地震が起きて無事ならの準備や訓練であって、大地震の中でも生き抜くという設定ではなかったように感じる。家具の固定が甘く少し動いていたり冷蔵庫の扉が開いたのを押さえていたり、まだまだ固定が甘いと思った。家の中で地震が来たらどこに避難すれば安全なのか、避難できる部屋や場所を作っておく事、津波はすぐ来るのだから、準備などしてる暇はないことを肝に銘じて日ごろの準備をしたいと思った。
		40代	とっさには何も出来ないと痛感した。普段から家の中の地震対策をある程度とってれば、物の落下などでの負傷はないが、それも防げないほどの地震の揺れだった場合は地域である程度充分な非常食、水の確保は必要だと思う。
		40代	普段から地震に対する意識を持って生活する。非常時の持ち出し品をまとめておく。食料品、生活必需品の備蓄。
		40代	全ての家財道具の固定。
		40代	震度6弱だったわりに固定していない大きな家具類も倒れることがなく、上に置いていたものが少し落下した程度だったのでこんなものなのか？という感じ。すぐ持ち出せる場所に避難用品や着替え、靴を置いておくこと。懐中電灯とか電池を確認しておくこと。家具類テレビ等の固定。家の中の玄関までの通り道がふさがれてしまうことのないようになど、今回は大丈夫だったがちゃんと確認したい。
		40代	うちは建築関係の仕事で、自宅も築9年で耐震対策して建てたので、自宅地震がきても倒壊の心配はないが、家具等の転倒の対策は不十分だったので進めていきたい。古い家屋では、地震時に倒壊を心配しなければならぬので、最低限の補強は是非進めていって、安心して暮らせるようにしてほしい。
		40代	家具の固定、家族の意識を高めること、備蓄品の確認。
		40代	避難順路や場所の再確認、防災用品の準備、情報の確認方法などあらゆることを再度確認し、不足を補うことが大切と感じた。地震対策が不十分であると感じた。
		40代	日頃の防災意識
		40代	物が落ちてこないように日ごろから物を片づけておくこと。
		40代	家庭内での破損が多いくらいだったので、特に大きな被害がなかったで、あまり周りもそれほどではない。
		40代	古い家屋の補強。落下物や倒れたきた家具などで怪我をしないようにする。そのために転倒防止策。寝ているそばに家具は置かない。高いところに割れ物等置かない。
		40代	あまり上の方まで物を置かない。懐中電灯を寝室にも用意する。
		50代	耐震診断をして家を補強するようすべきなのは分かるが、実際の費用が暮らしに負担がかかるので出来ない。耐震診断は、無料かつ安心して頼めるのは、市などの機関なので、もっと積極的に取り上げてほしい。

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
焼津市	女性	50代	2、3日分の食料は常に蓄えていた方が良い。スーパーは閉まり、コンビニもトラックが着かないので、品薄になります。
		50代	それぞれが注意し、家具の転落防止などする。
		50代	家具が倒れないようにすること。
		50代	一人暮らしや、高齢者の人の各家庭を訪問すべき
		50代	早朝なので家族全員家に居たから良かったが、外出中なら居場所の確認、安全の確認が大切と思った。
		50代	家具の固定は必須条件と思った。
		50代	震度6弱は初体験でしたが、幸い大したこともなく建物の古い新しいではなく地盤の堅さだと思える。それと家具の設置角度も重要と改めて感じました。その点、地盤は変えられないが家具の角度は少し勉強しようと思います。まあ、何事も経験出来、無駄になるものはないと思いました。
		60代	家具の固定、水・食料などの備蓄並びに発電機・消火器などの点検整備
		60代	地震対策は概ね出来ていると思う。ただ恐怖心は倍増した。どんなに万全を期しても不安は消えない。個人で出来る限りの対策はするべきだ。
		牧之原市	男性
20代	備える気持ち		
30代	備えが必要である。転倒防止など後まわしになっているものを早めに行う。		
30代	事前の対策		
30代	冷静な判断		
30代	避難訓練はしていたが、実際はどうしていいかわからなかった。		
30代	地域、町が一丸となって助け合うこと。地震直後に広報のアナウンスが町全体に流れたことで、大災害だと認識できた。災害時の放送で、そのときの情報が入るので、続けてほしい。		
30代	ガラス等の飛散防止		
30代	家具の固定		
30代	近所の助け合い		
30代	落ち着いて、的確な情報を早く手に入れる。		
40代	行政からの指示がはっきりしなくて、非難しなくてはいけないのか、自宅に待機していいのか、わからなかった。		
40代	防災の日等に避難訓練を実施しているが、今回の地震発生後、自分の住む地域では、避難地に来た人は一人もいなかった。この地区では、家屋の倒壊もなく、ある意味、「日常の地震」的な考えがあったようだ。避難が必要なのかどうかの判断が、難しいと思った。市や自治体からの、具体的な指示が必要なのかとも思った。避難訓練の時は上手く出来ているのに、実際の地震の時に機能しなかったように思う。避難訓練の、根本的な見直しが必要かとも思った。		
40代	他人事ではない		
40代	正確かつ迅速な情報収集		
40代	建物被害は建てた時期により被害に差が出るとは言い切れないことが分かった気がする。被災時に他府県からの支援を受けるのに東名高速道路が大きな役割をすると聞いていたが、ほとんどの一般道で通行止めが出ないのに肝心の東名高速が、あの程度で不通に成ったことと、周囲の被害がほとんど無く復旧作業の準備が行いやすい環境で作業に2日程度も要するとは・・・		
40代	東海地震を想定した耐震補強の有効性と、一部にはその機能を果たさなかった部分がよくわかった。実際には、主要の家具のみの耐震補強であったがすべての家具や、気軽に家具の上においてあるもの、そして扉、ふたの無い収納家具は中身をすべてぶちまけていることが分かり根本的に考え方を変えなければならぬと感じた。家屋損傷や主要家具の倒壊による負傷や避難困難を想定したが、そこを無事潜り抜けてもめちゃくちゃになった室内の片付けなど相当な労力を要した。東海地震ではこの程度では済まないはずなので、震災後でも最小の後片付けで済むような備えをしなければと思った。発生時の安全→発生後の避難路確保→避難時の持ち出し品の厳選および持ち出しやすさ→震災にあったとしても室内がめちゃくちゃにならないような家具、収納方法の改善・・・こんな優先順位で今後は備えをしていく予定。		
40代	断水している所がいまだにあるので、水の大切さ。		
40代	地震はいつ来てもおかしくないと日ごろから心がけることが大切だと感じた		
40代	消防や救急、介護施設等の職員も被災する。自主防災組織や自治会等も同じ人材で構成されており、すべてにおいて機能が半減しやすい。また、東海地震の場合、行政の管轄をまたぐため対応が期待できない。		
60代	耐震の建物にすることの重要性を改めて感じた。屋根の補修をする家は出来る事ならば、瓦はやめたほうが良いと思った。瓦屋根の被害が殆どだったから。		
女性	20代		比較的、携帯電話が通じたので良かった。でも、ラジオを聴いていたのですが、『緊急地震情報』と同時の地震だったので、まるで成す術がなかった。
	20代		日ごろから、被災後に備えて、飲食料を準備しておいたり、被害を最小限にできるように、準備をしておくことは大切だと感じた。
	30代		普段から、家具を固定したり、棚に雑多に物を置かないようにする。倒れるようなもののそばで寝ない。倒れるものがない空間が家のどこかに必要。瓦は落ちると思っている。どんな方法でも、とにかく必要な人と、多くの人と、連絡をとれることが大切。ブルーシートはどの家にも備えておく。自分のことで精一杯。弱い人をいっただうするのか、と思った。
	30代		前もって固定していなかったタンスが倒れ、固定してあった家具は大丈夫だったので、やはり対策してあるということの大切さを感じました。
	30代		水や食料などの避難持ち出し品の確保

居住地域	性別	年代	文字回答		
牧之原市	女性	30代	日頃から備えておくことだと思います。油断しきっていたと反省しました。		
		30代	今回は早朝だったため、大きな火災がなかった。これをみると逃げるときはガスの元栓を締めるのが大事だと思った。家具の固定もとても重要だと思い再確認できた。地域の組長や町内会長など安否の確認に来たので、地域がどの程度の被害にあっているか把握できた。家屋は瓦屋根の一部破損がとても多く、当日は雨も降っていたので、雨漏りしていたから屋根の維持や修復をしたほうがいいと思った。		
		30代	すぐに非難できるような荷物をまとめておくこと		
		30代	居場所（避難場所）確認、安否の確認、食料・水の準備、ペットの対応が必要		
		40代	我が家では車椅子生活の障害者がいるが被害が軽かったせいか安否の確認がなかったので不満に感じた。今回の地震で被害にあった東名高速の崩落現場の部落に住んでいて現場に目と鼻の先程度近いのですが、上空には4～5機のヘリコプターが旋回し非常に音がうるさい。事故や故障などで落下してこないかと不安に思う。またマスコミが部落内の公民館や茶工場に駐車して中継をしているがマスコミの人数が多く、チャーターしたタクシーやフリーのマスコミ？の車（個人所有）や野次馬などが路上駐車してあまり広い町道を徐行して通らなくてはならない。とても危なく危険と思う時がある。東名、東西物流のライフラインが寸断されたので大きな問題、日本全国の人が知りたい・心配している事なのは十分理解しているがもう少し地元住民に気を使って欲しいと思った。		
		40代	今回津波警報が出たが（地元の放送で）どこへ逃げてもいいかわからなかった。雨も降っていたので外へ簡単に出られなかった。日ごろ避難場所とか確認しておくこととか、外出した場合は家族との連絡の取り方とか確認しておくことが大切だと思った。		
		40代	水のくみ置き、家の中の整理整頓、非常持ち出しの準備		
		40代	大きな地震がきて今回以上のものならばこのあたりは全滅だと思うし、家も間違いなく壊れてしまい生存するほうが奇跡に近いと思った。何をしてもこれ以上無理だと思う。		
		40代	台所のちょっとした所やタンスの上の空間などに、つつい物を置いてしまうが、そういう物が一気に落下してきたので、できるだけ物を置かないようにしないと強くなった。家族を含め近隣でもけが人が出なかったのは幸いでした。停電はしなかったけど、地震直後には出ている水が出なくなり、半日以上出なかったので、心の油断があったと反省している。ライフラインは一つでも欠けてしまうととても不便であるし、自分が防災に対する意識が低いとつくづく感じました。		
		40代	携帯が繋がらないが、メールはできたので常に連絡を取り合うこと。避難場所の確保、普段からお互いの居場所をメールで連絡し合うこと。		
		40代	今回ひどい被害はなく、ケガもなく、とてもありがたいと思いました。家具、テレビ等の転倒に気をつけたいと思いました。		
		60代	揺れが収まったら、ガスの元栓をしめる、水道水の確保等、気が付かない人のために防災無線で支持をすることの必要性を感じた。元気な人は近所の住人に怪我人等が出ていないか調べる。実際に起こってみると何をすべきか解らなくなってしまうことが判明した。		
		静岡市葵区	男性	20代	家族の顔が見れると安心するので、すぐに駆けつける事
				20代	離れて暮らす家族との連絡体制の構築
20代	冷静に対応すること				
20代	備え				
20代	日頃からのコミュニケーション				
20代	いざとなったらどうしようもないと思った。				
20代	きずな				
20代	地震が起きた時にどうするか、起きた後に想定されるケースを事前に考えて準備する必要があると思った。				
30代	いつでも行動できるように備えは万全にする				
30代	家具などは固定する、安全な場所を作る、地震直後は電話はしない、など、基本的なことをちゃんと守ること				
30代	災害時の家族のそれぞれの役割				
30代	コミュニケーション				
30代	より身近な問題として再認識した				
30代	情報収集				
30代	それ程の被害はありませんでしたが、やはり備えが大切だと実感しました。				
30代	情報伝達やその手段				
30代	あわてない				
30代	今回の地震で近所の家で瓦の落下があったのだが、自分の家族から連絡するまでその家自体気が付いていないようだったので、地区間・近所同士でも連絡を取り合う事が大事だと感じた。				
30代	東海地震は、必ず来るという心構え。食料、水の備蓄。				
30代	落ち着いて対応すること。				
30代	自力で一週間～十日ぐらゐは生活出来る備蓄は必ず必要。				
30代	飲料水、食料品の確保				
40代	とにかく、家具の固定は必要と感じました。食器棚などで扉が開いていた物、扉が開いてしまった物は、全て食器類などが落下しました。本棚など高い場所に置いてあった物が落下しました。物を高く積み上げる事は危険であると痛感しました。				
40代	連絡体制の確認と、家具の固定、水の確保				
40代	やはり普段からの準備が一番大切だと思った。				
40代	偶然起きていたが、普通なら就寝時間であり、地震はいつ起こるかかわからない恐ろしさがあるので、普段から準備が必要だと感じた。				
40代	家具の転倒防止策及び電波繋がらなくなった場合の連絡方法の統一				

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市葵区	男性	40代	食器棚の整理整頓。本の整理整頓。家の片付け。
		40代	日頃の備え、家具備品の固定、物を積み上げない。大金をかけて高速道路をつくっても危険。
		40代	離れて暮らす家族の安否の確認で一般電話や携帯電話が非常にかかりにくい状況となる為、確実に連絡を取る手段を確保したいと考えた。
		40代	建物内の地震対策をあらためて考えさせられた。廊下の本棚など倒れないようにするなど。
		40代	火事にならぬよう火には気をつける。家具の固定・食器類の落下防止。
		40代	正確な情報の取得。デマに惑わされない事。
		40代	耐震補強
		40代	重いものを1階に下ろしたり処分したりして、発生時に建物にかかる負担を少しでも小さくしておくことが必要だと感じた。
		40代	落ち着いて行動すること
		50代	家を建てる時に地震対策を施しているの、やはり火事を出さないことが重要だと思った。また、避難地までの経路の安全性を確認した。
		50代	家具等はある程度対策をしているが、中の食器や書籍などが落下したりしたので、この対策を考えたい。
		50代	個々の自己責任による耐震対策
		50代	分譲マンションに住んでいます。近隣住民との連携がより必要だと思いました。
		50代	「本物」はこんなものではない。と確認した。
		50代	家族が第一であり、今回は早朝の為、全員家に居たので安心しましたが、これが昼間で家族がバラバラの時の対策を十分に家族で相談しなければいけないと感じています。
		50代	食料品、特に飲料水・生活水の備蓄が大切だと感じた。
		50代	家具の中のもの（食器ほか）の整理・整頓など
		50代	近所同士のコミュニケーションの大切さ、近所同士での地震当日、声かけや話が全くなかった
		50代	避難のための準備はとても大事
		60代	近所の助け合い
		60代	家の不用品を整理する。
		60代	電気がこなかったで、テレビ、ラジオの情報がなかった。固定電話が通じなかった。
		60代	食器棚の整備が必要
		60代	避難場所の確保、早い情報
		60代	状況の把握、震後の1次行動についての情報入手方法
		60代	家具転倒防止に一応の備えを取っていたので、被害はありませんでしたが、東海地震の揺れを考えるともう一段の備えが必要かと思いました。
		60代	様子を見る
		60代	防災訓練などを行っているが、いざその場面に遭遇しても何ら訓練の成果が現れてこない。町内会の活動がしっかりしていないのは問題である。自主防災会の活動をもっと機能させなければならぬと感じた。
		60代	東海地震は来るという意識を持ち続けること
		60代	行政が無料で建物の検査をしていただけたら良いと思います
		60代	防災器具の充実。避難方法の確立。
		60代	東海地震が言われて三十年余が経過、今防災意識が薄らいできていたので、ある意味では良い警告になった。常に防災意識をもち地震に対応できるようにすることが大切。
		60代	地震の規模、震源地、応急対策など、情報の的確な伝達。
	女性	20代	情報を得て、いつでも避難できるようにしておくこと
		20代	家具の固定
		20代	家族の寝室の家具は就寝中に地震があってもいいように補強、固定をしてあったのですが、避難経路となる廊下や階段周りの家具は固定していなくて迅速な避難ができないことに気づいたので早急に固定したいと思う。常に危機感を持って生活することが大切。
		20代	大きな家具は必要ないと思いました
		20代	非常袋の準備と、住んでいる地区が橋を渡らなければ市の中心部に出入れない場所なので、橋が倒壊した場合の対策が必要と感じました。
		20代	普段から地震に備えておき、いざというとき、被害を最小限に食い止める。
		20代	正確な情報
		20代	地域の人たちの結びつき（災害時協力出来る様な体制）。地震時の対応などの指導。
		20代	水、食料など災害に必要な物を再度チェックする。家族との連絡の取り方についての話し合い。家具の固定。
		20代	まずは家族を守る。小さい子供と荷物を持って避難するのは大変だけど、子どもの命だけは守る。
		20代	家族との連絡の取り方
		20代	とっさの事で何も出来ませんでした。地震が起きた際にどうするべきか真剣に考えなければならぬと痛感しました。
		20代	自分のみは自分で守ること。備えを行うこと。
		20代	家具や、雑貨などの落下を防ぐ。非難グッズを用意する。
20代	連絡網が回ってきたが、次の人に電話がなかなか通じず困った。壊れた物は特になかったが、テレビや冷蔵庫が移動してたので、固定しないと恐ろしいことになると思った。		
20代	食料や飲料水などのほかに、実際に避難した時の用品や衣類などもより補充が必要だと強く思った。地域でもどの程度用意してあるのか確認が必要だと思う。		
20代	地震対策(非常用の持ち物や家具の耐震など)をしようと思った		
20代	避難場所、経路の把握と家族や知人との連絡手段の取り決め		

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市葵区	女性	20代	被害に遭い、住宅が一部又は倒壊した方は瓦屋根がほとんどでした。住宅の瓦屋根は屋間なら通行人への凶器にもなるので撤去した方が良い。
		20代	自宅に備えが必要だと思った。
		20代	家族で日頃緊急時の対応について話し合うこと。避難経路や避難場所の確認や非常用食料品や飲料の備蓄をしっかりとしておくこと。
		20代	高さのある家具は置かない。家具の開き戸は開かないように固定。近隣の方々の家族構成の把握。一人暮らしの方は緊急連絡先。
		30代	自分のことは自分で守るしかないと感じた。いくら国や自治体が懸命に動いても限界があるので、自分達でできることはまず自らでやらないとダメだと再認識させられた。
		30代	就寝時間という事もあったけど、地震がここ最近なかったので、油断していた。あらためて、危機感をもっと持たないといけないと思った。
		30代	これ以上大きな地震が来てしまうと何も出来ないという話をしました。なので、これ以上しようがないように感じました。
		30代	家具家財の転倒防止策
		30代	近隣住民との日頃からの交流、電話やメールが常に通じること、棚の上に物を置かない、倒れそうなものは飾らない、地震に強い家作り、広報静岡の放送の聞き取りやすくして欲しい、避難の必要があれば放送して欲しい、
		30代	災害に備えて細かく役割など話し合っておく事
		30代	家具の固定や水・食料の備蓄など普段からの心がけと、発生時の冷静な判断での行動
		30代	連絡方法と食料等の備蓄。非常時袋の準備。
		30代	地震に対する個々の危機管理意識。
		30代	冷静さ
		30代	日ごろからの備えも必要ですが、とにかく事前に情報が欲しいと思いました。緊急地震速報が各家庭で得ることができたら、心構えもあり行動を起こす判断基準にもなります。揺れがどの程度なのか、外に非難する必要があるのか、屋内にいた方がいいのかを見極めるにも時間が掛かります。揺れている中、この程度なら歩いて大丈夫だと判断してから、家族の安否を確認しに部屋を移動しました。やはり事前に情報が得られれば、もっと早く判断・行動ができただろうと思います。
		30代	まず第一に個人の危機管理。家具の固定や水や防災グッズの準備、家族の連絡・避難についての統一した知識など。
		30代	各家庭での非常食、水の備蓄。親族、家族間の安否確認の方法は、電話よりメールのほうが使えるのでアドレスの再確認（できれば携帯電話のアドレス）。また、連絡が重複しないように誰が誰に連絡するかを話し合うこと。
		30代	いままで無防備だったので、非常持ち出し袋など備えが必要だと実感した。
		30代	非常持ち出し袋や、避難所の明確な確認
		30代	東海地震の想定地域なのに、そういう意識が皆薄かった。自宅よりも職場での被害の方が大きく、建物の耐震性についての調査と、補強工事が必要だと痛感した。また、物の置き場所、家具等の固定の必要性を実感した。職場では、パソコン等が落下し、壁に複数のひびが入った。建物の耐震性は、非常に重要だと思う。
		30代	防災訓練
		30代	コミュニケーション
		30代	あわてず、まず子供を安全なところへ非難させる。おいていくことがないようにすること。（阪神淡路の震災のとき子供を置いて自分だけ逃げて信頼関係をなくしたということがあった。）とりあえず室内の安全な場所へ避難すること（たんすなど倒れてこないところへ逃げること）逃げ道を確保すること。その後家族の安否確認をし、行政の指示を室内の安全な場所で待つことが大切と感じた。
		30代	慌てないこと。
		30代	家の中の安全点検を改めてすること。あわてないで落ち着いて行動すること。
		30代	今回の地震で震度 6 弱は記録したものの、近所の建物にコレといった被害が無かったのが不幸中の幸いだった。コレよりも大きな地震が来ると思うと、もっと天災に対して真剣に対処した方がい様な気がしました。
		30代	小さいころから東海大地震が来るといわれて育ってきたが、まったく来る気配がないので、少し油断があったかなと思う。食料、水の備蓄など今後はきちんと対処したいと思った。
		30代	家を建てるときに地震想定のため、基礎をシュミレーションするよりも一段深く掘り下げるよう言われた。自宅の建物自体も家具等の被害もなかったが、友人の家のタンスは全部飛び出し、食器棚もお皿が扉のガラスに当たってガラスのほう割れてしまったらしい。揺れ方によってだいぶ違いがある地震だった。家具の固定はやらなければ。
		30代	いざ地震が起こると気が動転してしまって頭が真っ白になってしまったので、自分用の対策マニュアルを作りたいと思った。
		30代	揺れが落ち着くまではじっとする。その間にけがなどをしないように家具転倒防止などの対策をしておく。その後のことはまだ経験していないので分かりません。
30代	市内で流れる市役所からの「広報静岡」の放送が、マンションが建つたびにどんどん聞こえなくなってきている。今回も地震の時流れていたが、何を言っていたのか解らなかった。各家庭に、専用のラジオを使った放送を、榛原のほうではもうやっていますので同じ事を。あと会社も普段から緊急の電話連絡網があるがまったく役にたたなかった。メールを使った一斉連絡だったら従業員も早めの出勤したりすると思う。		

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答		
静岡市葵区	女性	30代	家具の固定は大切。布団やベッドの周りは物を置かない。割れ物が多い食器棚も開かないように工夫した方がよい。うちは食器棚が引き戸だからか被害はなかった。(食器棚被害は揺れる方向にもよるみたいでした)地震が来たらどうするか考えておくのは重要。普段から理解しておけばなんとかなる。非常時には動転して考えられないと思う。子供の頃からやらされていた防災訓練は役に立ったと思う。(慌てないとか、何をしたらいいとか)		
		30代	町内で避難訓練を何時もやっているのに全然役に立たなかった。もっと現実にあった訓練が必要だった。		
		40代	的確な情報が欲しい		
		40代	避難場所の確認、備え。		
		40代	備えあれば憂いなし。この言葉につきる。家具の固定はもちろん、地震が起きる前にできることはとにかくやっておいたほうがいいと痛感した。固定をしても、過信は禁物。就寝場所にはたんすを置かない。棚も動かないようにしてあっても、今回のように縦ゆれのあと横揺れであの振動以上の地震がきたらひとたまりもない。本当に不安で昨日は寝るのが怖かった。でも、テレビなども動かないようにジェルなどで固定すると本当に動かない。そういったひとつひとつの積み重ねが非常に重要だと思った。		
		40代	基本的な備えすら静岡に住んでいながらほとんどしていなかったの、真剣に対策を考えないといけないと思った。		
		40代	家具の固定は絶対に必要!		
		40代	災害時の備え		
		40代	あわてず、落ち着いて行動すること		
		40代	住宅の耐震性。事前の防災対策の重要性。		
		40代	今回は家族が一緒の時間の為安心でしたが、ばらばらの時の集合場所を再確認しました。家具は止めてあっても小物が落ちてきたのでとにかくまず身を守る事が一番と感じました。		
		40代	家具の固定。余分なものを置かない。食料・水の備蓄。		
		40代	家具の固定、非常時に持ち出すものの点検が大事だと思いました。		
		50代	広報静岡のアナウンスが音が小さくて、屋外に出て聞き取れなかった。聞けないと意味ないので、もっと大きな音で放送して欲しい。安否確認の連絡網が必要。		
		50代	地盤が良い地域なのか、大きなゆれだったわりにはほとんど被害が無く、すぐに日常生活に戻ってしまいましたが、東海地震はこの二百倍もの力が加わると聞き、もう少し防災意識を持って家具の固定なども見直さなくてはと思いました。来ると言われて久しい東海地震への意識が、今回の地震で再認識されてかえって良かったのではと思いました。		
		50代	家具は固定し、落下して危ないものはしまう。ある程度の飲料や食糧は確保。迅速な地域被害情報の伝達が重要。		
		50代	家の補強		
		50代	非常食などの点検、充実。家族で避難場所などの話し合い。		
		50代	高齢化が進む町内での相互援助。		
		60代	薄型テレビの固定。食器のしまい方。		
		60代	家庭での割れ物の管理。額縁など怪我の元になる物の扱い。危険と思われる場所が少し、確認出来たのでこれをきっかけに考えました。		
		60代	家具の固定		
		60代	1週間程度の食糧、水は常に確保して置く。家具の固定は絶対にやっておくべき。高い所には物をのせない。今回の地震は運よく早朝だったので火を使っていた家庭が少なかったの、火事が無かったのが幸い。まずグラッと来たら一番に火を消す。		
		静岡市駿河区	男性	20代	地震後の近所の連携。建物の確実な耐震。
				20代	常に地震が来るかも知れないという意識
				20代	慌てないで、神様に祈ること。全てを神様が司っているから、慌ててもしょうがない。死ぬ運命に定められた人は、何をしても死ぬ。本一札で死ぬ人もいれば、瓦礫に埋まっても死なない人がいる。死ねば、天国に行けるが、死ななければ、また働いて家を建て直さなければいけない。だから全てを神様に委ねることが一番。
				20代	いち早く情報をキャッチする事
				20代	お金があれば防災対策が出来るが、費用が無いので出来ない。幾つかの金具とかを無償で県がくれたりすれば、役に立つのではと思った。
				20代	家具の転倒や落下を十分に防ぐこと
				30代	近所づきあい
30代	正確な情報収集				
30代	万が一の準備、防災グッズを用意しておくことが必要と感じた。				
30代	食料や水、ライフラインの整備				
30代	備え				
30代	散乱した家財道具などで怪我をしないよう、日頃からの整理整頓が大事だと思った。				
30代	日ごろから防災に対する高い意識を持っているので、それを継続するべきであると思った。				
30代	水、食糧の備蓄				
30代	地震で自宅が倒壊した場合、津波の被害に遭った場合、困ると思った。自宅高齢者との認識の違いはどうしようもないんだなと思った。				
30代	低所得者や地震警戒地域に、国や行政が無料で建物や家具などの耐震補強をする政策や補助金を出すべきだと思う。				

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市駿河区	男性	30代	両親（共に70歳前半）が近くに住んでいるので比較的安心感をもっていましたが、近くでも連絡が取れるか、その近い場所まで行けるかなど心配になった。再度、家族・両親含めて防災用品の備蓄と避難場所、安否確認方法の確認をすべきだと考えました。近所の方も年配の方が多いので不安だという声を聞きました。行政にもよりご協力をいただければ心強いと思いました。
		30代	食器棚などの扉の開閉防止対策。就寝時側には靴の用意。防災グッズ、水・食糧の備蓄は何箇所かに分散配置。災害時の携帯・固定電話の通信回線の不通の解消または災害ダイヤル番号の情報普及。
		30代	報道では、東海地震は今回の200倍と聞いたので、自分の家庭の分はできるだけ対策をしたいと思った。家具を固定したり滑り止めのパッドをつけたりしていたのが被害を少なくさせたと思うのでこれからも強化したい。貸家でも家具の固定などの援助をしてもらえるといいと思う。
		30代	職場に行かなくてはならなかったので残す家族のことが心配。仕事をやめて家業を継いだほうがいいのか、と思う。
		40代	地震に対する意識の問題
		40代	自主防衛
		40代	地域の地震情報の早急な周知。
		40代	家具の固定
		40代	防災意識の向上と実際に行うこと
		40代	持ち出し品の準備。地震情報の早期連絡。
		40代	近隣住民の相互情報交換
		40代	各自の危機感
		40代	子供のころから東海地震のことが言われていたが、30年という年月の中でどこか他人事になっていたような気がする。いくつかの他の場所での震度7という地震があっても、東海地震が起きる、来るかもしれないという現実感が薄れていた。やはり地域、会社、行政皆が、一人一人、準備、対策を講じること、心構えをもつことが一番重要とつくづく感じました。
		40代	家具の固定をしてあったことで、物の散乱が少なく済んだので、物が飛ばないようにさらに工夫しようと思いました。防災意識を高めるために、目につくところに情報紙を掲示しておくべきだと思います。
		40代	落ち着いて行動すること
		50代	大切なものをすぐに持ち出せるようにまとめておく
		50代	自主対策
		50代	落ち着いて行動すること
		50代	東海地震の指定地域なので日頃より、防災対策を行っており、家も地震に強い家に新築し、家具の固定等を行っていたので震度6程度なら充分対策されていると思ったが、震度8クラスの地震に備えるべく、本棚の落下防止対策等を実施する予定です。毎日が対策の積み重ね、さらに努力します。
		50代	落ち着いて行動をする
		50代	家具の耐震補強はできるだけ多くのものにしておかなければ心配だと思った
		50代	東名は古く、橋などは東海地震の対策で補強しているのは知っていたが、今回崩壊した法面などの補強を今後、早急に調査し対策をこうずるべきだと思う。
		50代	安全な非難場所
		60代	水、食料品の確保
		60代	このときの免振住宅の揺れ具合を知りたい
		60代	落ち着いて行動すること。
		60代	訓練
		60代	怪我をしたひとは、固定していなかったために災難にあわれたみたいでしたが、我が家では大きなものの固定はしていたので大丈夫だったが、このくらいのものはしなくても思っていたのが落下したりしたので、上部においてあるものもそれなりの対策をしなくてはと思った。
		60代	落ち着くこと
		60代	隣近所、自治会等との情報の共有化が大切だと思った。
		60代	自分の安全確保が第一優先。二次災害（出火）防止。地域自主防災組織の真に活動できるよう強化することと隣近所の連携。
		60代	【広報静岡】の放送も必要だが、あれだけの揺れ(震度6弱)で揺れと同時にサイレンが、警報機が鳴る、システムが必要ではないか。地震は瞬時です。振動が始まったら自動的にサイレン、警報音が必要だと痛感した。震度3若しくは4位以上で知らせるシステムが必要だと思った。放送はその後でも十分対応できるので。
		女性	20代
20代	非常食と水の準備		
20代	それぞれの家族、親族の安否が電話ではとりづらかったので、ほかの確認方法の確立をしなければいけないと思った。		
20代	小さい頃から大きな東海地震というのがくる、とどんなに言われていてもいざとなると恐怖で固まってしまった。もっと落ち着かないことには何もできないと思ったし、アパート住まいで近所の状況もあまりよく分かってないので、普段から近所のことは知っておくべきと感じた。家具の固定や非難バッグの大切さも身にしみました。		
20代	慌てないこと、非常食などの準備が必要だと思った。		
20代	普段からの備えやが必要。		
20代	日頃から地震への意識を高めていなければならないと感じた。飲料水や食料など、最低限の貯蓄をしておかなければならないと感じた。		
20代	日々の訓練が大切だと思ったのと同時に、地域での助け合いが重要だと感じた。		

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市駿河区	女性	20代	非常食など、少しは用意しておくことが大切だと思った。(しかし、津波が来る場所なので、用意しても流されてしまうと思うので、あまり意味ないかなとも思う…)
		20代	家具の固定、食料品の確保
		20代	タンスや食器棚は倒れることはなかったけど、東海地震は今回の何十倍と聞いて対策をしっかりしようと思っただけだった。
		20代	いざという時にまず第一に何をすべきか決めておくべきだと思った。
		30代	事前の万全の準備
		30代	これだけ東海地震の情報がいろいろあふれているのに、家具などを固定していない家庭などはどうかしていると思う。テレビが落下して骨折した男の子の例など、明らかに親の配慮のなさから来た人災。「東海地震がきたらどんな対策も無駄、死ぬしかない」という意味のことを平気で言う悪質コメンテーター・評論家の類を徹底的に叩くべき。さまざまな地震対策を行ったり、日ごろから備えたりすることで、負傷率や被害は確実に抑えられるということを、今回の地震をもとにもっと周知させる必要がある。今回の地震は、外国で起きたなら多数の死傷者が出ていた震度であって、長年の地震対策によって静岡ではこの程度ですんだという事実を広く示すべきだと思う。それによって、防災対策をしている人たちを臆病者とみなすのではなく、ごく普通にみんなが行う雰囲気を作られやすいはずだと思う。
		30代	市街地から15分ほど離れた地域に住んでいますが、全く地域からの活動を感じる事が出来ませんでした。東海地震が起きた時に、取り残されるのでは・・・という不安が凄く募りました。
		30代	地域の住民同士の結びつきが大切だと思った。特に1人暮らしなのでそれは重要。
		30代	備蓄がまだまだ出来ていないと思った。
		30代	安全確保のための準備
		30代	毎月幼稚園で訓練を行っている長男が、とっさに防災頭巾をかぶったのを見て、やはり日々の訓練・教えがとても大切なのだと痛感しました。
		30代	これまでも地震はいつ起きてもおかしくないという意識を持っていたが、これからも地震に対する意識は持ち続けるべきだと思った。
		30代	住んでいる他の住人の方が無事であるか？避難が必要な場合には、不特定多数で行動する。
		30代	家具の固定。就寝場所にもものを置かない(落下を防ぐ)。玄関回りにもものを置かない(ものが散乱して出れなかった)。
		30代	いつ地震が起きてもいい覚悟、準備。
		30代	家具等が転倒しないようにすること。食料などの備蓄。ライフラインの損害状況の把握。
		30代	家の耐震補強はものすごくしたくなった
		30代	家具の固定や備蓄食料や持ち出し袋といった実際の面で備えは出来ていたが、家族との連絡をどう取り合うか、親類や知人の安否をどう確かめるか、といった精神的に大きなポイントになる部分に課題が残った。きちんと話し合っ取り決めておくべきだと感じた。
		30代	さらなる家具等の転倒防止、ガラス飛散防止。非常食や水の常備。
		30代	個々に地震に対する対策を強化する。地震の詳しい情報が、テレビやラジオ以外ですぐにわかるようにしてほしい。
		30代	近所付き合い
		30代	一時的に水道がとまったりしたので、水の確保が必要だと感じました。
		30代	逃げる避難場所の確認と食料&飲料の確保
		30代	家具の固定(釘うちは出来ない為、防災グッズで転倒予防)をしていましたが、地震はいつか来る程度と考えた為、断水で大変困りました。実際の東海沖地震は今回の地震をはるかに超える災害になるので、これまでなんとなく決めていた非難場所、落ち合い場所、水の確保等色々家族で話し合いました。
		30代	子供の頃から年に4~5回の訓練に慣れてしまっていて、本来の地震の怖さを忘れがちになることに危険を感じた。改めて、対策や準備をしたいと思う。
		40代	マンションなので、隣の人でさえ交流がない。地域内でのつながりが必要だと思った。
		40代	情報確認。家族の連絡。家の中の物の配置。
		40代	いざという時には、本当に何も出来なかった。それをふまえ、どこにいても地震がきたらどう行動するかという意識づけが必要であると感じた。
		40代	家族の団結
		40代	家具の固定が必要。一人暮らしなので不安を感じた。近所づきあいがあつたほうが安心。こういう時に声を掛け合えたらいいなと思った。
		40代	室内に家具が少なめでよかったと思った。家具や生活用品は必要以上持たず、動線を大きく取れる様に、日々整理整頓するべき。
		40代	高いところになるべくものを置かない(特に重いもの)。家具の固定。靴を履いている近くに用意する。
		40代	何年も前から、東海地震がくると言われていた為、多少の準備はしてあったが、昨年の夏から食糧や水の確認をしていませんでした。こまめに準備や確認しておくべきだと思いました。ペットを飼っているの、避難所にはいけないし、準備や対策をもっと考えなくてははいけないと思いました。
40代	近隣の人達との繋がり		
50代	家具の固定、直ぐに非難できる動きやすいパジャマ、枕元にスリッパか運動靴、飲料水と乾パンなど保存食の備蓄、余裕があれば住まいの耐震(でも、これは本当に余裕が無いのもっと行政の方で補助金を増やして欲しい)		
50代	隣近所との助け合い		

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市駿河区	女性	50代	落ち着いてまず身を守り、正確な情報を得る事。家族や知人を守る為に助け合う事。
		50代	荷物を置いたりしないで、安全な場所を確保できるようにする。家具以外でも固定できるものは固定して、飛び出さないようにする。
		50代	正しい報道内容。食器棚の固定。家族との連絡の取り方。
		60代	大切なものをすぐに持ち出せるようにまとめておくこと
		60代	いつ地震が来ても良い様に、常日頃から防災対策を心がける事。家具の転倒防止や固定、食料品の備蓄、緊急時の連絡や避難先等の事前確認等、出来る範囲で備えが大事だと思った。
		60代	落ち着いて行動すること。防災グッズの整備。
		60代	防災訓練のおかげで慌てずに済んだ
		60代	常日頃から近隣と協力しておくこと。災害を念頭に備えをしておくこと。
静岡市清水区	男性	20代	日頃の備えや、建物の耐震工事等の必要性を感じた。
		20代	非常食
		20代	昔から東海地震の事を言われ続けてきたが、もう何年も大きな地震は身近でおきていないので、備えは形だけになってしまっていると思う。日常での意識や、あらゆる状況で地震が起きたら何をすべきか、を知るべきだと感じた。
		20代	家具の固定や高い場所への物置くの控えるなど、身近な所への最低限の予防が必要だと感じました。
		20代	準備
		30代	家庭では家具の倒壊を防ぐことが大切と感じました。地域では呼びかけが大事だと思います。
		30代	熱帯魚の水槽の水がこぼれて困った。こればかりは対策がないのでどうしようか困っている。
		30代	水の大切さ。
		30代	家具の固定。寝ている場所の近くに物をなるべく置かない。
		30代	家族間の連絡や携帯電話の機種変更や新規購入を考えました。古い機種での緊急地震速報が配信されないのは危険だと思いました。携帯電話の不通も心理的に不安になったし、せめて家族間ぐらいは常に繋がるような回線整備ってできないのかと思いました。
		30代	団結力
		30代	詳細な情報が、行政からは余りなかったので、その点をもっと充実してほしい。
		30代	非常時に持ち出せるものの準備、食糧や水の確保、寝室などへ履物を準備して逃げるができるようにする、家族が離れた時の連絡方法や落ち合う場所決めの徹底、津波から逃れるための避難場所の確認、家具や建物の補強など。落ち着いて行動できる心の準備。
		30代	安否確認情報流通
		30代	断水などの情報がくるのが遅い
		30代	今回の地震が想定されていた『東海地震』ではなかったが、地震に対する防災意識の高さが被害を最小にしたと思う。我々は30年以上前に『東海地震』を警戒し、常に訓練もしてきた。無意識に防災意識が高められていたと思う。『東海地震』に対する予知情報に対して不安に思う結果となった。今回の地震に関し、何ら予知情報が発せられなかったことは残念だし、信用・信頼が得られない。東海地震の想定発生地域内の震源地であったにも拘らず、前兆を捉えることができなかったのは残念だし、これが今の科学の限界だったのだと思った。
		40代	備え。
		40代	テレビや家具などの転倒防止はしなきゃならないと思いました。家族との連絡方法も考える必要もあると思います。
		40代	心構えも含め、準備が非常に大切であると切に思いました。
		40代	地震の後の情報収集。家族みんなの状況。家族みんながばらばらの場所にいた場合の集合する方法。
		40代	家具の固定。懐中電灯、水等の準備。
		40代	家具の固定
		40代	日頃からの日用品の備えや家具の固定は必要と思った
		40代	非難の準備
		40代	落ち着いて対応すること
		50代	今までに感じたことがない揺れにびっくりしましたが、東海地震は100倍以上の強さだと聞いて不安になりました。地震が起きたときにまず倒れるものを置かない工夫と高いところに重いものや割れるものを置かないようにする。東海地震では、きっと物が飛んでくるのだと思うので頭だけでなく体ごと入れる場所を作っておくようにすることかな？後はそのときの運ですね！！（却って諦めがつきました）
		50代	正確な情報の把握
		50代	緊急連絡網の整備
		50代	日頃から意識しておかなければいけないということ。
		50代	食器棚の中の置き方が重要と感じた。鑑賞魚の水が波打ち床を濡らした。飼うのを止めたい。
		50代	家族との連絡
		50代	やはり家具の固定化と、持ち出し品の準備
		50代	食器棚のロック。
		50代	自信に強い建物、水、食料品等の供給体制等がしっかりしていれば、生き延びることが可能と思った。
		50代	とりあえず食料の備蓄に対して組み換え、買い増しをしておこうと思う。
		50代	落ち着いて行動すること
		60代	揺れてる最中、何も行動できなかった。何をすべきか？考えておく必要があると感じた。
		60代	揺れが収まるまでは行動を起こすべきでない。ガスの元栓など火事の心配を無くす。
		60代	近所の助け合い。
		60代	連携

VI. 文字回答

居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市清水区	男性	60代	地域ぐるみでの備えが必要。
		60代	地域の連絡
		60代	東海地震との関係で、事前に地震に対する準備をしていることから、突然の大きな自信であったが、少しは安心感を持って対応できた。日頃から、このような意識を持ち続けることの大切さを実感した。
		60代	自治会の中で連絡網の電話が通じ無いのでそれを想定したマニュアルを作る必要がある
		60代	周りの人たちとの連携。
	女性	20代	とにかく冷静になること。取り乱してしまうと普段できることもできなくなってしまう。
		20代	非難用の持ち物を普段からきちんと用意しておくことが大事だと思った
		20代	食料
		20代	家具等の転倒・落下防止は重要だと感じた。対策をしていたタンス等は動かなかったが、対策をしていなかったものは倒れはしなかったが大きく動いてしまっていた。東海地震の揺れはこんなものではないと言っていたので、万全の対策が必要だと思った。
		20代	今まで当たり前のように聞いていた地震対策についてまだ余裕をもって接していたが、天災は突然やって来るのだという当たり前の事に気付かされた。改築作業がひと段落したら、早速家具の固定等の対策をしたいと思う。
		20代	地震が起きたとき自分や家族がどのような行動をとればよいのか事前に確認しておく一家具を固定する。地震が起きたとき地域でどのように行動をとればよいのか定期的に住民たちが確認できる機会をもつ。
		20代	食料
		20代	避難所生活になった時が不安
		20代	数日は自活できるようにしておくこと。
		20代	地震が発生した時の為の準備。
		20代	それまで、全然地震が来ると言う意識がなかったため、経済貧困理由で防災グッズは用意してなかったし、防災訓練も参加していなかったため、自分がまったく動けませんでした。今回の地震で、もっと家族と真剣に地震発生後の事を話さなくてははいけないと思いました。
		20代	地震直後から携帯電話が通じなくなったので、回線が混まないようにしてほしい。
		20代	迅速かつ的確な指示・情報。
		20代	物を固定しておいたりすると少しは安全なんだと思った。
		20代	まったく被害がなかったため危機感は少なかったため、もう少し危機感を持って備えなければいけない。
		30代	最低限の食料や水を各家庭で用意しておくべきだと思った。道路などの耐震補強が必要だと思う。建物の耐震診断をする必要があると思う。
		30代	高さのある家具は置かない。高いところに重い物は置かない。
		30代	建物の耐震がなされていることが多いせい、物がほとんど落下しなかったのであまり大地震が来たという感覚はない。しかし地割れ、地滑りなど、どうしようもない状況もあり得るので、第二東名を早急に作って欲しいと思った。家庭は今まで通りやり、会社で地震が来ても困らないように衣類、タオルなど宿泊セットをロッカーに準備しようと思った。
		30代	日頃から防災セットの支度をするべきだと思った
		30代	東海地震は来る来ると言われ続けていますが、非難用具等もまとめたりしてきましたが、何年か来ないと、賞味期限が切れ始めてくるころには、私達の意識も薄れてきました。台風も怖いですが、数日前からの状況が把握でき、備えることが出来ますから、不安も少なく済みますが、地震は本当に突然で、怖かった。特に、東海地震はずっとメディアでも多く取り上げられるため、不安感はとても大きいです。あの揺れに対し、体を動かす事は、とても考えられない。地震車のような横揺れでした。
		30代	万が一を考えた想定はしておくべきだと思った
		30代	日頃から防災袋、家具の固定など、できる限りの事をしておく。ご近所とのコミュニケーション。
		30代	小さい頃から学校で避難訓練を体験していたが、学校での訓練は「避難」をすることに重点をおいている。しかし、地震を人的に起こす車などを使って、学校で「地震の怖さ」そして、「地震についての備え」を、もっと教えてほしかったと思う。学校で行っていた「避難訓練」は、実際にはあまり役に立たなかったように思う。今回、私は、地震が揺れている時にはまったく動けなかった。地震の「震度」を体験をしていないため、今回の規模がどのくらいなのかは体でわからなかった。「震度」は机上で語らず、小さいころから体験すると「地震の恐怖」が分かると思う。そこで、地震についての備え（家具を固定する・飛散防止フィルムの効果・非常袋の中身…など）をしっかりと学んでほしいと思う。ただ、阪神大震災があったので、かなり教訓にはなっていると思いますが、実際にそれをふまえて地震についての正しい教えられているのかどうかは、わかりませんが…。今回の地震の規模は、「東海地震の180分の1」といわれているようなら、特に阪神との比較や、備えについて、今一度、地震について各番組で特集を組んで地震の怖さを再確認したほうがよいと思う。
		30代	テレビをしっかりと固定する
		30代	普段から地震に対する備えは大切だと思った。
		30代	まずは自分たちの身が少しでも守れるような環境にすること。ライフラインが止まった時のための用意をしておくこと。
		30代	家が崩壊などの被害にあった場合どうすればいいか、家族で話をしておく事が必要だと感じました。
30代	賃貸物件に住んでいるので回りに何かあっても助けが求められない。自分で何とかできるように支度をしなければならぬ。傷をつけない程度に家具の固定をしなければならぬ。		

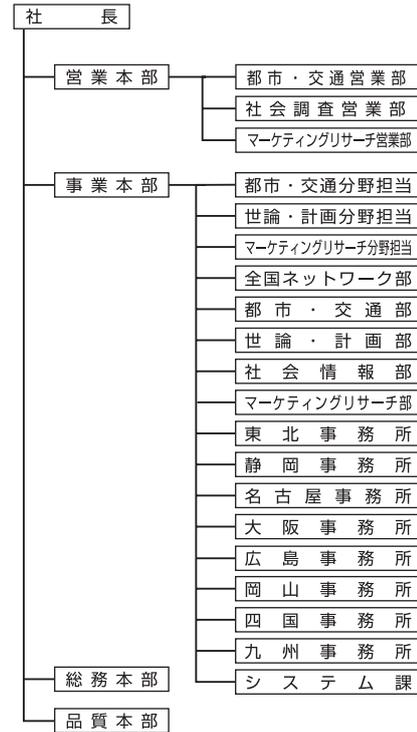
居住地域	性別	年代	文字回答
静岡市清水区	女性	30代	特別、非常用の食料など用意していませんでした。いつ来るかわからないことはわかっているのですが、実際に地震にあってみて、地震は起きるんだということが実感できました。日々の地震への関心、準備、訓練など、意識をもっと高めないといけないと思いました。
		30代	他人事ではないので、真剣に地震について考えようと思いました。
		30代	連絡体制を決めていないと、安否確認も出来ないと感じた。
		30代	話し合いや決め事、非常用の準備など事前におかない！と思った。
		30代	ブロック塀や、倒れやすいものは補修しておく、食器棚にも地震対策をする。家族と地震についてもっといろいろと話し合っ、連絡方法も考える。
		30代	食料の備蓄や家の耐震工事。地震後は医療の対策や心身のケア、仮設住宅の対策。
		30代	いかに正確な情報を手に入れられるかどうか
		30代	地下断層の提示
		40代	家具の固定を強化すること。物が倒れたり落ちてきたりしないよう、物を減らす処分する必要性を感じた。飲料水の確保が少なかったため、容器を増やすことにした。持ち出し袋を仕舞っておかず、寝室または玄関に置く必要を感じた。安全な場所に移動することが精一杯。ガスの元栓締め、戸や窓の開閉などを行うゆとりはなくなっていた。初期行動を部屋に貼り出しておくことにした。
		40代	話し合いと準備
		40代	一人暮らしなので、実家の家族との連絡方法を決めておく必要を感じた。不安定な置き方をしているものを置き直そうと思った。職場までの自転車もしくは徒歩での通勤ルートを確認しておこうと思った。非常持ち出し袋を作ろうと思う。
		40代	考え、動くこと。
		40代	常に家族の居場所を確認出来るよう努め、家の中でも逃げ道を塞がないようにする。
		40代	東海地震でも生き残ったとしたら、二次災害を避け救援を待つ間の過ごし方に備えた準備をしておくことは大切だ。
		40代	とっさの地震で動揺してしまい、まず先に何をすべきかということを考える余裕もなかったのですが、今回の地震で火の元の確認、家族や自分自身の身を守るためにどうすべきか改めて学びました。また、万が一、家族がバラバラになった後の事や地震が起きたときの常備品を今一度チェックして枕元に置くなど一つ一つの事に慎重に考えなくてはいけないと感じました。いつ地震が起きてもすぐに何をすべきかの判断ができるように常に日々注意をしていきたいと思っています。
		40代	避難訓練の徹底。
		40代	備え・家族での話し合い
		50代	水、食料の確保。家具の転倒防止。棚の上や、中の整理。出入口の確保。近所との連携。
		50代	お互いの安否がわかるように連絡が取れる場所を特定する
		50代	正確な情報収集と冷静な判断。いつも大規模地震が起こることを念頭に置き構えをもって日常生活をすることが大切だと思った。
		50代	睡眠中のことでビックリしました。揺れがとても長く感じました。やはり近所の連携が大切で、お互いに協力しあう気持ちが重要だと思います。我が家は、家の中は家具を固定してあった為か、無事でしたが、屋根の瓦がずり落ちました。向かいの方が TEL で知らせてくれました。朝になって早速、瓦屋さんに連絡しましたが、何十件もの依頼があつて順番待ちの状態です。大雨が降らないことを願っているところです。
		50代	家の建てかえの必要性を感じた。
		50代	ガラス等の飛散防止、テレビ等の重たいものに対する転倒防止。情報の正確さ、迅速さ。
		50代	家具等の固定。食料・飲料水の用意。家族との連絡方法。
		60代	正しい情報の伝達。自主防災組織の活用。ひとり暮らし高齢者への対策の徹底。
		60代	連絡・早急な情報公開
		60代	建物の強度

サーベイリサーチセンターの業務案内

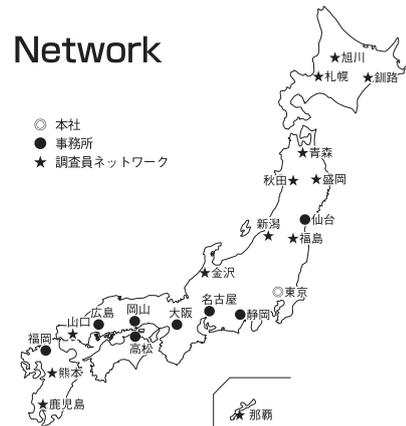
会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター
 設立 昭和50年2月
 資本 6,000万円
 年商 53億円（平成20年度）
 代表者 代表取締役 藤澤士朗
 社員数 190名 契約社員数 175名 合計 365名
 調査員数 約1,000人
 顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）
 取引銀行 三井住友銀行
 百十四銀行
 みずほ銀行
 三菱東京UFJ銀行
 商工組合中央金庫
 所属団体 (財)日本世論調査協会
 (社)日本マーケティング・リサーチ協会
 (社)日本マーケティング協会
 (社)交通工学研究会
 日本災害情報学会
 ESOMAR（ヨーロッパ世論・市場調査協会）他

組織図



Network



沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立
 昭和51年6月 大阪事務所開設
 昭和54年1月 静岡事務所開設
 昭和61年9月 名古屋事務所開設
 昭和63年4月 本社社屋竣工
 平成2年4月 東北事務所開設
 平成4年1月 広島事務所開設
 平成5年6月 資本金を4,000万円に増資
 平成9年3月 本社社屋増築
 平成9年4月 九州事務所開設
 平成10年4月 岡山事務所開設
 平成12年7月 資本金を6,000万円に増資
 平成15年4月 四国事務所開設

取得認証・登録資格

ISO9001 (JMAQA-676)
 プライバシーマーク (12390008 (05))
 建設コンサルタント (道路部門 建18第7120号)



■SRCは基本を大切にしています。

- 基本に忠実なデータ収集の管理・運営
- 経験豊富なスタッフで実施
- 迅速で制度の高い情報処理
- 高度な技術の開発
- 豊富なブレーン
- 機密保持と個人情報保護

● 駿河湾を震源とする地震に関する調査

平成 21 年 8 月 15 日 (朝刊)



初の東海地震観測情報 被災地住民8割 「内容知らない」

11日に発生した駿河湾を震源とする地震の後、気象庁が初めて出した「東海地震観測情報」など3段階の関連情報について、静岡県内の被災地の住民の8割が、情報が示す危険度などを理解していない

ことが、民間の調査会社の調べで明らかになった。調査は、サーベイリサーチセンター(本社・東京都)が実施。震度6弱を記録した焼津市など4市とも強い揺れがあった静岡市の5市の住民にインターネットを通じて行った。692人から回答があった。「東海地震観測情報」は、東海地震との関連がたまたにわからない場合に出る情報で、今回初めて発表された。前兆現象の可能性が高まると「注意情報」発生の可能性が出た場合の「予知情報(警戒宣言)」と緊迫度を増す。調査では、いずれの情報についても、内容まで知っていると答えたのは約3割で、約半数は「言葉は知っているが

内容まで知らない」、約3割が「言葉も内容も知らない」と答えた。監修にあたった田中淳・東大総合防災情報研究センター長は、「観測情報が出たらどうするか、注意情報になったら何をすればいいのか。具体的な行動と結びつけながら住民に理解してもらうことが大切だ」と話している。

平成 21 年 9 月 1 日 (夕刊)

携帯に地震速報標準化

大手3社 精度・認知度に難

地震の大きな揺れが来る前に知らせる緊急地震速報が秋から予定されている。その携帯への普及にもスピードをあげたい。だが、昨秋は8割足らずの月に観測が発生した。一方、予知の体制が唯一整っている東海地震は、8月に初めて発表されたが、十分な情報を提供できていない。住民は観測された地震の被害を減らすには、速報の精度向上や情報の周知徹底が課題だ。

(神戸市、大久保)

緊急地震速報は有効だったか?

速報を出した全地域で、速報後に揺れが来た

1回	5	4	4
----	---	---	---

一部地域を除き、速報は出たが、実際の揺れの前に速報が来た

(09年8月までの14回で気象庁が検証)

8月25日朝、関東地方で強い揺れをテレビで確認した。しかし結局、体感する揺れは弱く感じられた。気象庁は、業者が誤ったプログラムで緊急地震速報を誤って発信したと説明し、謝罪した。

緊急地震速報は、震度6弱以上の大きな揺れが想定される地域に向けて気象庁が出す。07年10月から運用を開始し、これまで14回出た。

も大半の新機種に搭載されている。この秋にはソフトバンクが運用を始める。大手3社とも利用料は無料だが、一部、8月11日に静岡県内で6弱の揺れが観測された後に気象庁が発表したのが、東海地震観測情報だ。切迫度がわかるよう、4桁の気象庁が情報の出し方を見直した。07年12月から始めたNTTドコモが先ず、新機種に高まれば、第3段階の「注意情報」最終段階の「警戒宣言(警戒宣言)」へを進む。しかし、調査会社「サーベ



携帯電話に届いた緊急地震速報

東海地震観測情報の認知度は?

言葉は知っているが内容は知らない

内容まで知っている	言葉も内容も知らない
観測情報・20.5%	51.2
注意情報・16.5%	51.0
予知情報(警戒宣言)・22.0%	52.9
	25.1

(サーベイリサーチセンター調べ)

イリサーチセンター」が被災地で行った緊急調査では、そ

れの情報の意味合いを知っていたのは、割と多かった。しかし、静岡大防災総合センターの牛山善行准教授(災害情報学)は「震源の、自分がいる場所は揺れに動揺されるのか、津波は来るのか」といったハード(危険度)情報。それが徹底して、緊急地震速報や観測情報の手前に出る情報が有効になると指摘する。

平成 21 年 9 月 14 日 (夕刊)



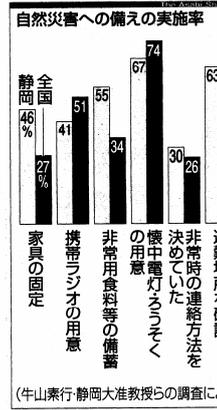
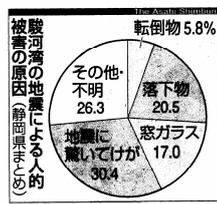
「家具固定」半数満たず

静岡 先月の地震 「慌てて転倒」最多

駿河湾を震源とする8月の地震で、静岡県では、ものが倒れたり落ちたりしてけがをした人よりも、揺れに驚いた人が多かったことが県の調べでわかった。東海地震への備えで「防災先進県」と称される静岡だが、残された課題はまだ多い。

地震は、8月1日のまた多くの人が寝ている午前5時過ぎに発生。崩れた本などに埋まり、1人が窒息死し、310人がけがをした。

県がけがの原因を分析した結果、最も多かったのは地震に驚いて転倒したケースで30.4%。次いで、落下物(20.5%)、倒れた窓ガラス(17.0%)、揺れに驚いた(17.0%)、転倒した(5.8%)。



静岡大学の牛山素行准教授らが地震後に被災地を対象に行った調査(回答数543世帯)では、46%の世帯が家具を金具で固定するなど、何らかの転倒防止策をとっており、07年に実施した全国調査の平均27%を上回った。

また、懐中電灯やろうそくを用意していた世帯は67%で、全国平均(74%)より低く、東海地震による被害想定を見ることがある人は、割増に過ぎなかった。牛山准教授は今回の調査について「他県に比べて『備え』の実施率が飛び抜けて高いわけではない」という。

では、なぜ備えは進まないのか。日本大学の中森広道教授が静岡市で行った調査(回答者367人、複数回答可)によると、「金銭的な余裕がない」(38%)、「時間的な余裕がない」(31%)、「賃貸住宅なので難しい」(22%)が目立った。

一方、今回の地震をきっかけに、家具の固定・転倒防止を「徹底した」と答えた人が2割強、「近いうちに行う」とした人が割以上いた。中森教授は「家具の固定に比べると、テレビや電子レンジなどの落下防止を図っている世帯は少ない。今回の地震は室内全体の対策を進める好機だ」と訴える。

新たな課題も浮かび上がった。民間調査会社「サーベイリサーチセンター」が被災地を対象に行った調査(回答数692人)では、今回の地震で困ったことのトップは「携帯電話がかかりにくくなった」の36%だった。調査を監修した田中淳・東大総合防災情報研究センター長は「大きな地震になるほど携帯電話は通じないと考えた方がいい。災害伝言サービスの利用や、家族であらかじめ待ち合わせ場所を決めておくなどの必要がある」としている。(大久保泰)

平成20年7月3日



緊急地震速報…どう備えた？

情報収集 ■ 子どもら保護 ■ 火の始末

岩手・宮城内陸地震で、仙台・1割余りが、強い揺れが来る台、盛岡、福島市の市民の1前に気象庁の緊急地震速報を

地震情報でラジオやテレビを知らなかった	47人
ラジオやテレビを見た	40人
地震発生直後、戸を開けた	18人
家族や周囲の人に知らせた	17人
子どもや老人、病人を保護した	13人
火の始末をした	12人
家具や物を押さえた	11人
安全な場所へ逃げた	9人
家や建物の外に出た	6人
丈夫なものにつかまって	3人
車を支えた	3人
バイクを止めていた	3人
その他	6人
何もしなかった(できなかった)	8人
無我夢中で覚えていない	2人
サーベイリサーチ調べ	89人
の複数回答	

聞き、その大半が安全な場所に隠れたり周囲に知らせたりして備えていたことが、総合調査会社の調べでわかった。「サーベイリサーチセンター」がインターネットを使い、3市の683人から回答を得た。揺れが来る前に地震の発生を知らせる緊急地震速報は震源近くでは間に合わないものの、3市は70〜120秒離れており、有効とされる速報を聞いたのは4割にあ

仙台など調査

なる267人。このうち89人(全体の13%)は強い揺れが来る前にテレビやラジオで速報を知った。「何もしなかった」は8人と少なく、大半は「(心構えや身構えをして)様子を見た」「子どもや老人を保護した」「火の始末をした」など揺れに備えた。揺れが来るまでの時間は「10秒以内」が65%。速報は9割近くが「役に立つ」と答えた。今回の地震は、土曜日の朝方の発生。共同研究にあたる東京大学の田中淳・総合防災情報研究センター長は「平日地震が発生したら、会社や職場ではどう速報を伝えるのか考えていく必要がある」と話している。(大久保泰)

平成20年7月5日



システム浸透が課題

緊急地震速報 システム浸透が課題 「揺れ前に聞いた」 仙台など3市で1割

岩手・宮城内陸地震は89人と全体の1割強で気象庁が発表した緊急地震速報について、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」(東京都荒川区)がアンケートしたところ、回答した仙台、盛岡、福島市民計683人のうち、速報を聞いたのは267人で、強い揺れの到達前に聞いた人

今回の速報は、震源地付近では間に合わなかったものの、強い揺れが到達するまで、仙台市で10秒程度、盛岡市で20秒程度、福島市で30秒程度の余裕があったとされる。インターネットを使って6月27日〜7月1日に調査したところ、地震発生時に自宅にいた519人のうち、217人(42%)が速報を聞いた。しかし、建物の外にいた30人では8人(27%)しか聞いていなかった。大手媒体(複数回答)は「テレビ」が8割を超えていた。強い揺れの到達前に

速報を聞いた89人にその後の対応を尋ねると(同)「すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとした」が47人で最も多く、「様子を見た40人」「戸、窓を開けた18人が続く。一方、「安全な場所にかくれたい、身を守ったりした」9人、「丈夫なものにつかまって、身を支えた」3人と、具体的に身の安全を図った人は少なかった。同社担当者は「強い揺れの到達前に速報を聞いた人が少ないなど、システムが十分に生かされていない。自宅外でも聞けるシステム整備のほか、住民に速報を有効活用してもらうようさらなるPRが必要だ」と指摘している。【盛岡徹也】

平成 20 年 7 月 9 日



岩手・宮城内陸地震の「緊急地震速報」について盛岡、仙台、福島三市の市民を対象にしたアンケート結果を民間調査会社がまとめた。速報に接した人の過半数が「テレビなどで地震情報を収集した」と回答するなど、何らかの対応を取った人も多かったが、「大きな地震が来ると思った」と正しく理解していた人は三〇%にとどまった。

緊急速報 理解3割とまり

岩手・宮城地震

調査は「サーベイリサーチセンター」（東京）が六月二十七日～七月一日、三市の成人計六百八十三人を対象にインターネットで実施。三市では大きな揺れの十一・三十秒程度前に速報が流れたとみられる。「速報を見聞きした」と回答した人は三九%の動（複数回答）は「テレビ

盛岡・仙台・福島で民間調査 危険回避行動わずか

じやラジオで地震情報を知ろうとした」が五三%で最多。「火の始末」が一六%、「家具や壊れ物を押さえた」「戸や窓を開けた」がそれぞれ一五%。「安全な場所に隠れたり身を守ったりした」が九%だった。一方、「様子をみた」との回答が二番目に多い三九%、「何もしなかった」も九%あり、とっさの危険回避行動が難しい現実も浮かんだ。

平成 20 年 7 月 28 日



アンケート調査概要（サーベイリサーチセンター調べ）

調査地域	・仙台市（鑑別時間10秒程度）・盛岡市（同20秒程度） ・福島市（同30秒程度）
調査対象	調査地域に居住する20歳以上の男女個人
調査方法	インターネット
有効回収数	683サンプル（仙台市246/盛岡市222/福島市215）
調査期間	6月27日（金）～7月1日（火）

自動的に作動する装置など有効 精度や信頼性に課題残る

4秒後に発表
午前8時43分の地震発生から

54秒後、気象庁の緊急地震速報が発せられた。震度4以上が観測された広い地域で、大きな揺れ（S波）が到達する前に速報が流れた。

一般向けに速報が発せられたのは3例目。最初の2回は観測誤差から地震発生を揺れが「まあ前後に立った」と評価

発生が未明だったため利用者の反応もほとんどなかった。本来の機能を發揮し、多くの利用者が反応できたのは岩手・宮城内陸地震が初めてだ。東北大学災害制御研究センターの今村文彦教授は「直下型地震でも、きちんと機能すれば緊急地震速報が有効であることが分かった」と評価する。震度5弱を観測した宮城県大衡村の「宮城沖電文」では、S波到達の11・6秒前に速報を受信し、3・3秒前に緊急停止装置が作動した。工場や病院、交通機関などで、人の判断を待たずに自動的に作動するシステムは非常に有効。震源直前で速報が揺れに間に合わない場合でも、被害を食い止める効果はある」と今村教授は分析する。

「役立った」55%
一般向け速報を利用する住民の反応はどうだったか。東京都荒川区の調査会社「サーベイリサーチセンター」が、仙台、盛岡、福島の3市の市民にインターネットで行ったアンケート調査（図参照）によると、緊急地震速報を「見たり聞いたりのしたのは全体の39%。そのうちの14%が「非常に役に立った」、41%が「まあ役に立った」と評価する。

「役に立った」55%
この地震では家屋の倒壊被害は少なかったが、大規模な地滑りや土石流に多くの人が巻き込まれた。津波工学が専門の今村教授は「地震の後に来る土砂災害や津波は、避難場所を前もって考えておけば避けられる可能性があるが高い。緊急地震が出たとする揺れを感じたときに、一瞬でも早く地震発生を伝えることが使われる緊急地震速報にとって「2秒の遅れは致命的」（今村教授）だ。緊急地震速報の、地デジ対応は今後の大きな課題となる。

「1秒でも早く地震発生を伝えることが使われる緊急地震速報にとって「2秒の遅れは致命的」（今村教授）だ。緊急地震速報の、地デジ対応は今後の大きな課題となる。

平成 19年 8月 15日



「安全確認まで稼働イヤ」6割 民間会社が住民アンケート

新潟県中越沖地震で東京電力柏崎刈羽原発が受けた被害について、被災住民の8割が「非常に重大なこと」と受け止めていることが、民間調査会社による現地調査でわかった。以前は原発に賛成だったのに反対に変わった人も3割おり、安全が確認されるまで再開すべきでないとした人が6割を占めた。トラブルが相次いだ原発への不信の大きさを裏付けた形だ。

サーベイリサーチセンター(東

京都)などが7月28日から8月3日、柏崎市で500人を訪ね、アンケートした。原発を襲った想定外の揺れについて82%、地震後に起きた放射能漏れについて81%、変圧器の火災について76%が「非常に重大なこと」と受け止めていた。

原発の問題点を複数回答で尋ねたところ、「下に活断層があること」「トラブルが多すぎることをそれぞれ63%、「東京電力の報告・情報伝達が遅すぎることを62%

が挙げた。

原発への賛否では「賛成だったが、反対する気持ちに変わった」が34%、「賛成に変わりない」は21%。以前から反対の人は39%で、地震を境に賛否が逆転した形になっている。

複数回答で原発の被災へのとらえ方を聞くと、安全性に疑問を持ち「廃止すべきだ」としたのが27%、「確認されるまで稼働すべきではない」が60%だった。

平成 19年 8月 16日



原発の安全性

「疑問」89%

新潟県中越沖地震の被災者を対象に民間調査会社を実施したアンケートで、「今回のような大地震が起きるとは思わなかった」と83%の人が回答したことが15日、分かった。原子力発電の安全性に疑問を抱いている人は89%にのぼった。

「サーベイリサーチセンター」(東京都)が7月28日～8月3日、新潟県柏崎市の住民500人から聞き取り調査した。地震への意識についての質問に「自分の居住地域は安全と思っていた」人は地震前は61%だったが、地震後は19%となった。

平成19年4月8日



能登半島地震 「予想外」8割 住民500人を調査

3月末の能登半島地震の体験者のうち、大きな地震がこの地域で起こるとは思っていなかった人が8割を占めていることが、民間調査会社のインターネット調査でわかった。7割が家具の固定をしておらず、地震が少ないとされてきた地域の危機感の薄さが改めて浮き彫りになった。

サーベイリサーチセンター（東京都荒川区）が地震直後の3月29日から4月2日まで、石川、富山両県で震度5弱以上を記録した市町村にいる登録者504人にネットを通じてアンケートした。この地域で大地震が起きると「思っていた」のは4%、ある程度思っていた」のは15%に過ぎず、「あまり思っていなかった」は44%、「全く思っていなかった」は38%だった。家具を固定していないと答えたのは74%。備えが不十分だったと思う人は9割に達した。

平成19年5月9日



地震中、67%が「何もできず」 能登で住民アンケート

能登半島地震で民間調査会社が住民を対象に実施したアンケートで、地震発生中に「様子を見ていた」「動けなかった」など約六七%の人が事実上、何もできなかったと回答していることが分かった。

調査は「サーベイリサーチセンター」（東京）が地震直後の三月二十九日―四月二日、石川、富山両県で震度5弱以上の揺れを記録した市町村に住む同社の登録者五百四人に、インターネットを通じてアンケートした。

「地震発生中にできたこと」の質問に「じっと様子を見ていた」との回答が最多の四八・六%、「動けなかった」が一一・五%、「何もしなかった」が七・一%で計六七・二%。震度6強だった地域では「動けなかった」が二六・四%に達した。

平成20年4月26日



三宅島空路再開 羽田から第1便

噴火の影響で00年8月を最後に運休していた羽田―三宅島間の定期航空便が26日、7年8カ月ぶりに再開した。午前11時51分、平野祐康・三宅村長ら乗客53人を乗せたプロペラ機が羽田を出発し、午後0時40分、三宅島空港に到着した。出発前、羽田空港内では記念式典も開かれた。

「緊急時にも安心」
島民の意識調査
三宅島の住民は空路再開に

「東京と近くなる」「緊急時にも安心」と期待を寄せながらも、島の復興や将来の見通しにはいままも強い不安を抱いていることが、民間の調査会社の意識調査で分かった。

サーベイリサーチセンター（東京）が19、23日、帰島住民627世帯を訪問して調べた。空路再開には76・3%が「期待している」と答え、「期待していない」の23・6%を大きく上回った。「東京との時間が短縮される」（77・8%）、「急病などの緊急時でも安心感が持てる」（56・5%）などの理由が多い。一方、現在の不安では「火

山ガスの発生」が60・1%で最も多く、次いで「自分や家族の健康」の51・8%、「島の人口の減少」の50・2%。三宅島では05年に住民の帰島が始まった。意識調査も同年に始まり、今回が4回目。
（鈴木彩子）

平成20年4月30日



三宅島民アンケートで浮き彫り

「帰島して良かった」76%だが…

火山ガス 復興に影

噴火災害からの復興を目指す伊豆諸島・三宅島（三宅村）の島民アンケートで、現在の復興状況を「満足」「不満」とする回答が、ともに30%余りで拮抗していることが二十八日、分かった。具体的には、道路整備への満足度が74%に上る半面、医療機関・医療設備に対する不満度が51%と高かった。

現況には「満足」「不満」とも3割

アンケートは、荒川区内の民間調査会社サーベイリサーチセンターが今月十九、二十三日、島内の全世帯を訪問して実施。噴火前からの居住世帯を対象に、六百二十七人から回答を得た。現在の不安として多く挙げたのは「火山ガスの発生」60%、「自分や家族の健康」52%、「島の人口の減少」50%の順。復興を実感できる条件を尋ねたところ、「（火山ガスによる）立ち入り規制の解除」との回答が35%で最も多かった。二〇〇五年の帰島開始から四年目に入った今も、放出の続く火山ガスが、島の復興に影を落としている。再開されたばかりの羽田空港との定期航空便にも、76%が「期待」する一方、ガスの状況次第で欠航という懸念がつきまとう。そうした喜りしの中でも、「帰島して良かった」との回答は76%を占めた。理由のトップには「慣れ親しんだ海や山の景色」（67%）が挙がり、島への愛着を裏付けている。

平成20年5月3日



所要時間の短縮／緊急時の安心感／観光客増

00年の噴火災害から約7年8カ月ぶりに、4月26日に再開された三宅島(三宅村)と羽田空港を結ぶ航空路の定期便について、帰島した住民の7割強が期待感を示していることが、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」(荒川区)が実施したアンケートで分かった。【木村健二】

島民アンケート

空路の再開について、△期待している(45%)▽ある程度は期待している(31.3%)で、計76.3%が期待感を示した。理由(三つまで)として「東京との距離が短縮される」(77.8%)が下期待してない(3)

羽田空港—三宅島定期便

7割強が期待感

の計23.6%が期待が持てないとの回答だった。理由は「気象状況で欠航が多い」(59.5%)が最も多く、火山ガスの影響が少ない東風の日に限った運航条件が不安感につながったとみられる。島への集客策(三つまで選択可)では、一定の航空便を1日2便に増やす(50.6%)が最多で、一層の空路拡充を期待する住民の意識が表れた。昨年11月には石原慎太郎知事の発案でオートバイの

運航条件に不安感も

祭典が開かれたが、『オートバイレース』など各種の施策を定着させ、成功させる」は25.4%。開催前に行った前回調査の同種の回答より8.9%上昇した。噴火前を100%とした場合の経済状況の平均は67%で、依然として厳しい生計がアンケートは帰島直後の05年4月から毎年実施され、今回が4回目。4月19、23日に調査し、627世帯からの回答を得た。

防災、防災計画関係の実績一覧

平成 21 年 7 月

防災

阪神・淡路大震災に関する調査<第1回目>	自主企画調査	7年	緊急地震速報の効果的な利活用に向けたアンケート調査	(財)日本気象協会	19年
阪神・淡路大震災に関する調査<第2回目>	自主企画調査	7年	災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独)防災科学技術研究所	14年
阪神・淡路大震災に関する調査<第3回目>	自主企画調査	9年	水害ハザードマップ調査	(独)防災科学技術研究所	15年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年	福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査	(独)防災科学技術研究所	15年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年	名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独)防災科学技術研究所	16年
H15 宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	15年	新潟豪雨についての住民アンケート	(独)防災科学技術研究所	16年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15年	東京都民の災害に関するアンケート調査	NHK報道局	14年
H17 宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	17年	新潟豪雨災害に関する住民調査	NHK報道局気象災害センター	16年
福岡県西方沖地震についての住民調査	自主企画調査	17年	震災5年後意識調査	NHK大阪局	11年
三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	17年	阪神淡路大震災に関する住民意識調査	NHK神戸局	16年
三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	18年	東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	NHK放送文化研究所	12年
能登半島地震に関するアンケート調査	自主企画調査	19年	有珠山避難者アンケート調査	NHK放送文化研究所	12年
第3回三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	19年	新潟県中越地震に関する住民調査	NHK放送文化研究所	16年
新潟県中越沖地震に関する調査	自主企画調査	19年	地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
第4回三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	20年	新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震に関する調査	自主企画調査	20年	津波避難推進に係る調査	NPO環境防災総合政策研究機構	19年
東海地震の情報体系と対応に関する住民意識調査	内閣府	16年	市町村における住民向け防災広報に関するアンケート調査	消防研究センター	18年
公共施設等の耐震改修状況調査	消防庁	15・17・19・20年	市町村における降雨災害時の住民向け対応調査	消防研究センター	18年
消防庁危機管理演習(震災対策)参加者アンケート	消防庁	16年	消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10年
日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災体制の現状および課題に関する調査	消防庁	18年	消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11年
気象情報に関する満足度調査	気象庁	13~17年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16年
気象予報士についての現況調査	気象庁	16年	災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13年
新潟県中越地震の地震動向調査	気象庁	16年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13年
防災気象情報の満足度に関する調査	気象庁	18年	自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13年
緊急地震速報の認知度に関する調査	気象庁	19年	広域連携についてのアンケート調査及び災害NPOアンケート調査	朝日新聞社	14年
天気予報に関する満足度調査	気象庁	19年	阪神・淡路大震災8年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14年
新潟県中越地震に関する調査	茨城大学	18年	自治体復興・被災者支援制度アンケート調査	朝日新聞社	17年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査	埼玉県	15年	旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14年
防災に関する世論調査	東京都	17年	十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15年
市町村防災研修事業に資するためのアンケート	(財)消防科学総合センター	18年	家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財)河川情報センター	11年	水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16年
集中豪雨による水害についての住民調査	(財)河川情報センター	17年	帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10年
砂防施設計画検討調査	(財)砂防・地すべり技術センター	11年	大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10年
浅間山噴火についての住民アンケート	(財)砂防・地すべり技術センター	16年	平成10年8月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10年
台風14号地すべり災害についての住民調査	(財)砂防・地すべり技術センター	17年	河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12年
平成18年7月豪雨による土砂災害警戒避難に関する調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年	東海村臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11年
桜島島民の防災意識に関するアンケート調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年	東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11年
活断層長期予測デルファイ調査	(財)地震予知総合研究振興会	12年	防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11年
地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査	(財)地震予知総合研究振興会	17年			
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財)日本気象協会	12・13年			
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査	(財)日本気象協会	15年			
富士山噴火情報についての自治体調査	(財)日本気象協会	5年			
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査	(財)日本気象協会	16年			

災害写真データベース作成	東京大学	12年	原子力事業者アンケート調査	東洋大学	18年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年	旧山古志村復興意識調査	東洋大学	18年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12年	原子力に関するアンケート調査	東洋大学	19年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年	観光地災害ヒヤリハット調査	常磐大学	18・19年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13年	緊急地震速報に関する学生アンケート調査	日本大学	18年
「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13年	災害報道内容分析	日本大学	18年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	一人暮らしの若者の防災意識調査	日本大学	18年
BSE（狂牛病）についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	青年の防災意識・対策についてのグループインタビュー	日本大学	19年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	緊急地震速報WEB調査	日本大学	19年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14年	「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14年	災害弱者に関する調査	文教大学	10年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14年	防災についてのアンケート調査	文教大学	10年
自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査	東京大学	14年	事業所防災調査等業務	新宿区	19年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14年	集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査	世田谷区	17年
2003年5月宮城県沖を震源とする地震住民調査	東京大学社会情報研究所	15年	街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析	東京大学社会情報研究所	15年	東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13・17年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査	東京大学社会情報研究所	15年	地域防災アンケート	静岡県	10・14・15年
宮城県北部地震に関するアンケート	東京大学社会情報研究所	15年	防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査	静岡県	15年
富士山噴火についての住民意識調査	東京大学社会情報研究所	15年	防犯まちづくりアンケート調査	静岡県	15年
富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15年	東海地震県民意識・企業防災実態調査	静岡県	17・19年
東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15年	静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財)静岡総合研究機構	13年
平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16年	市町村消防団実態調査	愛知県	18年
「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16年	市町村の消防の広域化に伴う調査分析	愛知県	19年
民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16年	津波浸水予想図印刷	二見町	17年
新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16年	災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学	18年
安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	14～16年	災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学デザインセンター	17年
北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14年	復興住宅アンケート調査	関西学院大学	19年
苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15年	新潟中越地震被災者調査集計	関西学院大学	19年
救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16年	災害復興住宅居住者意識調査（集計）	関西学院大学	19年
台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査	東洋大学	16年	家屋等の耐震化に関する住宅調査	(財)人と防災未来センター	14年
東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16年	東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査	(財)人と防災未来センター	16年
新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16年	風水害時における自治体の災害対応に関する調査	(財)人と防災未来センター	16年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	17年	被災地の現在の都市状況に関する調査	(財)人と防災未来センター	19年
山古志村の復興に関する住民意識調査	東洋大学	17年	災害対策専門研修に関する調査	(財)人と防災未来センター	19年
福岡県西方沖地震グループインタビュー	東洋大学	17年			
インターネットと携帯電話に関するアンケート	東京大学	18年			
子供の安全と災害に対する意識調査	東京大学	18年			
地震時の地域防災に関するアンケート	東京大学	18年			
救急医療と通信システムについての災害拠点病院アンケート調査	東洋大学	18年			
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	18年			
首都圏における通信行動についての住民アンケート調査	東洋大学	18年			

防災計画

地域防災計画修正	騎西町	17年
地域防災計画	西桂町	18年
地域防災計画	忍野村	18年
地域防災計画	鳴沢村	18年
地域防災計画修正	掛川市	12年
掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定	掛川市	16年
伊豆市地域防災計画	伊豆市	16年
地域防災計画修正	伊豆長岡町	14年
地域防災計画修正	土肥町	15年
地域防災計画	榛原町	8・13年
地域防災計画修正	榛原町	14年
地域防災計画修正	吉田町	12年
地域防災計画策定	安曇野市	18年
地域防災計画策定	中津川市	17年
地域防災計画策定	伊豆の国市	17年
特殊災害救助活動計画策定	愛知県	18年
消防広域化推進計画策定	愛知県	19年
地域防災計画策定	東郷町	13・14年
職員初動マニュアル作成	東郷町	14年
防災マップ作成	東郷町	14年
避難誘導計画策定	東郷町	17年
地域防災計画策定	西春町	15年
防災新聞作成	西春町	15年
地域防災計画等修正	甚目寺町	14・15年
防災に関する講演会	甚目寺町	15年
洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16年
新市地域防災計画策定	津市	17年
地域防災計画策定	いなべ市	17年
地域防災計画	伊賀市	17年
住民災害対策活動マニュアル作成	多気町	19年
自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15年
職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15年
津波ハザードマップ作成	御園村	17年
地域防災計画	江津市	17年
地域防災計画改定	早島町	18年
防災マップ作成	鏡野町	18年
防災対策アクションプラン策定	三原市	18年
地域防災計画修正	三原市	19年
地域防災計画	中土佐町	18年

国民保護計画

国民保護計画策定	加美町	18年
国民保護マニュアル	中井町	19年
国民保護計画策定	上野原市	18年
国民保護計画策定	西桂町	18年
国民保護計画策定	忍野村	18年
国民保護計画策定	鳴沢村	18年
国民保護計画策定	関市	18年
国民保護計画策定	輪之内町	18年
危機管理マニュアル	藤枝市	19年
国民保護計画策定	御殿場市	18年
国民保護計画資料編作成	裾野市	19年
国民保護計画策定	七宝町	18年
国民保護計画策定	美和町	18年
国民保護計画策定	大治町	18年
国民保護計画策定	四日市市	18年
国民保護計画策定	湖南市	18年
国民保護計画策定	東近江市	18年
国民保護計画策定	東大阪市	18年
国民保護計画策定	奈良市	18年
国民保護計画策定	津山市	18年
国民保護計画策定	鏡野町	18年
国民保護計画策定	三原市	18年
国民保護計画策定	東広島市	18年
自治基本条例	世羅町	18年
住民自治基本条例	茅ヶ崎市	19年
自治基本条例	箱根町	18年
自治基本条例	大井町	19年

駿河湾を震源とする地震に関する調査

平成 21 年 10 月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL 03-3802-6711 (代)

FAX 03-3802-6730

(社会情報部) 〒114-0014 東京都北区田端 1-25-19

TEL 03-5832-7061

FAX 03-5832-7060

本書の記載内容の無断転載を禁ず。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、

社会情報部 中島宛 (E-mail : naka_r@surece.co.jp) にお申し出下さい。



株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581
TEL: (03) 3802-6711 (大代表) / FAX: (03) 3802-6730

田端事務所
東京都北区田端1丁目25番19号 〒114-8519
TEL: (03) 5832-7061 (代) / FAX: (03) 5832-7060

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802
TEL: (022) 255-3871 (代) / FAX: (022) 225-3866

静岡事務所
静岡市葵区追手町8番1号 〒420-0853
TEL: (054) 251-3661 (代) / FAX: (054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002
TEL: (052) 561-1251 (代) / FAX: (052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011
TEL: (06) 4801-9231 (代) / FAX: (06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市北区大供2丁目1番1号 〒700-0913
TEL: (086) 226-8031 (代) / FAX: (086) 226-8030

広島事務所
広島市中区幟町13番14号 〒730-0016
TEL: (082) 227-7511 (代) / FAX: (082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047
TEL: (087) 811-2671 (代) / FAX: (087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前4丁目4番21号 〒812-0011
TEL: (092) 411-8811 (代) / FAX: (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>